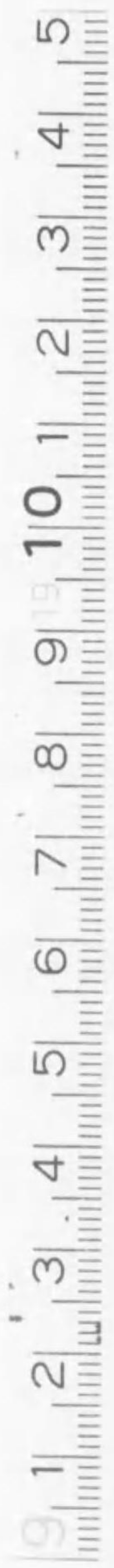
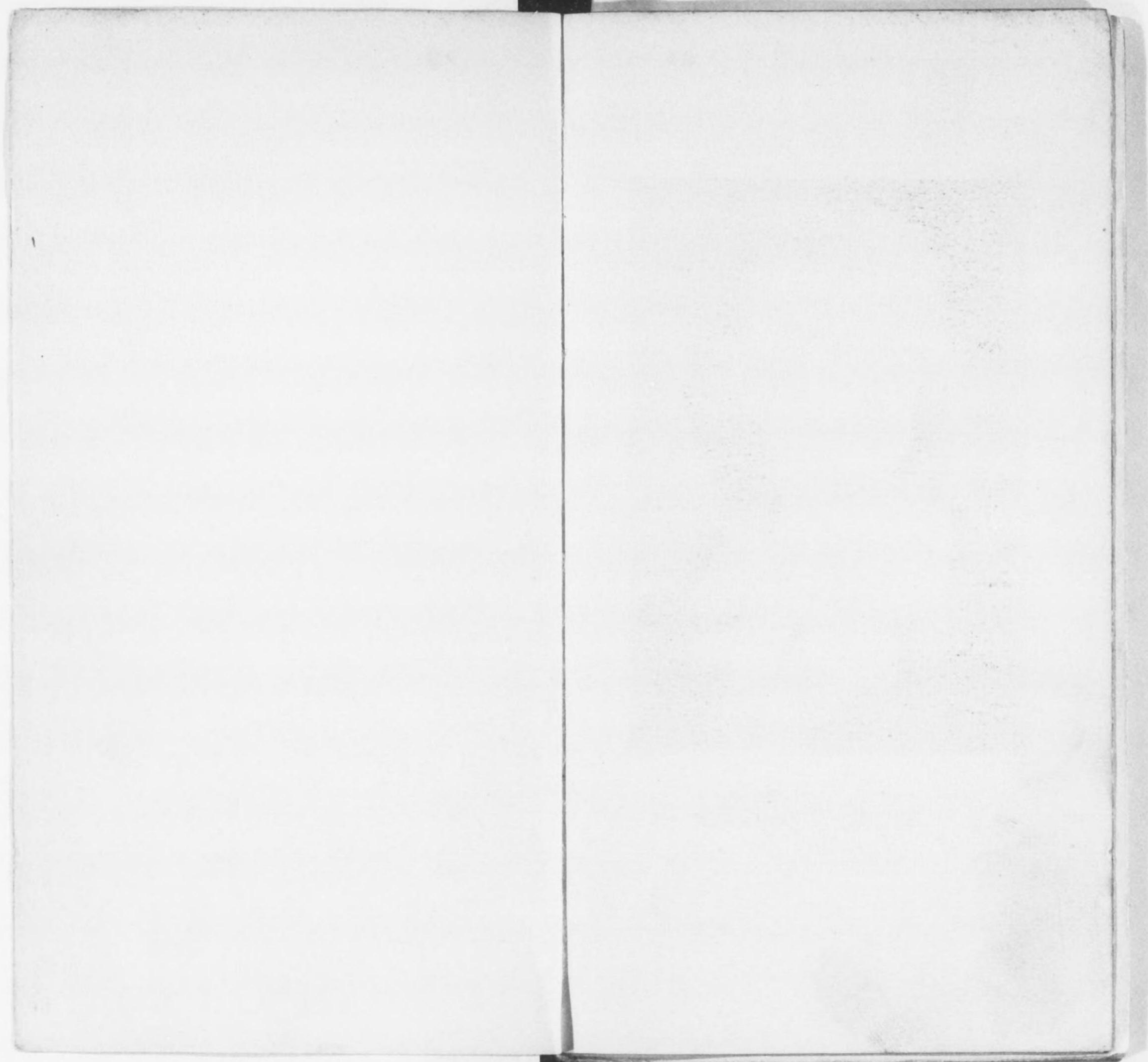


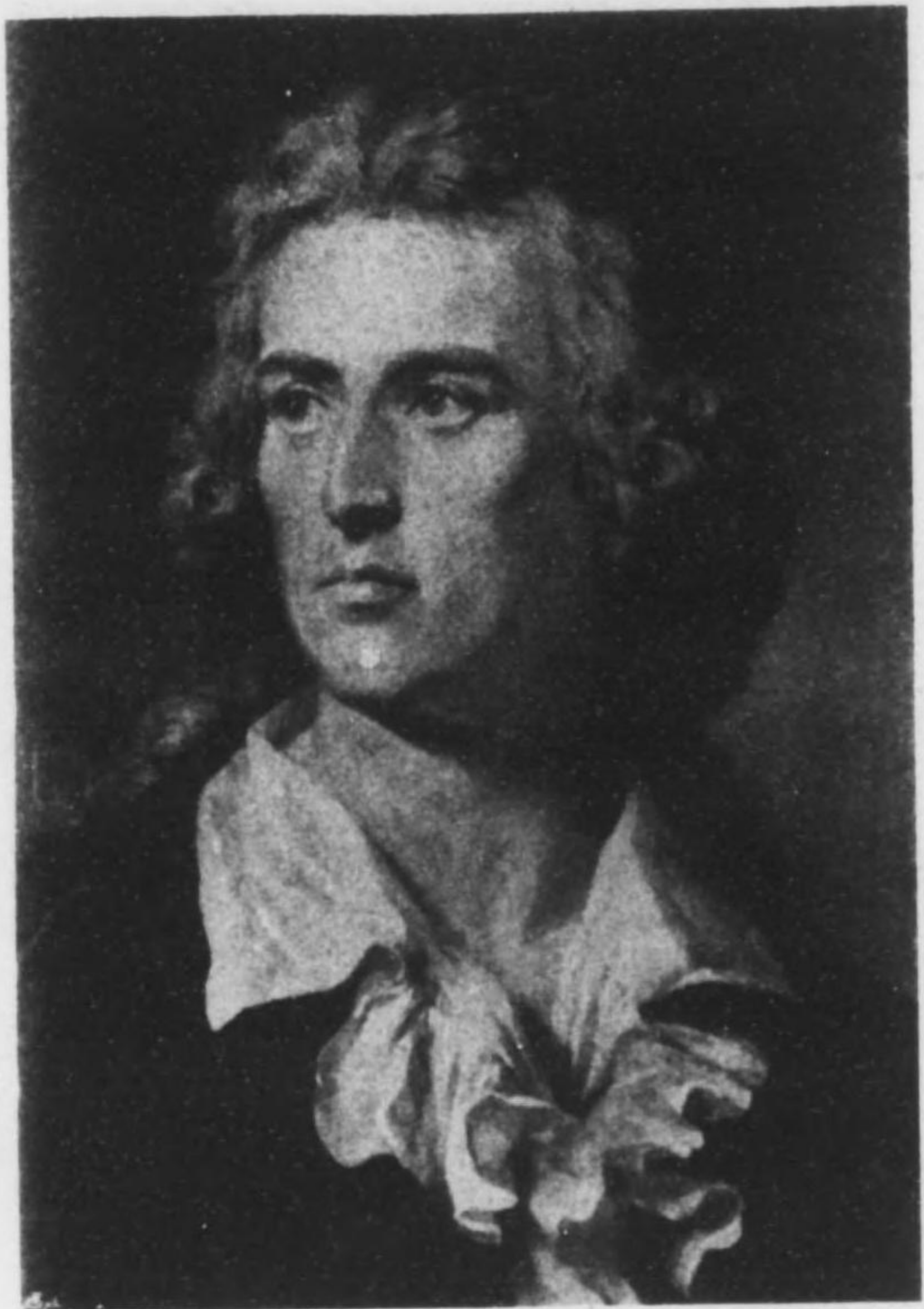
始




323

464





Lindsay Phillips.



Friedrich von Schiller

Der Geisterseher

Übersetzt und erläutert

von

M. Sakuma

TOKYO
VERLAG VON IKUBUNDO
1927



323-464

譯 註 者 序

1. 本譯註書の内容は、Schiller の小説 „Der Geisterseher“ の第一卷の四分の三程の分量である。そして此分量の定め方は、Heath 版の „Der Geisterseher“ に依つた。

2. 原文の綴字・語法は出来得るだけ現代的にした。譯文は對譯書の本質上、原文の一語をも忠實に譯出しなければならなかつたので、流麗暢達といふ點に於て、少なからざる犠牲を拂つたことを、譯註者自身に於て認めて居る。

3. 本書を作成するに當つて用ひたる参考書目は次の通りである。

Schiller's Early Dramas and Romances (Bohn's Standard Library.)

Schiller: Der Geisterseher (Cotta'sche Klassiker-Ausgaben.)

Schiller: Der Geisterseher (Heath's Modern Language. Edited by Edward S. Joynes.)

Schiller: Der Geisterseher (Edited by Charles Merck, Hachette & Company.)

其他である。

4. 各節の別け方は、脚註の都合を基として、譯註者が隨意に取りきめたもので、原作にはかゝる區分はしてない。

昭和二年七月下旬

仙臺に於て

佐久間政一識

解 説

『見靈者』は Schiller が主幹となつて発行した雑誌 „Thalia“ に、1787 年から 1789 年にかけて掲載された小説である。

1789 年、Leipzig の Georg Joachim Göschen から、これまで公表された部分が、„Der Geisterscher. Eine Geschichte aus den Memoires des Grafen von O**.“ と云ふ名前で刊行された、次の版は 1792 年、其次ぎの版は 1798 年に刊行された。此時 Schiller は、この小説を未完結の状態に放置しやうと決心したので、従來の版を校訂修正し、『修正第三版』と稱して、同じ書肆から刊行したのであつた。

この小説の目ざすところは、開卷劈頭に著者自らが述べて居るとほり、『多くの人々には、信じがたく見えるであらうところの或事件』に對する心理的・内面的の解答であり、『人心の迷妄と誑詐との歴史』に對して『一個の貢獻』であらうとする事に在る。(但し極めて嚴重に云ふと、極々當初の著者の意圖は、必らずしも、かう高尚なるものでもなかつたらしい。) 一物語の中心をなす一公子は、元來簡朴・誠實な人物ではあるけれど、充分なる教養と正しく訓練されたる信仰とを缺如するが故に、全く計畫的に組み立てられたる陰謀の一序列にひつかゝつて、漸次に迷信に陥り、遂には懷疑と不信仰とを經由して、道德的の無

分別と宗教的の倒錯とに到達し、延いては政治的に或事變を惹起するに至るのであるが、原作者はこの心的過程の推移の跡を^{おほ}發き示すと共に、かゝる人物が有する生れながらの高貴性は、明確なる理想や牢乎たる主義によつて保護せられざる限り、遂には悪辣なる奸計の好個の餌食たるに止まるものであることを教示しやうとしたのであつた。

惟ふに當時の世相はこの解説には最も良く適して居たであらう。この時代こそは、迷信と懷疑との交錯せる時であり、道德的の頹敗は、到るところに擴がれる時期であつた。Rosenkreuzによつて創められた(1484)薔薇十字會、又は Weishauptによつて創始され(1776)た秘密會などの如き神秘教・鍊丹術乃至は魔法の如きものが、なほ昌んに歐州の人心を支配して居て、従つてまた譎詐狡猾なる魔術師・方術士・降靈術者など一例へば Cagliostro, St. Germain, Gassner, Kausmann の如き輩一が、隨所に出沒して、無智輕信なる人心に作用し、かくして今や遂に上流社會にとつても、下層階級にとつても、いかなるものが、妄誕であり、いかなる事が、瀆神的であるかが、ほとんど全く解らなくなつたのであつた。

然るに他方にはまた、懷疑哲學の自由思想的な運動が擡頭し初め、一切の權威に對する反抗の氣運が到るところに勃興して、今やそのあまりに尖鋭なる氣鋒を、佛國革命に於て現はすべく用意しつゝあつたのである。この兩極端が一即ち甚しい迷信と無信仰とが一當時の人々の心のう

ちで、如何なる方法に於て邂逅するか、そしてこれらのものは、また如何に各人の道義心を擾亂するかと云ふ問題が、今やシラアの如く明敏にして深遠なる思想家の頭腦を捉へたのも、敢へて異とするに足りない状況であつた。事實、當時彼及彼の友人はかゝる問題について種々考究し、また論議したのであつた。

『見靈者』の構想が、よし全部的でなくとも、其大體に於て、假作的であることは、疑ひを容れない。卷頭の一節は、之に反する事を暗示してゐるやうに見えるけれど、此暗示を肯定し保證する何等の事實も、作の完成された部分には示されてゐない。主人公たる公子のモデルは、Württemberg の Herzog (1733-1777) で、武名赫々たりし Karl Alexander であるとも云はれて居るが、それとても眞の事實よりも、むしろ或唆示を與へたに過ぎない。當時既にその名聲の頂點を過ぎた有名にしてまた不詳判なる Cagliostro (1743-1795) の經歷は、より重要な援助を、この作に與へたやうに見える。一萬七千人の臣民を、北米出征軍に使用せしむべく英國に賣却して、自らの首都を莊麗にしたと傳へられる Hessen-Kassel の Landgraf Friedrich II (1760-1785) の事蹟も、或關係を有すると云はれてゐるが、それらの研究は、今本書を読むに當つての必要事ではない。要するに全篇を一個の假作と考へれば、それで事足るのである。

シラアは、この小説の第一卷 (Erstes Buch) と第二卷

(Zweites Buch) とを書いたが、彼れの當初の計畫に依れば、この二冊が第一部をなすもので、第二部に於ては、陰謀の範圍が、政治的の方面に移さるべき筈であつた。かくして『續く各部は、第一部に缺如するところのすべての興味を、それ自らのうちに於て統合するだらう』と、彼自ら千七百九十年 (11. September 1790) に彼れの義妹に告げて居る。

然しながら、上に述べたとほり、此計畫は既に中道で挫折した。Schiller が何故に、この一般からは歓迎せられ、且つ成功を収むべき見込の豊かであつた小説を、途中で放棄したかの理由は、十分に知られてはゐない。傳ふるところに依ると、彼れの執筆の目的が、道徳的方面の解説に存せるにも拘らず、一般人はその興味を、物語そのもの、並びに、彼が第二次的だと考へた怪奇なる事件のうちに有するので、彼はその作の主要にして且つより高い目的に於て、自らの期待の裏切られたことを感じ、その結果、殆んど何等の遺憾なくして、作をつゞける事を斷念したのだと云ふ。しかしこの見解が、どれ程正しいかは、明確には解らない。免に角、當時既に、より大なるそしてより詩的な題材に對して感興を湧しつゝあつたシラアは、かゝる散文的な作を繼續すべく倦怠を覺えたのは、確かである。

この作の文章は、簡潔で解し易く、語法は力強く、スタイルは完成されてゐるので、同時代人にも、極めて快い感銘を與へたし、後年になつては、諸外國に於て、獨逸語の

教科書として愛用された。わが邦でも、可なり早くから、各學校で使用されて來た。

— Cotta, Heath, Hachette 版其他を参照した。 —



Schiller:

DER GEISTERSEHER

Aus den Papieren des Grafen von O**.

シ ラ ア:

見 靈 者

フォン・オー**伯の手記より、

GEISTERSEHER

1. Ich erzähle eine Begebenheit, die vielen¹ unglaublich scheinen wird, und von der² ich größtenteils selbst Augenzeuge war. Den wenigen,¹ welche von³ einem gewissen politischen Vorfalle unterrichtet sind, wird sie⁴ — wenn anders⁵ diese Blätter⁶ sie noch am Leben finden — einen willkommenen Aufschluß⁷ darüber geben; und auch ohne diesen Schlüssel wird sie den übrigen, als ein Beitrag zur Geschichte des Betrugs und der Verirrungen des menschlichen Geistes, vielleicht wichtig sein. Man wird über die Kühnheit des Zwecks erstaunen, den die Bosheit zu entwerfen und zu verfolgen imstande ist; man wird über die Seltsamkeit der Mittel erstaunen, die sie aufzubieten vermag, um sich dieses⁸ Zwecks zu versichern. Reine, strenge Wahrheit wird meine Feder leiten; denn wenn diese Blätter in die Welt treten, bin ich nicht mehr, und werde durch den Bericht,

1. 1. vielen は vielen Menschen (od. Leuten) の義、den wenigen は den wenigen Menschen (od. Leuten) の義。2. von der の der は Begebenheit につく 關係代名詞。3. von etwas unterrichtet sein 政事を知つて居る、ein gewisser Vorfall (〔英〕 a certain event) 或事件。4. sie=Begebenheit。5. wenn anders (〔英〕 if, provided that) もし……ならば、anders

見 靈 者

一、私は或出来事——それは多くの人には、信じられぬやうに思はれるであらうが、それについては、私自身が、大部分まで、實見者であつたところの或出来事を、物語るのである。或政治上の事件を知れる僅かの人たちには——若しこの紙片が、彼等をなほ在命で發見するならば——該出来事は、この事件について、歡ばるべき説明を與へるであらう。またこの解説がなくとも、それは他の人々には、人心の譎詐と迷錯との歴史への一貢獻として、恐らく重要であるであらう。悪心がそれを企て、またそれを追及し得る目的の大膽な事について、人々は驚くであらうし、又該目的を確かに達せんがために、この悪心が、提供し得る手段の珍奇な事についても、驚くであらう。純粹で嚴正な眞實が、私の筆を導くであらう、何となれば、この紙片が世間に出る時には、私はもう此世に居ないで、は假定の意味をつよめる丈けである。 6. Blätter 書いた紙片、云ひ換へれば、此文章; sie=die wenigen 上に述べた「僅かな人たち」。7. einen Aufschluß über etwas geben 或事について或説明を與へる。8. sich versichern 「確有する」は二格の補足語を取る、dieses Zwecks がそれである。

den ich abstatte, weder zu gewinnen noch zu verlieren haben.

2. Es war auf meiner Zurückreise nach Kurland¹ im Jahr 17**² um die Karnevalszeit, als ich den Prinzen³ von **⁴ in Venedig besuchte. Wir hatten uns in **schen Kriegsdiensten kennen lernen⁵ und erneuerten hier eine Bekanntschaft, die der Friede unterbrochen hatte. Weil ich ohnedies wünschte, das Merkwürdige dieser Stadt zu sehen, und der Prinz nur⁷ noch Wechsel erwartete, um nach **⁸ zurückzureisen, so beredete er mich leicht, ihm Gesellschaft zu leisten und meine Abreise so⁹ lange zu verschieben. Wir kamen überein, uns nicht voneinander zu trennen, solange unser Aufenthalt in Venedig dauern würde, und der Prinz war so gefällig, mir seine Wohnung im Mohren¹⁰ anzubieten.

3. Er lebte hier unter dem strengen Inkognito, weil er sich selbst¹ leben wollte und seine geringe Apanage² ihm auch nicht verstattet hätte,³ die Hoheit seines Rangs zu behaupten.

2. 1. Kurland は今は露國、當時は獨立の公國であつた。2. 17** は普通、siebzehnhundert und..... と讀む。Prinz 親王公子等の義で、公爵を指すのではない；公爵は Fürst である；例へば伊藤公は Fürst Ito で、Prinz Ito ではない。英語と混同してはいけない。4. von** は von so und so と讀む。5. in** schen は in xschen と讀む。6. sich kennen lernen 互に知り合ふ。7. nur noch 此上はたゞ云々丈けなので。8. nach ** は nach

あらう、そして私がなす報告によつて、私は何等の得るところも、何等の失ふところもないであらうから。

二、私がなにがしの公子を、ヴェニスに訪れたのは、千七百何年かの謝肉祭の折で、クールラントへの私の歸り途に於てであつた。われわれは、それがしの軍務で知り合ひになつたのであるが、(其後) 平和が中斷したところの交誼を、此地で新にしたのであつた。さなきだに私は、此町の見物すべきものを見やうと願つて居たし、公子もたゞ、某地へ歸り旅をする爲に、爲替(の到着)を待つだけであつたので、彼は私が彼の相手をして、私の出立を、その時まで延ばすやうに、たやすく私を説き伏せたのであつた。われらは、ヴェニスに於けるわれらの逗留が續く間、互に離れまいと協定した、そして公子は『モーレン』に於ける彼自身の住居を、私に提供する程に親切であつた。

三、彼は獨りで暮さうと思つたが故に、そして彼の僅かな年金は、彼れの階級の尊嚴を保つ事を彼れに許さなかつたので、彼は嚴重な匿名のもとに、この地で生活した。

X と讀む。9. so lange 爲替が届くまで。10. Mohren ホテルの名。

3. 1. sich selbst leben 此 sich は三格である；獨りで靜かに生活する。2. Anapasch と讀む、フランス語である。3. nicht verstattet hätte 或假定に基づく結論をあらはす Konjunktiv；「彼がさうぢみに暮さうと欲しないとしても」と云ふ假定が、言外に置かれて居る。

Zwei Kavaliere, auf⁴ deren Verschwiegenheit er sich vollkommen verlassen konnte, waren nebst einigen treuen Bedienten sein ganzes Gefolge. Den Aufwand vermied er, mehr aus Temperament als aus Sparsamkeit. Er floh die Vergnügungen; in einem Alter von fünfunddreißig Jahren hatte er allen Reizungen dieser wollüstigen Stadt widerstanden. Das⁵ schöne Geschlecht war ihm bis jetzt gleichgültig gewesen. Tiefer Ernst und eine schwärmerische Melancholie herrschten in seiner Gemütsart. Seine Neigungen waren still, aber hartnäckig bis zum Übermaß, seine Wahl langsam und schüchtern, seine Anhänglichkeit warm und ewig. Mitten in einem geräuschvollen Gewühle von Menschen ging er einsam; in seine Phantasieenwelt verschlossen, war er sehr oft ein Fremdling in der wirklichen.⁶ Niemand war mehr dazu⁷ geboren, sich beherrschen zu lassen, ohne schwach zu sein. Dabei war er unerschrocken und zuverlässig, sobald er einmal gewonnen⁸ war, und besaß gleich großen Mut, ein anerkanntes Vorurteil zu bekämpfen und für ein anderes zu sterben.

4. sich auf etwas verlassen 或ものを信頼する。5. das schöne Geschlecht 又は女性のこゝろ。6. in der wirklichen Welt. 7. zu etwas geboren sein 云々するやうに生れついて居る、云々す

彼が當然その緘黙を信頼する事の出来た二人の貴族が、二三の忠實な従僕と共に、彼の随員の全部であつた。浪費を彼は儉約といふ事よりも——より多く氣質上から避けたのである。彼は娛樂を避けた; 三十五才といふ年でありながら、彼は此淫蕩な町のすべての誘惑に反抗したのであつた。女性は彼れには、今に至るまで風馬牛であつた。深い眞面目さと或妄信的な幽鬱とが、彼れの性情の裡に主宰して居た。彼れの好愛は静かであつたが、度の過ぎるまでに執拗であつた。彼れの選擇は、緩慢で且つ小膽であり、彼れの情誼は暖かくまた永遠的であつた。騒々しい人間の群集のたゞ中を、彼は孤獨で歩いた。彼自身の空想世界のうちに閉ち籠つて居て、現實世界においては彼は、甚だ屢局外者であつた。(性格的に)弱いのではなくて、(しかも)他人に自分を支配させるやうには、何人も彼れ以上に生れついては居なかつた。かう云ふ場合に、一たび承服させられるや否や、彼は(最早)確乎としてまた信頼すべきものであつた。そしてさうだ(偏見だ)と認められた偏見を征服し、別な偏見(を擁護してそ)のために死ぬべく、同じやうに大なる勇氣を彼は所有して居たのである。

るやうに出来て居る。8. 此 gewinnen は「説き伏せる」「承服させる」の義。9. ein anderes Vorurteil.

4. Als der dritte Prinz seines Hauses hatte er keine wahrscheinliche Aussicht zur Regierung.¹ Sein Ehrgeiz war nie erwacht. Seine Leidenschaften hatten eine andere Richtung genommen. Zufrieden, von keinem fremden Willen abzuhängen,² fühlt er keine Versuchung über andere zu herrschen; die ruhige Freiheit des Privatlebens und der Genuß eines geistreichen Umgangs begrenzten³ alle seine Wünsche. Er las viel, doch ohne Wahl. Eine vernachlässigte Erziehung und frühe Kriegsdienste hatten seinen Geist nicht zur Reife kommen lassen. Alle Kenntnisse, die er nachher schöpfte, vermehrten nur die Verwirrung seiner Begriffe, weil sie auf keinen festen Grund gebaut waren.

Er war Protestant, wie seine ganze Familie — durch Geburt,⁴ nicht nach Untersuchung, die er nie angestellt⁵ hatte, ob er gleich⁶ in einer Epoche seines Lebens religiöser Schwärmer gewesen war. Freimaurer⁷ ist er, soviel⁸ ich weiß, nie geworden.

5. Eines Abends,¹ als wir nach Gewohnheit in tiefer Maske² und abgesondert auf dem St.

4. 1. zur Regierung され、位を踐んで君主となること。2. von etwas abhängen 或ものに從屬する; fremd 他人の。3. 彼の願望を begrenzen するとは、彼れの願望の境界をきめて居て、彼はそれ以外には何等の願望をも持たない事。4. 生れた家が、新教なので、彼も新教徒であつたの義。5. eine Untersuchung anstellen 或取調べ穿鑿研究などをする。6. ob は gleich と連

四、彼は其家の第三番目の公子であつて、政權への何等のたしからしい見込をも持つて居なかつた。彼の功名心は、目ざめた事がなかつた。彼れの情熱は、別なる方向を取つたのである。満足して、いかなる他人の意志にも從屬することなく、又他人を支配しやうといふ何等の誘惑をも、彼は感じなかつた。私生活の落ち着いた自由と、聰慧なる人々との交際を楽しむ事が、すべての彼れの願望の限界をつけて居た。彼は澤山讀書したが、しかし選擇なしであつた。等閑に附せられた教育と、早時の軍務とが、彼れの精神を成熟せしめなかつたのである。彼れがその後を得たすべての智識は、彼れの概念の混亂を増すに過ぎなかつた、何となれば、それらの智識は、いかなる堅固なる根底の上にも立てられて居なかつたからである。

彼は彼の全家族のやうに、新教徒であつた——それは生れによつたのであつて、取り調べて見たからではなかつた。彼はその生涯の或時期に於ては、宗教的の惑信者ではあつたけれども、取り調べは一向したことがなかつたのである。私の知れる限りでは、彼は共済組合員になつたことはなかつた。

五、或夕方、われわれは習慣に従つて、深く覆面をして、別れ別れに聖マルコの廣場を散歩して居たときに——

結する; obgleich は接續詞である。7. Freimaurer は共済組合員で、共済組合は十四世紀に生じたる秘密團體で、互助共済を目的とする ((英) free maison)。8. soviel 限り; 接續詞である。

5. 1. 副詞的二格。2. 覆面をして歩くことは、十八世紀のヴェニスには、謝肉祭以外の時でも、身分のよい人たちにあつては、普通であつた。

Markusplatz³ spazieren gingen — es fing an, spät zu werden, und das Gedränge hatte sich verloren — bemerkte der Prinz, daß eine Maske uns überall folgte. Die Maske war⁴ ein Armenier und ging allein. Wir beschleunigten unsere Schritte und suchten sie durch öftere Veränderung unseres Weges irrezumachen⁵ — umsonst die Maske blieb immer dicht hinter uns. „Sie haben doch⁶ keine Intrigue⁷ hier gehabt?“ sagte endlich der Prinz zu mir. „Die Ehemänner in Venedig sind gefährlich.“ — Ich stehe mit keiner einzigen Dame in Verbindung, gab ich zur⁸ Antwort. — „Wir wollen uns hier niedersetzen und deutsch sprechen,“ fuhr er fort. „Ich bilde mir ein, man verkennt uns.“ Wir setzten uns auf eine steinerne Bank und erwarteten, daß die Maske vorübergehen sollte.⁹ Sie kam gerade auf¹⁰ uns zu und nahm ihren Platz dicht an der Seite des Prinzen. Er zog die Uhr heraus und sagte mir laut auf französisch, indem er aufstand: „Neun Uhr vorbei. Kommen Sie. Wir ver-

3. サン・マルコ (San Marco) の廣場は、ヴェニス の商業を流行の中心地で、正面にサン・マルコの寺院、左右に大建物があつて、見物の人には常に絶えない、東京の淺草を大きく立派にしたやうな感じがある、尤右へ曲ればすぐに海岸へ出る spazieren gehen 「散歩する」。

4. 覆面する人は、アルメニア人の風をしてゐたの義。

5. einen irremachen 或人を迷はす、こゝでは追跡者をはぐらかす、まく； sie=Mask.

6. 主張文章「形を有する疑問

もう暗くなり初めて、群集は消え失せてしまつたのであるが——公子は、一人の覆面者が到るところわれらの跡をついて來るのに気がついた。覆面はアルメニア人(風)で、たゞ獨りで歩いて居た。われらは歩を早めた、そしてわれらの道を屢々變へる事によつて、覆面者をまかうと試みた——然しそれは無駄であつた、覆面者は依然として、われらのすぐあとに居た。「あなたはまさか、こゝで情事をしたことはないでせうね？」と、公子は到頭私に云つた。「ヴェニスの亭主たちは危険ですよ、」——私はいかなるたゞ一人の婦人にも關係して居ないと云ふ事を答へた。——「われわれはこゝに腰をおろして、獨逸語で話ませう」と彼は續けて云つた。「私たちは誤認されて居ると思ふ。」われわれは石の腰掛けの上に座つた、そして覆面が通りすぎるのを待ちかまへた。覆面は眞直ぐに、われわれを目指してやつて來た、そして公子のそばに近く自分の席を占めた。公子は時計を取り出した、そして立ち上りながら、フランス語で高聲に私に云つた。「九時過ぎだ。いらつしやい。私たちは、ルウヴルで人が待つて

文中の doch は日本語で云ふ「さうです」を云ふ答を豫期して居る； Du kommst doch mit mir? 君も一緒に來るのだけ? (はい、參りますを豫期す)； Du bist mir doch nicht böse? 君はまさか僕をおこつては居まいね (はい、怒つては居ません、を豫期す)。

7. 此 gue=ge を發音す； こゝでは「姦淫」のこゝ。

8. zur Antwort geben 返事として與へる、返事する。

9. sollte=würde.

10. auf etwas (od. einen) zu 或もの(人)を目指して。

gessen, daß man uns im Louvre¹¹ erwartet.“ Dies sagte er nur, um die Maske von unserer Spur zu entfernen. „Neun Uhr,“ wiederholte sie in eben¹² der Sprache nachdrücklich und langsam, „Wünschen¹³ Sie sich Glück, Prinz (indem sie ihn bei seinem wahren Namen nannte).¹⁴ Um neun Uhr ist er gestorben.“ — Damit¹⁵ stand sie auf und ging.

6. Wir sahen uns¹ bestürzt an. — „Wer ist gestorben?“ sagte endlich der Prinz nach einer langen Stille. „Lassen Sie uns ihr² nachgehen,“ sagte ich, „und eine Erklärung fordern.“ Wir durchkrochen³ alle Winkel des Markusplatzes — die Maske war⁴ nicht mehr zu finden. Unbefriedigt kehrten wir nach unserem Gasthof zurück. Der Prinz sagte mir unterwegs nicht ein Wort, sondern ging seitwärts und allein und schien einen gewaltsamen Kampf⁵ zu kämpfen, wie⁶ er mir auch⁶ nachher gestanden hat.

7. Als wir zu¹ Hause waren, öffnet er zum

11. シラーが任意につくつたホテルの名。12. eben+定冠詞は「丁度その、それと同一の」の義; zu eben der Zeit 丁度その時に、in eben dem Jahre 丁度その年に、in eben der Sprach^e 丁度その(それと同じ)國語で。13. sich Glück wünschen 自ら祝す、自らよろこぶ。14. um neun Uhr 正九時に; gegen neun Uhr 九時頃に。

6. 1. sich ansehen 互に見合ふ; 互に顔をながめる。2. ihr = der Mask. 3. alle Winkel durchkriechen あらゆる隅々をさがし廻る。4. 他動詞に zu をつけて sein と結合するときは、

るのを忘れました。』彼はこれを、たゞ覆面者をわれわれの踪跡から遠ざける爲にのみ云つたのである。『九時だ』と覆面は丁度同じ言語(佛蘭西語)で、力強く又ゆつくりと繰返へした。『お喜びなさい、公子(覆面は公子を、その本名で呼びながら云つた)。九時に彼は死にました。』——かう云ひつゝ、それは立上つて、行つてしまつた。

六、われわれはびつくりして、互に顔をながめ合つた。——『誰れが死んだのか?』と到頭公子が、ながい沈黙の後に云つた。『あのものの後を、わたし達に追はせて下さい』と私は云つた『そして説明を求めさせて下さい』。われわれはマルコの廣場のすべての隅々をさがし歩いた——(しかし)覆面者はもはや見つからなかつた。快々としてわれらはわれらの旅舎へ歸つた。公子は途中で一言も私に云はなかつた、却つて側の方を、しかも只一人で歩いた、そして激しい懊惱をなしつつあるやうに見えた、彼がまた後日になつてさう自白したとほりに。

七、われわれが家に來たときに、彼は初めて再び口

Passive の意味となる: Das Buch ist nicht zu finden. 本は發見され得ない、本は見つからぬ。5. einen gewaltsamen Kampf 此、では內的のはげしい戦、内部のはげしい煩悶をさす; ひどく煩悶してゐるやうに見えた。6. auch 「事實また」; wie 通りに、のであるが。7. 不定法は gestehen で stehen ではない。

7. 1. zu Hause sein 宅に居る; 歸つて來たと云ふ行爲の生じた結果をあげたもの; 歸つて來たからこそ、宅に居るわけである、故に譯の本文は勿論意譯である。

ersten Male wieder den Mund. „Es ist doch² lächerlich,“ sagte er, „daß ein Wahnsinniger die Ruhe eines Mannes mit zwei Worten so erschüttern³ soll.“ Wir wünschten⁴ uns eine gute Nacht, und sobald ich auf meinem⁵ Zimmer war, merkte ich mir in meiner Schreibtafel den Tag und die Stunde, wo es geschehen war. Es war ein Donnerstag.

Am folgenden Abend sagte mir der Prinz: „Wollen wir nicht einen Gang über Markusplatz machen und unsern geheimnisvollen Armenier aufsuchen? Mich verlangt⁶ doch nach der Entwicklung dieser Komödie.“ Ich war's⁷ zufrieden. Wir blieben bis elf Uhr auf dem Platze. Der Armenier war nirgend³ zu sehen. Das Nämliche wiederholten wir die vier folgenden Abende und mit keinem bessern Erfolge.

8. Als wir am sechsten Abend unser Hotel verließen, hatte ich den Einfall¹ — ob unwillkürlich oder aus Absicht, besinne ich mich nicht mehr — den Bedienten² zu hinterlassen, wo³ wir

2. doch 本當に; 實際; es は daß 以下をうける。3. 此 soll は可能性をあらはす。4. [Ich wünche Ihnen eine] gute Nacht は、就眠前の挨拶である。こゝでは、われらは互に (uns) よき夜を祈つたを直譯するが、意味は譯の本文の通りである。5. 此 auf は in は意味。此所の云ひ現はしは 7. 1. の註と同じ型である。6. Es verlangt mich (=Mich verlangt) nach etwas.

を開いた、『實際笑止な事だ』と彼は云つた、『氣違ひが、^{かたこと}二言でもつて、男子たるものの心の落着きをかき亂すとは。』われわれは互に就眠前の挨拶を交はした、私は自分の室に入るや否や、私の覺帳のなかに、この事件が起つたところの日と場所とを認め^{した}た。それは木曜日であつた。

翌日の夕方、私に公子は云つた。『マルコ廣場を一散歩しやうぢやありませんか、そしてわれらの不思議なアルメニア人を索がさうではありませんか? 私は實際この喜劇の開展を望みます。』私は同意した。われわれは十一時まで廣場にとゞまつて居た。アルメニア人はどこにも見つからなかつた。同一の事をわれらは續く四晩繰返へした、しかも些の——より良い成功をも收めないで、繰返へしたのである。

八、われらが第六日目の晩方に、ホテルを出た時、私は——それが偶然であつたか、故意であつたか、今更思ひ出せないけれど——若しわれわれの事が訊ねられるやう

私は云々を望む。7. 此 es は、本來は二格の補足語の代りである; zufrieden sein 同意する。

8. 1. den Einfall haben, etwas zu tun 或事をなさうと云ふ思ひつきを持つ、或事をしやうと思ふ。2. 複數三格で、單數一格は der Bediente. 3. zu finden sein は Passiv に譯して、「發見される」。

zu finden sein würden, wenn⁴ nach uns gefragt werden sollte. Der Prinz bemerkte meine Vorsicht und lobte sie mit einer lächelnden Miene. Es war ein großes Gedränge auf dem Markusplatz, als wir da ankamen. Wir hatten kaum⁵ dreißig Schritte gemacht, so⁵ bemerkte ich den Armenier wieder, der sich mit schnellen Schritten durch⁶ die Menge arbeitete und mit den Augen jemand zu suchen schien. Eben⁷ waren wir im Begriff, ihn zu erreichen, als⁷ der Baron von F*** aus der Suite⁸ des Prinzen atemlos auf uns zu kam und dem Prinzen einen Brief überbrachte. „Er ist schwarz gesiegelt“, setzte er hinzu. „Wir vermuteten, daß es⁹ Eile hätte.“ Das fiel¹⁰ auf mich wie ein Donnerschlag. Der Prinz war zu einer Laterne getreten und fing an zu lesen. „Mein Cousin¹¹ ist gestorben!“ rief er. „Wann?“ fiel¹² ich ihm heftig ins Wort. Er sah noch einmal in den Brief. „Vorigen Donnerstag, abends um neun Uhr.“

9. Wir hatten nicht Zeit, von¹ unserm Er-

4. wenn 以下を Aktiv に云ふと、wenn man nach uns fragen sollte, もし人がわれらの事を訊れるやうな場合でもあらば; 此 sollte は假定をあらはす Konjunktiv. 5. kaum....so 云々したかどうかと思つたとき、丁度その時。6. sich durch etwas (hindurch) arbeiten 或ものを切りぬける、或ものを押しわけて進む。7. 直譯すれば Baron von F が云々した時に (als), 丁度われらは云々せんとした、となる; im Begriff sein 將に云々せんとする; 序でに云ふが、この von は稱號であつて、「の」の意味ではない; 例へば Friedrich von Schiller. 8. Suite は佛語で swit と發音する、「隨行員」。9. Es hat Eile. (非人稱) いそぎだ; hätte は vermuten の補足語文章に用ゐらるゝ Konjunktiv. 10. 意譯: それを聞いて、私は落雷に打たれやうな氣がした。11. Cousin は佛語で kusäng と發音する。12. einem ins Wort fallen 或人の言葉なかばの時、口を挿む; 申言する。

な場合があつたら、何處でわれわれを見つけ得るかと思ひついた。公子は私の用意を認めた、そしてほゝえめる顔で、この用意をほめた。われらがそこへ到着した時には、マルコ廣場には、大變な人ごみがあつた。われらは、ものの三十歩と行つたか行かなかつたかと思ふ時、私はまたアルメニア人を見つけたのであつた。それは急ぎ足で群集のなかをかき分けて進み、眼で何人かをさがすやうに見えた。われわれがまさに彼に追ひ着かうとした時、丁度その時公子の隨員中のフォン・エフ男爵は、息せき切つて、われらを目指してやつて來た、そして公子に一通の書狀を渡したのであつた。「それは黒い封印をしてあります」と、彼はつけ加へて云つた。「私達は、いそぎだと推量しました。」この事は落雷のやうに私の上に落ちた。公子は街燈の方に歩いて行つた、そして讀み初めた。「私の従兄弟が死にました!」と彼は叫んだ、「いつ?」私はいそがしく、彼の言葉を切つた。彼はもう一度手紙を見た、「前の木曜日、夕方の九時です。」

九、われわれは、われらの驚きから立ち戻る時を持た

意味ではない; 例へば Friedrich von Schiller. 8. Suite は佛語で swit と發音する、「隨行員」。9. Es hat Eile. (非人稱) いそぎだ; hätte は vermuten の補足語文章に用ゐらるゝ Konjunktiv. 10. 意譯: それを聞いて、私は落雷に打たれやうな氣がした。11. Cousin は佛語で kusäng と發音する。12. einem ins Wort fallen 或人の言葉なかばの時、口を挿む; 申言する。

9. 1. 「われらの驚きから立ち戻る」とは、驚きがなほること。

staunen zurückzukommen, so stand der Armenier unter² uns. „Sie sind hier erkannt, gnädigster Herr,“³ sagte er zu dem Prinzen. „Eilen Sie nach dem Mohren. Sie werden die Abgeordneten des Senats dort finden. Tragen Sie kein Bedenken,⁴ die Ehre anzunehmen, die man Ihnen erweisen will. Der Baron von F*** vergaß, Ihnen zu sagen, daß Ihre Wechsel angekommen sind.“ Er verlor sich in dem Gedränge.

Wir eilten nach unserm Hotel. Alles fand sich, wie der Armenier es verkündigt hatte. Drei Nobili⁵ der Republik standen bereit, den Prinzen zu bewillkommen und ihn mit Pracht⁶ nach der Assemblée⁷ zu begleiten, wo der hohe Adel der Stadt ihn erwartete. Er hatte kaum so viel Zeit, mir burch eine flüchtigen Wink zu verstehen zu geben, daß ich für ihn wach bleiben möchte.

Nachts gegen elf kam er wieder. Ernst und gedankenvoll trat er ins Zimmer und ergriff meine Hand, nachdem er die Bedienten entlassen hatte. „Graf,“ sagte er mit den Worten Hamlets zu mir, „es gibt mehr Dinge im Himmel und auf Erden, als wir in unsern Philosophien

2. 此 unter は「間に」(英語の among) で、「下に」ではない。3. gnädigster Herr は「旦那様」「殿様」「閣下」など、この時々によつて譯すべきである。4. Bedenken tragen ためらふ。5. 單數は der Nobile ヴェニス共和國にて政治に参加する貴族たちを

なかつた、其時(もう)アルメニア人が、われらの間に立つてゐたのである、『あなたは當地では(御身分を)知られてゐますよ、殿下』と彼は公子に云つた、『モオレンへ御いそぎなさい。あなたはあそこで元老院の委員たちを見出だされるでせう。人々があなたに捧げやうとする名譽を、お受けなさるに躊躇なされますな。フォン・エフ男爵は、あなたの爲替が到着した事を申し上げるのを忘れました。』彼は人込みのなかに消え失せたのである。

われわれはわれらのホテルへ急いだ。すべてはアルメニア人が通知した通りであつた。(ヴェニス)共和政府の三人の貴族が、公子を歓迎し、儀仗を整へて、公子を會合へ——そこには此市の貴族たちが彼を待ち設けてゐたのだが——同伴しやうと用意してゐたのであつた。彼れは私に、自分のために目をさまして居て呉れるやうにと云ふ事を、一寸した目つきでわからせる丈けの時間を、辛じて持つたのであつた。

夜十一時ごろ、彼は歸つて來た。眞面目にまた考へにみちながら、彼は部屋に入つて來た、そして彼は、召使どもを退かした後に、私の手を握つた。『伯爵』と彼はハムレットの言葉でもつて、私に云つた、『天上と地上とは、われわれが、われらの哲學に於て夢想するよりも、——よ

かく名づけた。6. 威儀儀容をさゝのえて、堂々。7. 佛蘭西語で、assemblée と讀む、「集會」の義；多分元老院の集會であらう。

träumen.“⁸

10. „Gnädigster Herr,“ antwortete ich, „Sie scheinen zu vergessen, daß Sie um¹ eine große Hoffnung reicher zu Bette gehen.“ (Der Verstorbene war der Erbprinz; der einzige Sohn des regierenden^{***}, der alt und kränklich ohne Hoffnung² eigener Sukzession war. Ein Oheim unsers Prinzen, gleichfalls ohne Erben und ohne Aussicht, welche³ zu bekommen, stand jetzt allein noch zwischen diesem⁴ und dem Throne. Ich erwähne dieses⁵ Umstandes, weil in der Folge davon die Rede sein wird.)

„Erinnern Sie mich nicht daran,“ sagte der Prinz, „Und⁶ wenn eine Krone für⁷ mich wäre gewonnen worden, ich hätte jetzt mehr zu tun, als dieser Kleinigkeit nachzudenken. — — Wenn dieser Armenier nicht bloß erraten hat — —“

„Wie ist das möglich, Prinz?“ fiel ich ein. —

„So will ich Ihnen alle meine fürstlichen Hoffnungen für⁸ eine Mönchskutte abtreten.“

11. Den folgenden Abend fanden wir uns zeitiger als gewöhnlich auf dem Markusplatz

8. ハムレット第一幕第五場には

“There are more things in heaven and earth, Horatio,
Than are dreamt of in your philosophy.”

10. 1. um は「だけ」の意; um zwei Yen reicher 前よりは二圓丈け金持ちになつて; um eine Hoffnung reicher 前よりは

り多くの事があるね。』

十、『貴下』と私は答へた。『あなたは一つの大きな希望丈け豊富になられて、おやすみになるのである事を、お忘れになつたやうに見えます。』(死去した人は相續者たる公子で、現に位に在る某大公の一人息子であつた、そして現大公は年をとり且つ病身で、自分自身の跡目を得る見込は(もう)なかつた。われらの公子の一人の叔父が——これも同様に相續者を持たず、又さう云ふものを得る見込もないのであるが——今は只一人で、公子と玉座との間に立つて居た。私は此事情を述べて置く。何となれば、先へ行つてから、此事に就いて話があるであらうから。)

『その事を思ひ出させて下さるな』と公子が云つた。『よしんば王冠が私の手に得られたとしたところで、私は今、そんなつまらぬ事を考へるよりも、もつとなすべく多くの事を持つて居ませう——例のアルメニア人が、單に推量しただけでないならば——』

『どうしてそんな事があり得ませう、公子?』を私は語を挿んだ。——

『そしたら私は一領の僧衣(を貰つてそ)の代りに、わたしの君主的期望をみんな貴君に譲り渡さうと思ひます。』

十一、次の夕方には、われわれはいつもより早く、マルコ廣場にあらはれた。驟雨がわれらを或カフフェーに入

一つの期望丈け富裕になつて。 2. 自分の子女を得る見込。 3. welche=einige (Erben). 4. diesem=dem Prinzen. 5. erwähnen は二格の補足語を取る。 6. und wenn=wenn auch よしんば……云々であつても。 7. etwas für sich gewinnen 或ものを自分の手に入れる; こゝでは Passiv. 8. für「さ引換へに」。

ein. Ein plötzlicher¹ Regenguß nötigte uns, in ein Kaffeehaus einzutreten, wo gespielt wurde. Der Prinz stellte sich hinter den Stuhl eines Spaniers und beobachtete das Spiel. Ich war in ein anstoßendes Zimmer gegangen, wo ich Zeitung las. Eine Weile darauf hörte ich Lärmen. Vor der Ankunft des Prinzen war der Spanier unaufhörlich im Verluste gewesen, jetzt gewann er auf alle Karten. Das ganze Spiel war auffallend verändert, und die Bank² war in Gefahr, von dem Pointeur,³ den diese glückliche Wendung kühner gemacht hatte, aufgefordert⁴ zu werden. Der Venetianer, der sie hielt, sagte dem Prinzen mit beleidigendem Ton—er störe⁵ das Glück, und er solle⁵ den Tisch verlassen. Dieser sah ihn kalt an und blieb; dieselbe Fassung behielt er, als der Venetianer seine Beleidigung französisch wiederholte. Der letztere glaubte, daß der Prinz beide Sprachen nicht verstehe,⁶ und wandte sich mit verachtungsvollem Lachen zu den übrigen: „Sagen Sie mir doch,⁷ meine Herren, wie ich mich diesem Balordo⁸ verständlich⁹ machen soll?“

11. 1. 突然 (plötzlich) の降雨 (Regenguß) 即ち、「驟雨」と譯した。2. Bank とは、親元の前に在る金額。3. Pharo と云ふ勝負に於ては、或札に (auf eine Karte) 或金額を賭する人を Pointeur (poäntör と讀む) と云ふ。Pointeur は或札に對して自分の金を賭けると共に、親元の持てるすべての金を、自分の賭金の相手とする事が出来る。此場合彼が勝てば、親元の金はすつかり彼のものとなり、親元は破産する。親元を破産さ

るべく餘儀なくさせた、そこでは人々が賭博して居た。公子は一西班牙人の椅子の後ろに立つて、賭博を見物した。私は隣れる部屋に入つた。私はそこで新聞を読んだ、其後暫くして私は物音を聞いた。公子の到着以前には、西班牙人は絶えず負けて居たが、今や彼はどの札に於ても勝つた。勝負全體が著しく變つて來た、而して親の持金は、此仕合な變化によつて、より大膽になされたところの賭者のために、(すつかり) 要求されんとする危険の裡にあつた。親になつて居たヴェニス人は、侮辱的な語調で公子に云つた——彼れは幸運の邪魔をする、彼れは卓子を去るがよいと。公子は彼を冷やかに眺めた、そして其場に止まつて居た、其ヴェニス人が彼れの侮辱を佛語で繰り返へした時に、公子は同じ平靜を保つて居た。ヴェニス人は公子が此兩國語を理解しないと信じた、そして輕蔑に充ちた笑をなしながら、他の人々の方を振り向いて云つた、『どうぞ皆さん、どういふ風にして、私はこの馬鹿者に私の言ふ事を解らせたらよいか云つて下さい』。同時に彼は

せることを、die Bank sprengen と云ふ。4. aufgefordert zu werden=gesprengt zu werden; sprengen の意味は 3. にあり。5. 共に間接説話に用ゐる Konjunktiv. 6. 他人の思惑を傳へる時にも Konjunktiv を用ゐる。7. どうぞ。8. 伊太利の劇場に出て來るおきまりの馬鹿者の名。9. sich einem verständlich machen 或人に自分の思ふところを知らしめる。

Zugleich stand er auf und wollte den Prinzen beim¹⁰ Arm ergreifen; diesen¹¹ verließ hier die Geduld, er packte den Venetianer mit starker Hand und warf ihn unsanft zu Boden. Das ganze Haus kam in Bewegung. Auf das¹² Geräusch stürzte ich herein, unwillkürlich rief ich ihn bei seinem Namen. „Nehmen Sie sich in acht,¹³ Prinz,“ setzte ich mit Unbesonnenheit hinzu, „wir sind in Venedig.“ Der Name des Prinzen gebot eine allgemeine Stille, woraus bald ein Gemurmeln wurde,¹⁴ das mir gefährlich schien. Alle anwesenden Italiener rotteten sich zu¹⁵ Haufen und traten beiseite. Einer um¹⁶ den andern verließ den Saal, bis wir uns beide mit dem Spanier und einigen Franzosen allein fanden. „Sie sind¹⁷ verloren, gnädigster Herr,“ sagten diese, „wenn Sie nicht sogleich die Stadt verlassen. Der Venetianer, den Sie so übel behandelt haben, ist reich und¹⁸ von Ansehen — es kostet ihm nur fünfzig Zechinen,¹⁹ Sie aus der Welt²⁰ zu schaffen.“ Der Spanier bot sich an, zur Sicherheit des Prinzen Wache zu holen und uns selbst nach Hause zu begleiten. Das-

10. 捕へどころを示す bei. 11. Die Geduld verläßt ihn. 「忍耐が彼を見すてる」こは、彼の勘忍袋の緒が切れること。12. auf=に従つて、に應じて。13. sich in acht nehmen 注意する、用心する；此 acht は「八」の意味ではない；die Acht (注意) から来て居る。14. werden=生ずる。15. 結果をあらはす

立ち上つて、公子の腕を捕へやうとした；こゝで勘忍が公子を去つた、彼は力強い手でヴェニス人を捉へた、そして彼れを荒々しく床の上に投げた。家全體が騒ぎ出した。私はこの騒ぎを聞いて、とび込んで行つた、そしてわれ知らず公子を、その本名で呼んだ。『用心なさい、公子』と私は無考^{わかんが}へで附け加へた、『わたしたちは、ヴェニスに居るのですよ。』公子の名は一般(人)の静肅を命じた。この静肅から間もなく^{つぶ}喧やきが起つた、その^{つぶ}喧やきは私には危険に思はれた。そこに居るすべての伊太利人は、いくつかの群れをなして集まつた、そして側の方へ行つた。一人また一人と廣間を出て行つて、仕舞にはわれら兩人が、西班牙人及び二三の佛蘭西人だけとそこに居た。『もうおしまひですよ、貴下』とフランスの人たちが云つた。『もし即刻この町をお立ちにならなければ。貴下があんなに酷い目に合はせたヴェニス人は、金持ちでまた勢力があります——貴下を此世から片づけるのには、彼れには僅か五十ツェヒーネにしか價ひしません』。西班牙人は公子の安全のために、護衛兵を呼ぶべく、そしてわれらを自分で宅へ送り行くべく申し出た。佛人も同じ事を欲し

zu; 集まつて、いくつかの群をなした事。16. einer um den andern 一人又一人と、Fote um Bote 使又使と。17. Wir sind verloren. 吾人は萬事休せり。18. von Ansehen sein 名望勢力を有する。19. Zechine はヴェニスの金貨で、約四圓強。20. einen aus der Welt schaffen 或人を殺す。

selbe wollten auch die Franzosen. Wir standen noch und überlegten, was zu²¹ tun wäre, als die Tür sich öffnete und einige Bedienten der Staatsinquisition²² hereintraten. Sie zeigten uns eine Order der Regierung, worin uns beiden befohlen ward, ihnen schleunig zu folgen. Unter einer starken Bedeckung führte man uns bis zum Kanal. Hier erwartete uns eine Gondel, in die wir uns setzen mußten. Ehe wir ausstiegen, wurden uns die Augen verbunden. Man führte uns eine große steinerne Treppe hinauf und dann durch einen langen gewundenen Gang über Gewölbe, wie²³ ich aus dem vielfachen Echo schloß, das unter unsern Füßen hallte. Endlich gelangten wir vor eine andere Treppe, welche uns sechsundzwanzig Stufen in die Tiefe hinunter führte. Hier öffnete sich ein Saal, wo man uns die Binde wieder von den Augen nahm. Wir befanden uns in einem Kreise ehrwürdiger²⁴ alter Männer, alle schwarz gekleidet, der ganze Saal mit schwarzen Tüchern behangen²⁵ und sparsam erleuchtet, eine Totenstille in²⁶ der ganzen Versammlung, welches²⁷ einen schreckhaften Eindruck machte. Einer von diesen Greisen, vermutlich der oberste

26. Was ist zu tun? 何かなさるべきか? 22. 秘密に裁判するところの国立宗教裁判所は、實際上こんな私的事件に関係したことはない。23. wie=「によれば」。24. (老齢又は威嚴のため) 尊ぶべき、敬すべき。25. mit etwas behängen (=be-

た。われらはなほ佇立して、どうしやうかと熟考してゐた、そのとき、戸が開いて、国立宗教裁判所の二三の役人が入つて來た。彼等は私たちに、政府の命令書を示した。それには、急いで彼等について來るやうに、われら二人に對して命令されて居た。嚴重な警衛のもとに、人々はわれわれを運河へ導いた。こゝで一艘のゴンドラがわれらを待ち設けて居た、われらはその船に乗らなければならなかつたのである。われわれが船を下りる前に、われらの眼は縛られた。人々は大きな石の階段を上つて、われらを導いた、それからその次に——われらの脚下に響くいろいろな反響から、私が推定したところによると——筈の上を長い曲りくねつた廊下を通つて、われらを導いた。到頭われらは別な階段の前に達した、それはわれらを二十六階段だけ地下へと導いた。こゝには一つの廣間が開いてゐたが、そこで人々はわれらの眼から、眼隠しを取り去つた。われらは威嚴ある年とつた人たちの團のうちに居た、すべての人たちは黒い着物をつけ、廣間全部は、黒い布で覆はれ、微かに燈りで照されてゐた、集合全體のうちには、死の如き寂寞があつた。その光景は、一個の恐ろしい印象を與へた。これらの老人たちの中の一人は——推測するところ一番上の国立宗教裁判官であ

hängen) 或ものをかける、或もので覆ふ; こゝでは過去分詞; Saal の後に war が略されてゐる。26. in の前に herrschte が略されてゐる。27. 前に述べたことを總括して代表する; 「そのことは」(英) all which.)

Staatsinquisitor, näherte sich dem Prinzen und fragte ihn mit einer feierlichen Miene, während man ihm den Venetianer vorführte:

„Erkennen Sie diesen Menschen für²⁷ den nämlichen, der Sie auf dem Kaffeehause beleidigt hat?“

„Ja,“ antwortete der Prinz.

Darauf wandte jener sich zu dem Gefangenen: „Ist das dieselbe Person, die Sie heute abend wollten ermorden lassen?“

Der Gefangene antwortete mit Ja.

12. Sogleich öffnete sich der Kreis, und mit Entsetzen sahen wir den Kopf des Venetianers vom Rumpfe trennen. „Sind Sie mit dieser Genugtuung zufrieden?“ fragte der Staatsinquisitor. — Der Prinz lag ohnmächtig in den Armen seiner Begleiter. — „Gehen Sie nun,“ fuhr jener mit einer schrecklichen Stimme fort, indem er sich gegen mich wandte, „und urteilen Sie künftig weniger vorschnell von der Gerechtigkeit in Venedig.“

Wer der verborgene Freund gewesen, der uns durch den schnellen Arm der Justiz von einem gewissen² Tode errettet hatte, konnten wir

27. für etwas erkennen 何々なりと認める。

12. 1. さきに、„Wir sind in Venedig.“ と云つた事に對するあてこすりである。「ヴェニスは、危険なところ、法律の力が行きわたつて居らぬところと思つてゐるやうだが、決してそんな

らうが——公子に近寄つた、そして人々が、例のヴェニス人を彼の前につれて來た間に、おごそかな顔付を以て公子に訊ねた:—

「あなたはこの人を、カフエーであなたを侮辱したのと同人物だと認めますか?」

「はい、」と公子は答へた。

それから彼の老人は、囚人に向きなほ(つて云つ)た。「これは、あなたが今晚殺させやうとしたのと同じ人物ですか?」

囚はれた人は、さうだと答へた。

十二、直ちに囹圄は開いた、そしてわれらは驚愕を以て、ヴェニス人の頭が胴から離れるのを見た。「あなたはこの償ひで満足しますか?」と國立宗教裁判官は訊ねた。——公子は氣を失つて、彼れの同伴者の腕の裡に倒れてゐた。——「ではお出でなさい」とその人は私の方を向きながら、恐ろしい聲でつゞけて云つた。——「そして將來は、ヴェニスの公正な事について、も少し輕忽でなく、判斷して下さいまし。」

司法の迅速な腕によつて、われらを定つた死から救ひ出したところの隠れた友人が、誰れであつたかと云ふ事を、われわれは忖度し得なかつた。恐怖のために堅くなつて、

事はない。あまり早まつて批評してもらまい」の義。2. ein gewisser, eine gewisse, ein gewisses など(は、[英] a certain (或る)の義に解すべき場合が多いけれど、こゝでは gewiß は、確實な(逃がれ難き)の意である。

nicht erraten. Starr von Schrecken erreichten wir unsere Wohnung. Es war nach Mitternacht. Der Kammerjunker von Z*** erwarteten uns mit Ungeduld an der Treppe.

„Wie gut war es, daß Sie geschickt haben!“ sagte er zum Prinzen, indem er uns leuchtete. — „Eine Nachricht, die Baron von F*** gleich nachher von Markusplatze nach Hause brachte, hätte³ uns wegen Ihrer in die tödlichste Angst gesetzt.“

„Geschickt hätte ich? Wann? Ich weiß nichts davon.“

„Diesen Abend nach acht Uhr. Sie ließen uns sagen, daß wir ganz außer Sorgen sein dürften, wenn Sie heute etwas später nach Hause kämen.“

13. Hier sah der Prinz mich an. „Haben Sie vielleicht ohne mein Wissen diese Sorgfalt gebraucht?“

Ich wußte von gar nichts.

„Es muß doch wohl so sein, Ihre Durchlaucht,“ sagte der Kammerjunker — „denn hier ist ja Ihre Repetieruhr, die Sie zur Sicherheit mitschickten.“ Der Prinz griff nach der Uhrtasche. Die Uhr war wirklich fort,¹ und er

3. 事實に背く或假定に基いての結論を示す Konjunktiv; 「もし使を下さなかつたら……云々したでせう」。

われらはわれらの住居に達した。真夜^{まよか}過ぎであつた。侍従フォン・ツェツトが階段で、われわれを、いらいらして待ち設けて居た。

「貴方がお使を下さつたのは、なんて結構な事でしたらう!」と彼はわれらを燈火で照しながら云つた。——「フォン・エフ男爵がすぐあとで、市場からうちへもたらした報知は(もしお使がなかつたら)、あなたの事について、われわれをひどく心配させましたらうのに。」

「使をわたしがよこしたつて? いつ? 私はそれについては何にも知らないが。」

「今晚八時過ぎでした。貴下は、今日いくらか後れて歸宅するやうな事があつても、私たちは全く心配しないでよろしいと、わたしたちに云つてよこされました。」

十三、こゝで公子は私をながめた。「多分あなたがわたしに知らせないで、この氣配りをして下さつたのでせう?」

自分は全く何事をも知らなかつた。

「しかし考へて見ますのに、どうもさうあらねばならぬ筈です、殿下」と侍従は云つた——「なぜかなら、こゝにあなたの時打懐中時計があります、それをあなたは確證のためにつけておよこしなすつたのです。」公子は時計のポケットを探つて見た。時計は實際なかつた、そして彼

はす Konjunktiv.

13. 1. Er ist fort. (彼は去つた) と同じ fort のである。

erkannte jene für die seinige. „Wer brachte sie?“ fragte er mit Bestürzung.

„Eine unbekante Maske in armenischer Kleidung, die sich sogleich wieder entfernte.“

Wir standen und sahen uns an. — „Was halten Sie davon?“ sagte endlich der Prinz nach einem langen Stillschweigen. „Ich habe hier einen verborgenen Aufseher in Venedig.“

14. Der schreckliche Auftritt dieser Nacht hatte dem Prinzen ein Fieber zugezogen, das ihn acht Tage¹ nötigte, das Zimmer² zu hüten. In dieser Zeit wimmelte unser Hotel von³ Einheimischen und Fremden, die der entdeckte Stand des Prinzen herbeigelockt hatte. Man wetteiferte untereinander, ihm Dienste anzubieten, jeder suchte nach seiner Art sich geltend⁴ zu machen. Des ganzen⁵ Vorgangs in der Staatsinquisition wurde nicht mehr erwähnt. Weil der Hof zu⁶ ** die Abreise des Prinzen noch aufgeschoben wünschte, so erhielten einige Wechsler in Venedig Anweisung, ihm beträchtliche Summen auszuzahlen. So ward er wider Willen in den Stand⁷ gesetzt, seinen Aufenthalt

14. 1. acht Tage 四格、八日ではない、一週間の事にかく云ふ。2. das Zimmer (das Bett) hüten 部屋 (ベット)のなかに居る。3. von etwas wimmeln 或もので充滿して居る。4. sich geltend machen 自分を主張する、自分が適任だと自己の主張をする; nach seinen Art 自分自分の流儀やり方によつて。5. er-

れは、該時計を自分のものだと認めたのであつた。『誰れがそれを持つて来たのか?』と彼は愕然として訊ねた。

『アルメニア人の服装をした知らない覆面者です、それはすぐにまた立ち去りました。』

われわれは立つて互に顔を見合はせた。——『それについて、あなたの御意見は?』公子は長い沈黙の後に到頭かう云つた。『わたしはこのヴェニスで、或かくれた監視人を持つて居るのだ。』

十四、此夜のおそろしい出来事は、公子に熱を起させた、この熱は一週間も、室内に止まつて居るやうに、彼に強ゐたのであつた。この時には、公子の見つけられた身分が誘ひよせた内外人によつて、ホテルはみちみちたのであつた。人々は彼に勤仕を申し込むべく、互々の間で競争した、いづれの人も、自分一流のやり方で、自分こそはと主張すべく努めた。国立宗教裁判における出来事は、もはや話されなかつた。例のなにがしの宮廷は、公子の出立がなほ延期されるのを、希望したので、ヴェニスの二三の爲替商らは、公子に夥しい金額を拂ひ渡すべく、支拂差圖手形を受取つた、そこで彼は心ならずも、伊太利に於ける彼れの滞在を延ばすやうにされて仕舞つた。そ

wähnen は Aktiv の時、二格を支配する; Man erwähnte des ganzen Vorgangs = Es wurde des Vorgangs erwähnt. = Des Vorgangs wurde erwähnt. 6. 所在地をあらはす zu, Prinz の關する宮廷を指す。7. einen in den Stand setzen, etwas zu tun 或人に或事を得しめる或人に或事をやらせる; こゝでは Passiv.

in Italien zu verlängern, und auf sein Bitten entschloß ich mich auch, meine Abreise noch zu verschieben.

15. Sobald er so¹ weit gewesen war, um² das Zimmer wieder verlassen zu können, beredete ihn der Arzt eine Spazierfahrt auf der Brenta³ zu machen, um die Luft zu verändern.³ Das Wetter war hell, und die Partie ward angenommen. Als wir eben im Begriff waren, in die Gondel zu steigen, vermißte der Prinz den Schlüssel zu einer kleinen Schatulle, die sehr wichtige Papiere enthielt. Sogleich kehrten wir um, ihn zu suchen. Er besann sich auf das genaueste, die Schatulle noch⁵ den vorigen Tag verschlossen zu haben, und seit dieser Zeit war er nicht aus dem Zimmer gekommen. Aber alles Suchen war umsonst, wir mußten davon⁶ abstehen, um die Zeit nicht zu verlieren. Der Prinz, dessen Seele über jeden Argwohn⁷ erhaben war, erklärte ihn für⁸ verloren und hatt uns, nicht weiter davon zu sprechen.

16. Die Fahrt war die angenehmste. Eine

15. 1. so weit.....um zu と相呼應する; [英] so far.....as to. 2. Brenta はヴェネツの近くで海に注ぐ河流の名。3. 「空気をかへる」とは、散歩、轉地などすること。4. auf das genaueste 「極めて精確に」; 副詞的用法である。5. noch den vorigen Tag (ほんの前日 ([英] only the day before)); noch は「強め」である。noch heute 今日にも; noch gestern ほんの昨

して彼の頼みによつて、私もまた私の出發をもつと延ばさうと決心したのであつた。

十五、彼が、再び部屋を出ることが出来る位になほるや否や、醫師は保養のために、ブレンタ河で舟遊びをするやうに、彼に勧告した。天氣は晴朗であつた、そして散策は承諾された。われわれが今丁度、ゴンドラに乗らうとしつゝあつた時、公子は甚だ重要な書類の入つて居る小さい匣の鍵をなくしたのに気がついた。すぐにわれらは、それを捜すべく立ち歸つた。彼はほんの前日、その匣を閉めたので、それからは彼は部屋から出なかつたことを、極めて精確に思ひ起した。しかしすべての搜索は無益であつた。われわれは、時間を失はないために、その搜索を斷念しなければならなかつた。その心があらゆる猜疑といふものを超脱してゐたところの公子は、鍵を紛失したものだと言明して、これについてはもはや何事も云はないやうに、われわれに頼んだのである。

十六、舟遊びは、非常に愉快であつた。河の曲がる

16. 6. von etwas absehen 或事をやめる、あきらめる; こゝでは davon=von dem Suchen (搜索)。7. über etwas erhaben sein 或もの以上に超絶してゐる; こゝでは毫に猜疑心がないこと。8. für verloren 失はれた(もの)として。9. 勿論 bitten の過去形である。

malerische Landschaft, die mit jeder Krümmung des Flusses sich an¹ Reichtum und Schönheit zu übertreffen schien—der heiterste Himmel, der mitten im Hornung² einen Maientag bildete—reizende Gärten und geschmackvolle Landhäuser ohne Zahl, welche beide Ufer der Brenta schmücken—hinter uns das majestätische Venedig,³ mit hundert aus dem Wasser springenden Türmen und Masten, alles dies gab uns das herrlichste Schauspiel von⁴ der Welt. Wir überließen uns ganz dem wohltätigen Zauber dieser schönen Natur, unsere Laune war die heiterste, der Prinz selbst verlor seinen Ernst und wetteiferte⁵ mit uns im fröhlichen Scherzen. Eine lustige Musik schallte uns entgegen,⁶ als wir einige⁷ italienische Meilen von der Stadt ans Land stiegen. Sie kam aus einem kleinen Dorfe, wo eben Jahrmart gehalten wurde; hier wimmelte es⁸ von Gesellschaft aller Art. Ein Trupp junger Mädchen und Knaben, alle theatralisch gekleidet, bewillkommte uns mit einem pantomimischen Tanz. Die Erfindung

16. 1. einen an etwas [三] übertreffen 或ここに於て或人に優る; Er übertrifft mich an Geist. 氣象に於ては彼は私にまさる; 「畫のやうな風景は川の曲るたび毎に自分にまさる」とは、曲るたびによくなる事。 2. Hornung=Februar. 3. 特別の市を除き、普通に市名は中性。 4. von der Welt は最上級の形容詞をつよめる爲めに用ひたもの、必ずしも、忠實に譯す

度毎に、富と美とに於て、いよいよまさるやうに見えたところの畫のやうな風景—二月なかばに於て、五月のやうな一日をつくり出せる晴々した大空—ブレンタの兩岸を飾れる無数の美しい庭園や趣味に充ちた別墅—それから、われらのうしろには、水から高く立ち上がる澤山の塔や橋を見せて居る堂々たるヴェニスの町—これらすべては、われらに、世界中で最も壯麗な光景を見せたのである。われらはこの美しい自然の快い魅力に全く身を委ねた、われらの気分は、極めて晴れやかであつた。公子自身もその嚴肅さをなくして、快活な笑談に於て、われらと競争するのであつた。町から伊太利里程で數哩離れたところで上陸した時に、愉快的音楽が、われらを迎へて響いた。それは今丁度年の市が開かれてゐた小さい村から來たのである。こゝにはあらゆる種類の群集が満ち満ちて居た。そのすべてが芝居風に着飾つた若い童男童女の一群は、身振狂言風の舞踏で、われらを歓迎した。工夫は

必要はない。 5. mit einem in etwas [三] wetteifern 或事に於て或人と競争する、或事で或人に負けじと競ふ、こゝでは「公子もわれらにまけないで、盛んに笑談を云つた」の義。 6. einem entgegen kommen 或人を出迎へる; こゝでは向ふの方から音楽がこちらへ響き來る意味。 7. 伊太利の六十哩は、緯度一度に當る。 8. Es wimmelte von etwas. 或ものが群集して居る。

war neu, Leichtigkeit und Grazie beseelten jede Bewegung. Eh' der Tanz noch völlig zu Ende war, schien die Anführerin desselben, welche eine Königin vorstellte, plötzlich wie von einem unsichtbaren Arme gehalten. Leblos stand sie und alles. Die Musik schwieg. Kein Odem⁹ war zu hören in der ganzen Versammlung, und sie stand da, den Blick auf die Erde geheftet, in einer tiefen Erstarrung. Auf einmal fuhr sie mit der Wut der Begeisterung in¹⁰ die Höhe, blickte wild um sich her. — „Ein König ist unter¹¹ uns,“ rief sie, riß ihre Krone vom Haupt und legte sie — zu den Füßen des Prinzen. Alles,¹² was da war, richtete hier die Augen auf ihn, lange Zeit ungewiß, ob Bedeutung in diesem Gaukelspiel wäre, so sehr hatte der affektvolle Ernst dieser Spielerin getäuscht. — Ein allgemeines Händeklatschen des Beifalls unterbrach endlich diese Stille. Meine Augen suchten den Prinzen. Ich bemerkte, daß er nicht wenig betroffen war und sich¹³ Mühe gab, den forschenden Blicken der Zuschauer auszuweichen. Er warf Geld unter¹⁴ diese Kinder und eilte aus dem Gewühle zu kommen.

17. Wir hatten nur wenige Schritte gemacht,

9. Odem 今は詩的の文章にのみ使用せらる、普通は Atem と云ふ。10. in die Höhe fahren さび上がる。11. 此 unter の「下」の義でなく、「間」の義；動詞が静止をあらはして居るか

新らしかつた、輕快と優雅とが、あらゆる運動に生氣を與へた。舞踏がなほ全く終らぬうちに、女王の役を演じてゐた踊の先達は、目に見えない腕によつて支へられたやうに、突然支へ止められた。死んだやうに、彼女とまたすべての人々がつき立つた。音樂は沈黙した。集まり全體の中には、呼吸一つ聞えなかつた。彼女は視線を地上につけて、ひどく硬ばつて立つて居た。俄かに感奮の激動に於て、彼女はとび上つて、あらあらしく自分の周りを見廻はした。——『わたしたちのなかには、王さまがゐらつしやる。』と彼女は叫んだ、そして彼女の王冠を頭から脱ぎとつて、公子の足もとに置いた。この時そこに居たすべての人々は、この茶番のなかに意味があるのか、どうか、長い間はつきりしないで、眼を彼れの上に注いで居た、それ程ひどく、この女優の感動に満ちた眞面目さが、人々をまどはせたのであつた。——喝采の一般的な拍手が、到頭この静けさを破つた。私の眼は公子をさがした、私は公子が少なからず當惑して居たこと、そして見物人の探究する視線を避けやうと骨を折つてゐたことを認めた。彼はこれらの子供の間へ、金をなげ込んで、群集のなかから出やうと急いだ。

十七、われらは僅かの歩數しか前進しなかつた、その

ら、uns は三格。12. alles すべての人々。13. 此 sich は三格。14. 此 unter は 11. と同じ意味なれど、動詞が運動をあらはすから、unter の次には四格が使用せらる。

als ein ehrwürdiger Barfüßer sich durch das Volk arbeitete¹ und dem Prinzen² in den Weg trat. „Herr,“ sagte der Mönch, „gib der³ Madonna von deinem Reichtum, du wirst ihr⁴ Gebet brauchen.“ Er sprach dies mit einem Tone, der uns betreten machte. Das Gedränge riß ihn weg.

Unser Gefolge war unterdessen gewachsen. Ein englischer Lord, den der Prinz schon in Nizza⁵ gesehen hatte, einige Kaufleute aus Livorno,⁶ ein deutscher Domherr, ein französischer Abbé mit einigen Damen, und ein russischer Offizier gesellten sich zu uns. Die Physiognomie des letztern hatte etwas ganz Ungewöhnliches, das unsere Aufmerksamkeit auf sich zog. Nie in meinem Leben sah ich so viele Züge, und so wenig Charakter, so viel anlockendes Wohlwollen mit so viel zurückstoßendem Frost in einem Menschengesichte beisammenwohnen. Alle Leidenschaften schienen darin⁷ gewühlt und es wieder verlassen zu haben. Nichts war übrig, als der stille, durchdringende Blick eines vollendeten Menschenkenners, der

17. 1. sich durch die Menge (od. das Volk) arbeiten 群集をかきわけて進む。3. einem in den Weg treten 或人の道を遮る。3. Madonna は meine Dame の意味なれど、こゝではマリアを指す。4. ihr は「マドンナの」の義、マドンナが本人に代りて基督に祈願するさか、本人のさりなしをなすさか云ふ思想

とき一人の品位ある跣足托鉢僧が、人々をかき分けてやつて来た、そして公子の行手を遮つた。「貴君」と僧が云つた「マドンナに、あなたの富の幾分かを捧げなさい。あなたはマドンナの御祈りを必要とするでせうから」。彼はわれらを喫驚せしめるやうな調子でかう言つた。群集は彼を拉し去つた。

われらの隨行は、その間に増加した。公子が曩にニッヅで會つた事のある英國の一貴族、^{ノード}リヴォルノ出身の二三の商人、一人の獨逸の受祿僧、二三の淑女を伴へる佛蘭西の僧院長、ならびに露西亞の士官が、われわれの仲間になつた。後者の人相には、全く異常な或ものがあつた。この異常なものが、われらの注意を、自らの上に引きつけたのであつた。私の生涯に於て、私は未だ嘗て、このやうに多くの眼鼻だちの上の特徴と、このやうに僅かな性格のあらはれや、かくも人を引きつける澤山の好意が、人をはねつける澤山の冷淡と、一つの人間の顔のなかに同居してゐるのを見たことはなかつた。一切の情熱がそのなかであれて、それからまたそこを立去つたやうに見えた。出来上つた人間知りの持つ静かな洞觀的の眼光よりほかには、何ものも残つては居なかつたが、この眼光は自

は、ずつと前からあつた。5. 佛の Secalpen 縣の主都、佛語では Nice と云ふ、風景絶佳を以て世に知られてゐる。6. 中伊の同名の州の港町。7. in etwas [三] wählen 或もののなかなを描き廻はす、畝や溝をほる；此 in は三格支配；in den Hearou wählen 毛髪をかきむしる。

jedes Auge verscheuchte, worauf⁸ er traf. Dieser seltsame Mensch folgte uns von weitem, schien aber an⁹ allem, was vorging, nur einen nachlässigen Anteil zu nehmen.

18. Wir kamen vor eine Bude zu stehen, wo Lotterie gezogen wurde. Die Damen setzten ein, wir andern folgten ihrem Beispiel; auch der Prinz forderte ein Los. Es gewann eine Tabatiere. Als er sie aufmachte, sah ich ihn blaß zurückfahren, — Der Schlüssel lag darin.

„Was ist das?“ sagte der Prinz zu mir, als wir einen Augenblick allein waren. „Eine höhere Gewalt verfolgt mich. Allwissenheit schwebt um mich. Ein unsichtbares Wesen, dem ich nicht entfliehen kann, bewacht alle meine Schritte. Ich muß den Armenier ausuchen und muß Licht von ihm haben.“

Die Sonne neigte sich zum Untergang, als wir vor dem Lusthause ankamen, wo das Abendessen serviert war. Der Name des Prinzen hatte unsere Gesellschaft bis zu sechzehn Personen vergrößert. Außer den oben erwähnten war noch ein Virtuose aus¹ Rom, einige Schweizer und ein Aventurier aus Palermo,² der Uniform trug und sich für einen Kapitän

8. auf etwas [四] treffen 或ものに出逢ふ。9. an etwas [三] Anteil nehmen 或ものに注意を拂ふ、或ものに興味を感じる。

己の遭遇するいづれの眼をも追ひ退けたのであつた。この妙な人間は遠くの方からわれらの後をつけて來たが、起つたすべての事件に對しては、ほんの僅かな注意だけを拂ふやうに見えた。

十八、われらは富籤が引かれる小屋の前に立つことになつた。淑女たちは、籤を買つた。われらほかの人々は、婦人連の例にならつた。公子もまた一本の籤を求めた。その籤は嗅煙草入れを引きあてた。彼れがそれを開けたときに、私は彼れが青くなつて、たちろぐのを見た——鍵が其中にあつたのである。

『これは何ですか?』と、一寸の間われらだけになつた時、公子は私に向つて云つた。『——より高い力が私を追ひかけて居る。全知が私の周りに搖動してゐる。それから私の免れる事が出来ない或目に見えぬものが、私のすべての歩みを監視して居る。私はアルメニア人を捜し出さうと思ふ、そして彼れから説明を得なければならない。』

われらが、夕食の用意されてあつたところの園亭の前についた時には、太陽は沈まんとして傾いてあつた。公子の名はわれらの仲間を、十六名にまで増加したのであつた。上述の人たちのほかになほ、羅馬からの音樂通、二三の瑞西人、パレルモ出の冒險家——この人は軍服をつ

18. 1. 出身地をあらはす aus. 2. Sizilien (シシリア) の Palermo 縣の首都; Aventurier (はフランス語にて「アヴァンチュリエ」と讀む、Abenteurer の義。

ausgab, zu uns gestoßen. Es ward beschlossen, den ganzen Abend hier zuzubringen und mit Fackeln nach Hause zu fahren. Die Unterhaltung bei³ Tische war sehr lebhaft, und der Prinz konnte nicht umhin,⁴ die Begebenheit mit dem Schlüssel zu erzählen, welche eine allgemeine Verwunderung erregte. Es wurde heftig über diese Materie gestritten. Die meisten aus der Gesellschaft behaupteten dreist weg, daß alle diese geheimen Künste auf⁵ eine Taschenspielerlei hinaus liefen; der Abbé, der schon viel Wein bei sich⁶ hatte, forderte das ganze Geisterreich in die Schranken⁷ heraus; der Engländer sagte Blasphemien; der Musikus machte das Kreuz⁸ vor dem Teufel. Wenige, worunter der Prinz war, hielten⁹ dafür, daß man sein Urteil über diese Dinge zurückhalten müsse; während¹⁰ dessen unterhielt sich der russische Offizier mit den Frauenzimmern und schien das ganze Gespräch nicht zu achten. In der Hitze des Streits hatte man nicht bemerkt, daß der Sizilianer hinausgegangen war. Nach Verfluß einer kleinen halben Stunde kam er wieder in einen Mantel gehüllt und stellte sich hinter den

3. bei Tisch(e) 食事中。 4. nicht umhin können 云々せざるを得ず。 5. auf etwas hinaus laufen 結局 etwas に歸す、結局 etwas になる。 6. 此關係文章の意味は畢竟「大分酩酊してゐたところの」の義。 7. in die Schranken herausfordern 試合な

け、陸軍大尉だと自稱してゐた——などが、われらに加はつた。夕方一ぱいをこゝに送つて、松明を携へて家路に就くやうに決定された。食事の間の會話は、甚だ活潑であつた、公子は鍵に關しての出來事を物語らざるを得なかつた。この出來事は一般の驚愕を引き起した。この事柄について、激しく論争されたのであつた。集まれる人達の大抵のものは、すべてこれらの秘密な術は、手品に歸するのだと、大膽に主張した。もう大分酒を飲んだ僧院長は、全靈界に試合を申込んだ、英國人は神を冒瀆するやうな事を云つた。音樂師は惡魔を拂ふ十字を切つた。僅少の人達——そのなかには公子も居た——は此事については、人は自分の判斷を差控ゑなければならぬと考へた。この間に露西亞の士官は、婦人たちと話しをして居た、そして此會話全體を注意しないやうに見えた。論争の激しさにおいて、人々はシシリア人)(パレルモ出の人)が出かけて行つたのに氣づかなかつた。小半時間經過後に、彼はまたマントに包まれてやつて來た、そして佛蘭西人の椅子のうしろに立つた。「あなたは先程、すべての

挑む。 8. das Kreuz machen 十字を切る (惡魔を防ぐために) 9. für etwas halten 云々ださ考へる。 10. während dessen = indessen.

Stuhl des Franzosen. „Sie haben vorhin die Bravour geäußert, es¹¹ mit allen Geistern aufzunehmen—wollen Sie es¹² mit einem versuchen?“

19. „Topp!“¹ sagte der Abbé— „wenn Sie es auf² sich nehmen wollen, mir einen herbei zu schaffen.“

„Das will ich,“ antwortete der Sizilianer (indem er sich gegen uns kehrte), „wenn diese Herren und Damen uns werden verlassen haben.“

„Warum³ das?“ rief der Engländer. „Ein herzhafter Geist fürchtet sich vor keiner lustigen Gesellschaft.“

„Ich stehe nicht für⁴ den Ausgang,“ sagte der Sizilianer.

„Um des Himmels willen! Nein!“ schrieen die Frauenzimmer an dem Tische und fuhren erschrocken von ihren Stühlen.

„Lassen Sie Ihren Geist kommen,“ sagte der Abbé trotzig; „aber warnen Sie ihn vorher, daß es hier spitze Klingen gibt“ (indem er einen von den Gästen um seinen Degen bat).

„Das mögen⁵ Sie alsdann halten, wie Sie

11. es mit einem aufnehmen 或人と戦ふ。 12. es mit einem versuchen 或人と力を比へ試めず。

19. 1. topp よろしい (同意を示す)! 伊の tope, tope là より来る。 2. etwas auf sich nehmen 或こゝを引きうける。 3. 「何故にわれらはこゝを立ち去らねばならぬのか?」の義。 4. für etwas stehen 或事に對して責任を負ふ。 5. 此 halten 1

靈と戦はうといふ大膽な事を云はれたが、では一つの靈と腕比べして見やうと思ひますかね?」

十九、『よろしい』と僧院長は云つた。『私のために、或心靈を呼び出すことを、あなたが引き受けやうといふ考へなら。』

『それは引き受けませう』とシ、リヤ人は (われわれの方に向きながら) 答へた、『この紳士淑女のかたがたが、御立退きなさつたらば。』

『それはどういふ譯で?』と英人は叫んだ。『勇氣のある靈ならば、愉快な集合を恐がる筈がない』

『結果に對しては、私は責を負ひません』とシシリア人は云つた。

『後生だから! よして頂戴!』と卓に就いて居た婦人たちが叫んだ。そして彼ら等の椅子から、びつくりして跳ね上つた。

『あなたの靈つて奴を來さして下さい』と僧院長は傲然として云つた。『しかし豫めそいつに警告して置きなさい。こゝに鋭い劍があるつて事を』(彼は客の一人に劍を貸すやうに頼みながら、[さう云つた])。

『その事は、その時になつて、なさりたいやうになさる「行動する」義; mögen するがよい; alsdann は次の文章の wenn と呼應する; 直譯: その事なら (das=in Bezug auf das) あそこでああなたが、そうする (劍を使ふ) 勇氣をなほ持つて居るなら (wenn), その時 (so dann=dann) は、おすきなやうにするがよい; 他の例: Du kannst es halten, wie du willst. 君がやりた通りになるがよい ([英] You can do as you will.)

wollen,“ antwortete der Sizilianer kalt, „wenn Sie nachher noch Lust dazu⁶ haben.“ Hier kehrte er sich zum Prinzen. „Gnädigster Herr,“ sagte er zu diesem, „Sie behaupten, daß Ihr Schlüssel in fremden Händen gewesen. — Können Sie vermuten, in welchen?“

„Nein.“

„Raten Sie auch auf⁷ niemand?“

„Ich hatte freilich einen Gedanken“ —

„Würden Sie die Person erkennen, wenn Sie sie von sich sähen?“

„Ohne Zweifel.“

„Hier schlug der Sizilianer seinen Mantel zurück und zog einen Spiegel hervor, den er dem Prinzen vor die Augen hielt.

„Ist es diese?“⁸

Der Prinz trat mit Schrecken zurück.

„Was haben Sie gesehen?“ fragte ich.

„Den Armenier.“

20. Der Sizilianer verbarg seinen Spiegel wieder unter dem Mantel. „War es dieselbe Person, die Sie meinen?“ fragte die ganze Gesellschaft den Prinzen.

„Die nämliche.“

Hier veränderte sich jedes Gesicht, man hörte auf zu lachen. Alle Augen hingen neugierig

6. Lust zu etwas (od. etwas zu tun) haben 云々する (元) 氣がある 9. 貴方 Sie Lust dazu (od. das zu tun)? 貴方はさう

がよい』とシシリア人は冷淡に答へた。『もしあとになつてもなほ、さうする元氣があつたらです』こゝで彼は公子の方を向いた。『貴下』と彼は公子に云つた。『あなたは、鍵がほかの人の手の中にあつたと主張なさいますね。——誰れの手の中にあつたか、推量がつきますか?』

『いや』

『誰れだかつて事の見當すら、つきませんか?』

『私は、成程或考へを持つては居ますが——』

『あなたが、もし其人物を眼の前に見られたなら、見分けがつきませうか?』

『たしかに』

こゝでシシリア人は、彼れのマントをはね返へして、一つの鏡を取り出し、それを公子の眼の前に差しつけた。

『この人ですか?』

公子は驚いて、後退した。

『何を御覽でしたか?』私は訊ねた。

『アルメニア人を』

二十、シシリア人は、彼れの鏡をまたもやマントの下に隠した。『それはあなたがお考へのと同じ人物ですか?』と集まれる全部の人たちが公子に訊ねた。

『同じ人です』

此時いづれの人顔色も變つた。人々は笑ふことをやめた。すべての人々の眼は、好奇的にシシリア人に注が

する(元)氣がありますか? 7. auf einen raten 或人ださ考へつく、或人ださあてて見る。8. diese=diese Person.

an dem Sizilianer.

„Monsieur! l'Abbé, das Ding wird ernsthaft,“ sagte der Engländer; „ich riet' Ihnen, auf² den Rückzug zu denken.“

„Der Kerl hat den Teufel im Leibe,“ schrie der Franzose und lief aus dem Hause, die Frauenzimmer stürzten mit Geschrei aus dem Saal, der Virtuose folgte ihnen, der deutsche Domherr schnarchte in einem Sessel, der Russe blieb wie bisher gleichgültig sitzen.

„Sie wollten vielleicht nur einen Großsprecher³ zum Gelächter machen,“ fing der Prinz wieder an, nachdem jene hinaus waren — „oder hätten⁴ Sie wohl Lust, uns Wort zu halten?“

„Es ist wahr,“ sagte der Sizilianer. „Mit dem Abbé war es mein Ernst nicht, ich tat ihm den Antrag nur, weil ich wohl wußte, daß die Memme mich⁵ nicht beim Wort nehmen würde. — Die Sache selbst ist übrigens zu ernsthaft, um bloß einen Scherz damit⁶ auszuführen.“

21. „Sie räumen also doch¹ ein, daß sie in Ihrer Gewalt ist?“

20. 1. Monsieur (ムシユウ) l'Abbé (ラベ) = Herr Abt. 但し此呼び懸けにはいさゝか輕侮の趣がある。2. auf etwas denken 或こゝを考案・考慮・工夫する。3. Großsprecher 大言壯語家; こゝでは Abbé の事; einen zum Gelächter machen 或人を笑はれ者(物笑ひのたれ)にする。4. 此 hätten は疑惑(Zweifel)をあらはす Konjunktiv であつて (ich glaube kaum [私には一

れたのである。

『僧院長さん、事は眞¹になりましたよ。』と英人は云つた。『退却の思案をなさるやうに、貴方におすすめたいのです。』

『奴は、からだの中に悪魔を住ませてるのだ』と佛蘭西人は叫んだ。そして家の中から走り出した、婦人達は叫喚の聲をあげて廣間からとび出して行つた、音樂通は彼等のあとに續いた。獨逸の扶持僧は、肘掛椅子で軒をかいてゐた、露西亞人は、今まで通り、無關心で座つて居た。

『あなたは多分、一人の法螺吹きを、物笑ひのたねにしやうとだけはなすつたのでせう。』と公子は、かの人達が出て行つてから、また初めた。『それとも、或はわたし達に對して、約束を守らうと云ふ氣で、御ありですか?』

『それあ本當ですよ』とシシリヤ人が云つた。『僧院長相手のことは、私の眞面目ではないのです。私はあの臆病者が、私の言葉をつかまへて、實行を迫まりはしない事を、ちやんと知つてゐたから、それであの人に提議して見たのに過ぎなかつたのです。——しかし事件そのものは、それで笑談をやるには、あまり眞面目すぎるのです』

二十一、『それならあなたは、あの一件があなたの力で出来る²と承認されるわけですか』

寸そう思はれぬが)の意を含む。) 5. einen beim Wort nehmen 或人の言質によつて其實行を迫る; die Memme 臆病者を云ふので、臆病女の事ではない。6. damit = mit der Sache; zu = [英] too.

21. 1. 主張文章の構造を有する疑問文章中に於ける doch は、「左様です」と云ふ答を豫期してゐる; einräumen 認容する。

Der Magier schwieg eine lange Zeit, und schien den Prinzen sorgfältig mit den Augen zu prüfen.

„Ja,“ antwortete er endlich.

Die Neugierde des Prinzen war bereits auf den höchsten Grad gespannt. Mit der Geisterwelt in Verbindung zu stehen, war ehemals seine Lieblingsschwärmerei gewesen, und seit jener ersten Erscheinung des Armeniers hatten sich alle Ideen wieder bei ihm gemeldet,² die seine reifere Vernunft so lange abgewiesen hatte. Er ging mit dem Sizilianer beiseite, und ich hörte ihn sehr angelegentlich mit ihm unterhandeln.³

„Sie haben⁴ hier einen Mann vor sich,“ fuhr er fort, „der von Ungeduld brennt, in dieser wichtigen Materie es⁵ zu einer Überzeugung zu bringen. Ich würde denjenigen⁶ als meinen Wohltäter, als meinen ersten Freund umarmen, der⁶ hier meine Zweifel zerstreute und die Decke von meinen Augen zöge — Wollen Sie sich dieses große Verdienst um mich⁷ erwerben?“

„Was verlangen Sie von mir?“ sagte der Magier mit Bedenken.

2. sich bei einem melden 或人の方へ來訪する、ある人のもとへ出頭する；こゝでは、彼の心に起る。3. mit einem über etwas unterhandeln 或人或事について談判する、交渉する。4. 意譯：あなたの前に居るこの私は……云々である。5. es zu

魔術師は暫くの間、黙つて居た。そして自らの眼で、公子を用心深く檢べるやうに見えた。

『左様です』と彼は遂に答へた。

公子の好奇心は、もはや最高の程度に緊張して居たのであつた。靈界と交通する事は、これまで彼の最愛の妄想であつた、アルメニア人の初めて出現してからこの方、永い間彼れの——成熟せる理性が、拒否して居たすべての觀念が、今やまた彼れを訪れて來たのであつた。彼はシリア人とわきの方へ行つた、私は公子が甚だ熱心に、彼と談合して居るのを聞いた。

『あなたはあなたの前に、此重大な事柄に於て、或確信に達しやうといらだつて居る一人の人を持つて居るのです。』と彼はつゞけて云つた。『私はこゝで私の疑惑を晴らし、私の目から目かくしを取り除いて呉れた人を、私の恩人、私の第一の友人として抱擁するでせう。——あなたは、私の爲に、此大きな盡力をなすつて下さいますか?』

『何をあなたは、わたしからお求めになるのです?』と魔術師は躊躇しながら云つた。

einer (Erzeugung bringen 「確信に達する」) ことで、es は習慣的に用ゐられしものにして、不定の補足語である。6. denjenigen は der と關係す。7. ein Verdienst um einen erwerben 或人のために或盡力をなす、或効績を立てる。

„Für⁸ jetzt nur eine Probe Ihrer Kunst. Lassen Sie mich eine Erscheinung sehen.“

„Wozu soll das führen?“

„Dann mögen Sie aus meiner nähern Bekanntschaft urteilen, ob ich eines höhern Unterrichtswert⁹ bin.“

22. „Ich schätze¹ Sie über alles, gnädigster Prinz. Eine geheime Gewalt in Ihrem Angesichte, die Sie selbst noch nicht kennen, hat mich beim ersten Anblick unwiderstehlich an Sie gebunden. Sie sind mächtiger, als Sie selbst wissen. Sie haben² unumschränkt über meine ganze Gewalt zu² gebieten — aber —“

„Also lassen Sie mich eine Erscheinung sehen.“

„Aber ich muß erst gewiß sein, daß Sie diese Forderung nicht aus Neugierde an mich machen. Wenn gleich die unsichtbaren Kräfte mir³ einigermaßen zu³ Willen sind, so ist es unter der heiligen Bedingung, daß ich die heiligen Geheimnisse nicht profaniere, daß ich meine Gewalt nicht mißbrauche.“

„Meine Absichten sind die reinsten. Ich will Wahrheit.“

8. jetzt=für jetzt 今のところ。9. 金銭的価値以外の価値をあらはす wert は、二格を要求する。

22. 1 此 schätzen は「評価する」意味ではなくて、「尊重する」の義である。2. über etwas gebieten 或ものを支配する；

「今のところは、たゞあなたの術の見本丈けでよろしいのです。私に一つ幽霊を見せて下さい。」

「それがどう云ふ結果になるのです？」

「さうすれば、あなたが私を一層良く知ることでもつて、——高い教を受ける値を私が持つて居るかどうか、判定なされるでせうから。」

二十二、『私はあなたをこの上なく尊重いたして居ります、殿下。あなたの御相貌に存する或秘密な力が——あなた御自身でまだ御知りにならぬ或秘密な力が、——最初御目にかゝつた瞬間に、抗し難い強さで、私をあなたに結びつけました。あなたはあなた御自身が知つてゐるよりも、ずつと力強いのです。あなたは無制限に私の力全體を支配する資格を持つておいでです。——然し——』

「それでは、あなたは私に一つ幽霊を見せて下さい。」

『然し私はあなたが此要求を、好奇心からして私に對してなさるのではないと云ふ事について、まづ確かに知らなければならぬのです。たとへ眼に見えぬ力が、或程度まで私の意のまゝになるとしても、それは、私が聖なる秘密を汚さず、また私の力をば濫用しないと云ふ神聖な条件のもとに於てであります。』

「私の目的は至純なものです、私は眞理を知りたいのです。」

Sie haben.....zu gebieten では haben zu さかゝるのではなくて、gebieten する力なり、資格なりを有すること；「ればならぬ」の haben zu と區別するを要す。3. einem zu Willen sein 或人の意のまゝである。

Hier verließen sie ihren Platz und traten zu einem entfernten Fenster, wo ich sie nicht weiter hören konnte. Der Engländer, der diese Unterredung gleichfalls⁴ mit angehört hatte, zog mich auf die Seite.

„Ihr Prinz ist ein edler Mann. Ich beklage, daß er sich mit einem Betrüger einläßt.“

„Es wird darauf ankommen,“⁶ sagte ich, „wie er sich aus dem Handel zieht.“

23. „Wissen Sie was?“¹ sagte der Engländer: „Jetzt macht der arme Teufel sich² kostbar. Er wird seine Kunst nicht auskramen, bis er Geld klingen hört. Es sind unser³ neune. Wir wollen eine Kollekte machen und ihn durch einen hohen Preis in Versuchung führen. Das bricht ihm⁴ den Hals und öffnet vielleicht Ihrem Prinzen die Augen.“

„Ich bin's zufrieden.“

Der Engländer warf sechs Guineen⁵ auf einen Teller und sammelte in der Reihe herum. Jeder gab einige Louis,⁶ den Russen besonders schien unser Vorschlag ungemein zu interessieren; er

4. gleichfalls (私と) 同様に; mit (は) 副詞で、あづかりて、一緒。5. sich mit einem einlassen 或人の相手となる、或人と交際する。6. Es kommt auf etwas an. Etwas 次第である、萬事は etwas に基く、要は etwas に歸する; wie 如何にして; er = Betrüger, これを er = Prinz とする Heath 版の註は取らない。

23. 1. Wissen Sie was? どうしてよいか云つてあげやうか、かうしたらどうです ([英] = I'll tell you what.) 2. sich

こゝで彼等は彼等の場所を去つて、一つの離れた窓のほとりへ歩いて行つた、そこで彼等の話すのを私は最早聞くことが出来なかつた。私と同様に、此會話をあづかり聞いたところの英人は、私を側の方へ引いて行つた。

『あなたの公子は、高尚な方です。私はあの方が詐欺師の相手となる事を、いたみます。』

『肝要なのは、どう云ふ風にして、あの男が、この取引から手を引くかと云ふ事で、萬事はそれによるでせう』と私は云つた。

二十三、『かうしてはどうですか、貴君』と英人は云つた、『今あいつは大變勿體ぶつてゐます。あいつは金の響をきくまでは、あいつの術は見せないでせう。わたしたちは九人です。わたしたちは釀金をして、高い賞金で、あいつを誘惑してやらうではありませんか、さうすれば彼は、ぼろを出して、恐らくあなたの公子の眼を開く事になるでせう。』

『私は同意です。』

英國人は六ギニイを皿の上に投げた、そして順に廻つて金を集めた。人々は各二三ルーイを出した、われらの提案は、特は露西亞人の興味を非常に喚び起したやうに kostbar machen たら相にしてゐる、勿體ぶる; der arme Teufel 憐れな奴、こゝでは蔑稱。3. auskramen 見せる、陳列する。4. unser (は wir の二格; われらについて ([英] = of us) neune = neun. 4. einem den Hals brechen 或人をまゐらせる (降参させる); こゝでは彼のぼろをさらけ出すこと。5. 單數は die Guinee 英の金貨 1816 まで行はる; ギニーと讀む、ダイニーにあらず。6. ルーイと讀む、佛の金貨。

legte eine Banknote von hundert Zechinen⁷ auf den Teller — eine Verschwendung, über⁸ welche der Engländer erstaunte. Wir brachten die Kollekte dem Prinzen. „Haben⁹ Sie die Güte,“ sagte der Engländer, „bei diesem Herrn für uns¹⁰ fürzusprechen, daß er uns eine Probe seiner Kunst sehen lasse und diesen kleinen Beweis unsrer Erkenntlichkeit annehme.“ Der Prinz legte noch einen kostbaren Ring auf den Teller und reichte ihn dem Sizilianer. Dieser bedachte sich einige Sekunden. — „Meine Herren und Gönner,“ fing er darauf an, „diese Großmut beschämt mich. — Es scheint, daß Sie mich verkennen — aber ich gebe ihrem Verlangen nach. Ihr Wunsch soll¹¹ erfüllt werden“ (indem er eine Glocke zog). „Was¹² dieses Gold betrifft, worauf¹³ ich selber kein Recht habe, so werden Sie mir erlauben, daß ich es in dem nächsten Benediktinerkloster¹⁴ für¹⁵ milde Stiftungen niederlege. Diesen Ring behalte ich als ein schätzbares Denkmal, das mich¹⁵ an den würdigsten Prinzen ^{erinnern} soll.“

7. die Zechine 伊太利の金貨。8. über etwas erstaunen 或ことをおどろく。9. Haben Sie die Güte, etwas zu tun! 或事をなすと云ふ好意を持つて下さい; 人に頼むときの語法。10. bei einem für einen fürsprechen 或人の代りに、或人に願ふ・頼む。11. 確言・約束をあらはす sollen; Du sollst das haben, それを前にやるぞ。12. was.....betrifft 或事に關しては (〔英〕

見えた。彼は百ツェヒエネの銀行券を皿の上に置いた、それは一個の浪費であつて、それについて英吉利人は喫驚したのであつた。彼は集まつた金を公子のもとへ持つて來た。『われわれに代つて、あなたがあの紳士にお頼み下さい。』英國人は云つた、『あの^{じん}仁が自分の術の見本をわれらに見せ、そしてわれわれの感謝のさゝやかな印を受取りますやうに。』公子はなほ一つの貴重な指輪を皿の上に載せた。そして其皿をシシリア人に渡した。後者は二三秒の間熟考した。——『わが紳士且つ庇護者の方々』と彼はそれから云ひ初めた。『此宏寛なる度量に對しては、私は慚愧たるものであります。——あなた方は私を誤解してゐるやうに見えます。——然し私はあなた方のお望みに従ひます。あなた方の御希望は實現されます。』(彼は一つの呼鈴を引きながらさう云つた)。『それに對して私自身何等の權利だも有せざる此金貨に關しましては、私がこれを慈善事業のために、最も手近かなベネディクト派の僧院に寄託する事を、あなた方は私にお許し下さるでせう。此指輪は、最も尊貴なる公子を、私に思ひ出させる貴重な記念品として、いたゞいて置きます。』

as to (what concerns); Recht auf etwas haben 或ものを要求する權利を持つ; Recht zu etwas haben 或事をなす權利を持つ; worauf の wo は Gold にかゝる。13. Benedikt 派は、紀元 592 聖 Benedikt になつて作られたる僧團。14. milde Stiftungen いろいろの慈善事業。15. einen an etwas erinnern 或人をして或事を思ひおこさしむる。

24. Hier kam der Wirt, dem er das Geld sogleich überlieferte.

„Und er ist dennoch ein Schurke,“ sagte mir der Engländer ins Ohr. „Das Geld schlägt er aus, weil ihm jetzt mehr an dem Prinzen gelegen ist.“

„Oder der Wirt versteht seinen Auftrag,“ sagte ein anderer.

„Wen verlangen Sie?“ fragte jetzt der Magier den Prinzen.

Der Prinz besann sich einen Augenblick — „Lieber gleich einen großen Mann,“ rief der Lord. „Fordern Sie den Papst Ganganelli! Dem Herrn wird das gleich² wenig kosten.“

Der Sizilianer biß sich³ in die Lippen. — „Ich darf⁴ keinen zitieren, der die Weihung empfangen hat.“

„Das ist schlimm,“ sagte der Engländer. „Vielleicht hätten⁵ wir von ihm erfahren, an welcher Krankheit er gestorben ist.“

„Der Marquis von⁶ Lanoy,“ nahm der Prinz

24. 1. Ganganelli (1705 生) は Clemens XVI と云ふ名前のもとに、1769 から、1774 まで羅馬法王であつた。彼は長、疾患の後に死んだ、世人は彼が反對黨のために一轉に彼が 1773 年に解散せしめたイエズイット教團の人々のために一毒殺されたのであると信じた。2. gleich 法王ならぬ他の人の靈を呼ぶと同様に: einem wenig kosten 或人には骨が折れぬ、譯けなく出来る。3. sich は四格。4. dürfen nicht は (1) 云々してはいけない、云

二十四、この時主人があらはれた、彼は直ちに主人に^地金を渡したのである。

『それでもあいつは悪漢ですよ』英國人は私に耳語した。『あいつには今は、公子の方が金よりももつと大事な^{こと}ので、金を斷はるのです。』

『でなければ、主人が彼れの委托をのみ込んで居るのです』と或別な人が云つた。

『誰れ (の靈) をお望みになるのですか?』と魔術師が、今や公子に問うた。

公子は一寸の間思案した。——『むしろすぐに偉い人 (の靈) を』と、^{ノード}卿は叫んだ。『法王ガンガネリを所望しなざるがよい。あの方には、いづれにしても、骨は折れまいから。』

シシリヤ人は唇を嚙んだ。『僧官授與式を受けた人を喚び出すことを、私は敢えていたしません。』

『それは残念だ』と英人が云つた。『わたしたちは多分、法王が何の病氣で死んだのか、法王自身から聞けましたらうのに。』

『マルキー (侯爵)・ド・ラノワは』と今や公子は云ひ初め

々することは許されない、(2) 敢えてしない (= wagen nicht) と二様の取り方があるが、こゝではしばらく、英の Bohn's Libraries の譯に賛成して、後者の方だと置いて置く。5. 「もし幽靈が出現したら」と云ふ前提が略してある; hätten erfahren は此假定に基づく結論を示す Konjunktiv. 6. 狐逸の von はフランスで de だから、本文のやうにして置いた。

jetzt das⁷ Wort, „war französischer Brigadier im vorigen Kriege und mein vertrautester Freund. In der Bataille⁸ bei Hastenbeck empfing er eine tödliche Wunde, man trug ihn nach meinem Zelte, wo er bald darauf in meinen Armen starb. Als er schon mit dem Tode rang, winkte er mich noch⁹ zu sich. ‚Prinz,‘ fing er an, ‚ich werde mein Vaterland nicht wiedersehen, erfahren Sie also ein Geheimnis, wozu niemand als ich den Schlüssel hat. In einem Kloster auf der flandrischen¹⁰ Grenze lebt eine¹¹ — —‘ hier verschied er. Die Hand des Todes zertrennte den Faden seiner Rede; ich möchte ihn hier haben und die Fortsetzung hören.“

„Viel gefordert, bei Gott!“ rief der Engländer. „Ich erkläre Sie für einen zweiten Salomo,¹⁴ wenn Sie diese Aufgabe lösen.“ —

25. Wir bewunderten die sinnreiche Wahl des Prinzen, und gaben ihr einstimmig unsern Beifall. Unterdessen ging der Magier mit starken Schritten auf und nieder und schien unentschlossen mit sich zu kämpfen. /

7. das Wort nehmen 云ひ初める。8. Hastenbeck の會戦は 1757 で英軍が敗北し、獨佛軍が勝つた; Hastenbeck は Hannover にある地名; 又 Bataille は佛語で、batalj と讀む。9. noch は noch einmal (もう一度) の意。10. Flandern の ([英] Flanders の); Flandern とは、現今の白耳義と和蘭の一

た、『此前の戦争では、佛軍の旅團長であつて、また私の極の親友でした。ハステンベックの會戦で、彼は致命傷を受けました、人々は彼を私の天幕へ運んで來ましたが、そのなかで彼は私の腕に抱かれて間もなく死んだのです。彼が最早斷末魔に來た時、彼はなほ一度私に自分の方へ手招きした。「公子」と彼は話し初めました、「私は私の祖國をもう見る事はないでせう。だから或秘密を聞いて下さい、其秘密に對しては、私より外に何人も、(解決の) 鍵を持つて居ないのです。フランダアの國境の或僧院にひとりの婦——」こゝで彼は事切れて仕舞ひました。死の手が彼の談話の糸を斷ち切つたのでした; 私はこゝで彼に會つて、其續きを聞きたいのです。』

『えらい要求だ、本當に!』と英人は叫んだ。『もしあなたがこの問題をお解きになつたら、私はあなたを、第二のサロモだと聲明しますよ。』——

二十五、われらは公子の聰明なる選擇を賞嘆した、そして異口同音にわれらの贊成を此選擇に向つて與へた。其間に魔術師は力強い足取で、あちこちと歩いて居た、そして決心がつかずに、自らと戦つて居るやうに見えた。

部を抱括せる中古の州の名。11. eine 語尾に注意せよ、次に來るものは、さもなく女性名詞でなければならぬ。12. 澤山要求されてゐる、澤山の要求ですな ([英] That is asking much.) 13. für etwas erklären 云々だと公言・聲明する。14. Salomo とは、聖書に出るソロモンの事である。

„Und das war alles, was der¹ Sterbende Ihnen zu hinterlassen hatte?“

„Alles.“

„Taten Sie keine weiteren Nachfragen deswegen in seinem Vaterlande?“

„Sie waren alle vergebens.“

„Der Marquis von Lanoy hatte untadelhaft gelebt? — Ich darf nicht jeden Toten rufen.“

„Er starb mit Reue über die Ausschweifungen seiner Jugend.“

„Tragen Sie irgend etwa² ein Andenken von ihm³ bei sich?“

„Ja.“ (Der Prinz führte⁴ wirklich eine Tabatiere bei sich, worauf das Miniaturbild des Marquis in Emaillé⁵ war, und die er bei der⁷ Tafel¹ neben sich hatte liegen⁷ gehabt.)

„Ich verlange es nicht zu wissen — — Lassen Sie mich allein. Sie sollen den Verstorbenen⁸ sehen.“

26. Wir wurden gebeten, uns so lange¹ in den andern Pavillon² zu begeben, bis³ er uns

25. 1. sterben (死す) の現在分詞 sterben を名詞的に用ゐたるもの; der Sterbende, ein Sterbender 瀕死の人; 此文章の直譯は「それは、瀕死の人があなたに残すべく持つた全部でしたか?」。2. etwa は irgend 不定的意味を増大する。3. bei sich tragen 手許に、身邊に有する; [例] Ich habe kein Geld bei mir. 今一文も手許に持つてゐません。4. 此 führen も持つ意味。5. Emaillé [佛] は emalje は讀む。英のエナメルのこと。6. bei (der) Tafel=bei Tisch 食事申。7. liegen haben 横へておく、

「そしてそれが、臨終の人のあなたに云ひ残した全部でありますか?」

「全部です。」

「その件のために、あなたは彼れの生國で、よりくはしい詮鑿をさいましたか?」

「それはすべて徒勞でした。」

「マルキー・ド・ラノワは、非難される點なく暮らして居られたのですか? — 私はどの故人でも(随意に)喚び出す事は敢えてしません」

「侯爵は、若い時分の放逸について、後悔しつゝ死にました。」

「あなたは侯爵の記念品とでも云ふやうなものを、御携帶ですか?」

「はい。(公子は實際、一つの喫烟草入れを持つてゐた、その上には侯爵の(肖像の)密書が瑠璃細工で書かれてあり、それを彼は食事の間、自分のそばに置いたのであつた。)

「私はそれを知らうとは要求しません — — 私を一人にして置いて下さい。あなた方にその故人を御覽に入れます。」

二十六、われらは、彼がわれらを喚ぶまで、その間丈

置く。8. versterben の過去分詞 verstorben の名詞的用法; 逝きにし人、本節註 1. と比較せよ; 又此 sollen は前に述べし如く、話者の確言・約束をあらはす。

26. 1. so lange.....bis と呼應する。云々するまで—それ丈の間。2. Pavillon は佛語で、pawil-jon と讀む。「あづまや」「假屋」「離れ屋」。3. mit einem vertraut sein 或人と親しくある。

rufen würde. Zugleich ließ er alle Möbel aus dem Saale räumen, die Fenster ausheben und die Läden auf das genaueste verschließen. Dem Wirt, mit dem³ er schon vertraut zu sein schien, befahl er, ein Gefäß mit glühenden Kohlen zu bringen und alle Feuer im Hause sorgfältig mit Wasser zu löschen. Ehe wir weggingen, nahm er von jedem insbesondere das Ehrenwort, ein ewiges Stillschweigen über das⁴ zu beobachten, was wir sehen und hören würden. Hinter uns wurden alle Zimmer auf⁵ diesem Pavillon verriegelt.

Es war nach elf Uhr, und eine tiefe Stille herrschte im ganzen Hause. Beim⁶ Hinausgehen fragte mich der Russe, ob wir geladene Pistolen bei uns hätten? — „Wozu?“ sagte ich. — „Es ist auf⁷ alle Fälle,“ versetzte er. „Warten Sie einen Augenblick, ich will mich⁸ danach umsehen.“ Er entfernte sich. Der Baron von F*** und ich öffneten ein Fenster, das jenem Pavillon gegenüber⁹ sah, und es kam uns vor, als hörten¹⁰ wir zwei Menschen zusammen flüstern und ein Geräusch,¹¹ als ob man eine

4. das.....was さかゝる; 吾人が見たり聞いたりするであらうところの事。5. auf は屢 in の意味に用ゐらる; auf das Zimmer gehen=in das Zimmer gehen; auf dem Zimmer sein=in dem Zimmer sein。6. 動詞 hinausgehen の不定法を名詞として用ゐるもの; bei 際に。7. 「あらゆる事變に對してである」の義〔英〕for all emergencies); auf alle Fälle には

け、別の離れ屋に赴くやうに頼まれた。同時に彼はすべての家具を廣間から取り除かせ、窓を取りはづし、窓の扉を極めて嚴密に閉さしめた。彼は、彼がそれと最早親しくあるやうに見えたところの主人に、燃えつゝある炭を或¹¹容器に入れて、持つて來るやうに、そして家の中に在るすべての火を水で丁寧に消すやうに命令した。われわれが立ち去る前に、これからわれらが見聞するであらう事について、永遠の沈黙を守るやうに各人から、彼は特に誓詞を取つたのである。われらの(立ち去れる)うしろに於て、この亭¹¹のすべての部屋は門をおろされた。

十一時過ぎであつた。深い静けさが家ぢうに遍満してゐた。部屋を出る際に、露西亞人は私に尋ねた、われわれが装填せるピストルを携帯してゐるどうかと。—『何のためにですか』と私は云つた。『——一切の場合に對してですよ』と彼は答へた。『一寸お待ち下さい、私がそれをさがしませう。』彼は立ち去つた。フォン・エフ男爵と私とは、夫の亭に向つて居る窓を開いた、われらには二人の人間が共にさゝやいてゐるのを聞いたやうに思はれた、そしてまただれかゝ梯子をかけるかの如き物音も、耳にした。また「是非共」の意味があるが、それではない。8. sich nach etwas umsehen 或ものをさがす。9. gegenüber sehen これは只「に向つて開いて居る」の義。10. als ob wir.....hörten の ob を除いたために、hörten がそのあさへ上つて來たのである。11. Geräusch も hörten の Objekt である。

Leiter anlegte. Doch war das nur eine Mutmaßung, und ich getraue¹² mir nicht, sie für¹³ wahr auszugeben. Der Russe kam mit einem Paar Pistolen zurück, nachdem er eine halbe Stunde ausgeblieben¹⁴ war. Wir sahen sie ihn¹⁵ scharf laden. Es war beinahe zwei Uhr, als der Magier wieder erschien und uns ankündigte, daß es Zeit wäre. Ehe wir hineintraten, ward uns befohlen, die Schuhe auszuziehen und im¹⁶ bloßen Hemde, Strümpfen und Unterkleidern zu erscheinen. Hinter uns wurde, wie das erste Mal, verriegelt.

27. Wir fanden, als wir in den Saal zurückkamen, mit einer Kohle einen weiten Kreis beschrieben, der uns alle zehn bequem fassen konnte. Ringsherum an allen vier Wänden des Zimmers waren die Dielen weggehoben, daß wir gleichsam auf einer Insel standen. Ein Altar, mit schwarzem Tuch behangen,¹ stand mitten im Kreis errichtet, unter welchen ein Teppich von rotem Atlas gebreitet war. Eine chaldäische Bibel lag bei einem Totenkopf aufgeschlagen auf dem Altar, und ein silbernes Kruzifix war darauf² fest gemacht. Statt der

12. sich (三) getrauen, etwas zu tun 或こまなすべく敢えてする、或事をする勇氣がある。13. für wahr ausgeben 眞實だとして陳述する; für は「さして」(〔英〕 as). 14. ausbleiben 留守をする、見えない、居ない。15. sie = Pistolen; ihm =

やうに思はれた。然しそれはほんの一個の推測に過ぎなかつた。私はそれを事實だと云ふ程の勇氣を持つて居ない。露西亞人は、半時間も不在の後に、一對のピストルを携へて歸つて來た。われらは彼がそれらに實彈を裝填するのを見た。魔術師が再び現はれて、(今やその)時間であると告げた時に、それは殆んど二時であつた。われらが入る前に、靴を脱ぐやうに、それから襦衣と靴下とズボン丈けを着けて現はれるやうに、命令された。われらのうしろでは、初めの時のやうに、門がおろされた。

二十七、われらが廣間へやつて來たときに、われらは、石炭で一つの廣い輪が描かれて居るのを見出した。その輪はわれら十人をゆつくりと收容し得たのである。室のすべての四方の壁に沿うてすうつと、床板があげられて居たので、われらは云はゞ一つの島の上に立つてゐる形であつた。黒い布で蔽はれた一つの祭壇が、輪のまつたゞ中に立てられてゐた、其祭壇の下には、赤い繻子の絨緞が擴げられてあつた。一冊のカルディア語の聖書が祭壇の上に開かれて、一個の頭蓋骨のそばにあつた、そして銀製の十字架が、祭壇の上にしつかりと、取付けられて居た。蠟燭の代

Russe; scharf laden 實彈をこめる。16. im bloßen Hemde ワイシャツだけで、上着をつけずに。

27. 1. mit etwas behangen (od. behängt) 或もので覆はれて。2. darauf の da は Tisch.

Kerzen brannte Spiritus in einer silbernen Kapsel. Ein dicker Rauch von Olibanum verfinsterte den Saal, davon³ das Licht beinahe erstickte. Der Beschwörer war entkleidet, wie wir, aber barfuß; um den bloßen Hals trug er ein Amulett⁴ an einer Kette von Menschenhaaren, um die Lenden hatte er eine weiße Schürze geschlagen, die mit geheimen Chiffern⁵ und symbolischen Figuren bezeichnet⁶ war. Er hieß uns einander die Hände reichen und eine tiefe Stille beobachten; vorzüglich empfahl er uns, ja keine Frage an die Erscheinung zu tun. Den Engländer und mich (gegen uns beide schien er das meiste Mißtrauen zu hegen) ersuchte er, zwei bloße Degen unverrückt und kreuzweise einen Zoll hoch über seinem Scheitel zu halten, solange die Handlung dauern würde. Wir standen in einem halben Mond um ihn herum, der russische Offizier drängte sich dicht an den Engländer und stand zunächst an dem Altar. Das Gesicht gegen Morgen⁸ gerichtet, stellte sich der Magier jetzt auf den Teppich, sprengte Weihwasser nach allen vier Weltge-

3. davon=wovon, 前文の意味全體を受くる was の代りの wo に von をつけたるもの; そのことのために。4. Amulet(t) 護符; 魔よけの符とも云ふべきもので、毛髪製の鎖は、これの神聖性を示すためである。5. Chiffer 又は Chiffre 或は Ziffer, [英] cipher は、こゝでは、秘密文字の義。6. etwas mit etwas (z. B. Figuren) bezeichnen 或ものに或もの (例へば、或圖形) を描

りに銀の箱のなかで、酒精が燃えて居た。反魂香の濃い煙が、廣間をくらくした、そのために燈火は、ほとんど消えさうであつた。見靈者はわれらの如く着物をぬいで居た、しかし跣足であつた。むきだしの頸の周りに、彼は人間の髪の毛の鎖^{くさり}に一つの御守りをつけてかけて居た。腰の廻りには、彼は白い膝掛を纏つて居た、その膝掛は秘密な文字と、象徴的な圖形とで覆はれて居た。彼はわれわれが互に手を取り、又深い静寂を守るやうに命令した。特に彼は、幽霊には實際何等の問ひをもなさぬやうにわれらに求めた。英國人と私とには (われら二人に對しては、彼は最多くの不信用を懷いてゐるやうに見えた。) 彼はこの事が續く間、二本の拔身の刀をしつかりと、且つ十字に組み合せて、彼れの頭上一時のところに、保持してゐるやうに要求した。われらは半月形をなして彼れの廻りに立つた。露西亞の士官は、英國人にびつたりと寄り添つた。そして祭壇に最も近く立つた。顔を東方に向けて、魔術師は今や絨繒の上に立つた、そして聖水を四方に

く; mit etwas bezeichnet sein 或ものを描かれてある。7. 「命令する」意味の heißen, これと共に用ゐられる本動詞は zu (to) をつけない。8. 此 Morgen は朝の事ではない、「東」の事; そこで西は Abend, 南は Mittag, 北は Mitternacht; gegen は方向をあらはす。

genden und neigte sich dreimal gegen die Bibel. Eine halbe Viertelstunde dauert die Beschwörung, von welcher wir nichts verstanden; nach Endigung derselben gab er denen, die zunächst hinter ihm standen, ein Zeichen, daß sie ihn jetzt fest bei⁹ den Haaren fassen sollten. Unter den¹⁰ heftigsten Zuckungen rief er den Verstorbenen dreimal mit¹¹ Namen, und das dritte Mal streckte er noch dem Kruzifix die Hand aus — —

28. Auf einmal empfanden wir alle zugleich einen Streich wie vom Blitze, daß unsre Hände auseinander flogen; ein plötzlicher Donner Schlag erschütterte das Haus, alle Schösser klangen, alle Türen schlugen zusammen, der Deckel an¹ der Kapsel fiel zu, das Licht löschte aus, und an der entgegenstehenden Wand über dem Kamine zeigte sich eine menschliche Figur, in blutigem Hemde, bleich und mit dem Gesicht eines Sterbenden.

„Wer ruft mich?“ sagte eine hohle, kaum hörbare Stimme.

„Dein Freund,“ antwortete der Beschwörer, „der dein Audenken ehret und für deine Seele betet,“ zugleich nannte er den Namen des

9. 捉へどころを示す bei; [例] Er faßte mich beim (od. am) Arm. 彼は私の腕をつかんだ。10. 意譯: 彼は甚はげしく痙攣しながら。11. einen mit Namen rufen 或人の名を呼ぶ事。

まき、三たび聖書に向つて御辭儀をした。降靈術は七八分續いた、この術についてはわれらは何事もわからなかつた。術の終つた後、彼は、すぐ自分のうしろに立つてゐる人たちに、今や彼の毛髪をしつかりと握んで呉れろと云ふ合圖を與へた。最も激しい痙攣のもとに、彼は故人を三たび名をあげて呼んだ、そして三度目に、彼は十字架の方へ手を伸ばした — —

二十八、忽然としてわれらすべては同時に電氣にうたれたやうな打撃を感じた、そのためにわれらの手は互に離れた。俄かの雷鳴が家を震撼した、すべての錠前は鳴つた、すべての戸は相打つた。箱のふたは閉ぢた、燈火は消えた、そして爐の上の向うの壁に、一人の人間の姿が — 血だらけの襦衣を着、青さめて、瀕死の人の顔付をした一人の人間の姿が — 出現した。

『私を呼ぶのは誰れか?』と、うつろな、ほとんど聞えないやうな聲が云つた。

『君の友人です』と降靈者は答へた。『君の記憶を尊び、君の魂のために祈る君の友人です』同時に彼は公子の名

12. 副詞的四格。

28. 1. der Deckel an der Kapsel 箱についてゐる蓋(フタ)。

Prinzen.

Die Antworten erfolgten immer nach einem sehr großen Zwischenraum.

„Was verlangt er?“ fuhr diese Stimme fort.

„Dein Bekenntnis will er² zu Ende hören, das du in dieser Welt angefangen und nicht beschlossen hast.“

„In einem Kloster auf der flandrischen Grenze lebt — — —

Hier erzitterte das Haus von neuem. Die Türe sprang freiwillig unter einem heftigen Donnerschlag auf, ein Blitz erleuchtete das Zimmer, und eine andere körperliche³ Gestalt, blutig und blaß wie die erste, aber schrecklicher, erschien an der Schwelle. Der Spiritus fing von⁴ selbst wieder an zu brennen, und der Saal wurde helle⁵ wie zuvor.

„Wer ist unter⁶ uns?“ rief der Magier erschrocken und warf einen Blick des Entsetzens durch die Versammlung — „Dich habe ich nicht gewollt.“

Die Gestalt ging mit majestätischem⁷ leisen

2. etwas zu Ende hören 或ものを終りまで聞く。3. 前のものの如く、影のやうなものではなく、ちやんと體を具へた・眞實の。4. von selbst ひとりにて、おのづから。5. helle の終りの e は必らずしも必要ではない、普通は hell. 6. unter 間に、なかに。7. majestätischem leisen Schritt 二個の形容詞が名詞の前に置かるゝとき、其間に接續詞又は Komma のなきときは、名詞の直前に立つものが名詞に対する關

をつげた。

答へはいつも、甚だ長い間を置いて來た。

『何を彼は望むのですか?』とこの聲はつゞけた。

『君の懺悔を、終りまで聞き・たいと云ふのです。君がこの世で初めて、そして終らなかつたあの懺悔を。』

『フランダレンの境上の或僧院のうちに、居——』

この時家がまたもや震撼した。戸は自ら、はげしい雷鳴のもとに開いた、電光が室を照した、そして一つの別な肉體を具へた人の姿が——第一のもののやうに血にまびれ、青ざめて居るが、しかしもつとおそろしい姿が——闕にあらはれた。酒精は自然にまた燃え初めた、そして廣間は、以前のとほりにあかるくなつた。

『われわれの間に居るのは誰れだ?』と魔術師は恐れて叫んだ、そして集りを通して、恐怖の一瞥を投げた。——

『君を、私は欲しはしなかつた。』

その姿はいかめしく・静かな足どりで、まつすぐに祭壇

係は、直前ならぬ形容詞が談名詞に対する關係よりも、より緊密であり、直前形容詞と名詞とが、まづ相結んで一概念を構成し、此新概念を、非直前形容詞が制限修飾するやうな風になるのであるが、此際には兩者の語尾を別にする事、本例の如くにするやり方が、一時行はれた、然し今では接續詞や Komma の有無に係らず、同一尾を採らせるのが、本則となつてゐる：即ち majestätischem leisem Schritt が正しい。

Schritt gerade auf den Altar zu, stellte sich auf den Teppich, uns gegenüber, und faßte das Kruzifix. Die erste Figur sahen wir nicht mehr.

29. „Wer ruft mich?“ sagte diese zweite Erscheinung.

Der Magier fing an, heftig zu zittern. Schrecken und Erstaunen hatten uns gefesselt. Ich griff nach¹ einer Pistole, der Magier riß sie mir aus der Hand und drückt sie auf die Gestalt ab. Die Kugel rollte langsam auf dem Altar, und die Gestalt trat unverändert aus dem Rauche. Jetzt sank der Magier ohnmächtig nieder.

„Was wird² das?“ rief der Engländer voll Erstaunen und wollte einen Streich mit dem Degen nach ihr tun. Die Gestalt berührte seinen Arm, und die Klinge fiel zu Boden. Hier trat der Angstschweiß auf meine Stirn. Baron F** gestand uns nachher, daß er gebetet habe. Diese ganze Zeit über stand der Prinz furchtlos und ruhig, die Augen starr auf die Erscheinung gerichtet.

„Ja! Ich erkenne dich,“ rief er endlich voll Rührung aus, „du bist Lanoy, du bist mein Freund — — Woher kommst du?“

„Die Ewigkeit ist stumm. Frage mich aus dem vergangenen Leben.“

29. 1. nach etwas greifen 或ももの方へ手をのべてつかむ。
2. これを What does this mean (どう云ふ事か)? と解する人も

を指して行つた、われわれと向ひ合つて、絨繒の上に立つた、そして十字架を握つた。第一の姿を、われらは最早見なかつた。

二十九、『私を呼ぶのは誰れか?』と、この第二の幽霊が云つた。

魔術師は、激しく戦慄し初めた。恐怖と驚愕とが、われわれを縛つて仕舞つた。私は一挺のピストルを握つた、魔術師はピストルを私の手からもぎ取つた、そしてそれを例の姿にむけて發射した。弾丸は徐ろに祭壇の上を轉がつた、そしてかの姿は少しも變らずに煙の中から歩み出した。今や魔術師は、氣を失つて倒れたのであつた。

『これはどうなるだらう?』と英人は驚きに充ちて叫んだ、そして其姿に向つて、劍で一撃をなさうとした。例の姿は彼の腕に觸れた、すると劍は床に落ちた。此時冷汗が私の額上に現はれた。エフ男爵は、後日になつて、彼が(此時)祈禱したと自白した。此時間全體の間、公子は眼をぢつと幽霊に向け、恐るる事なく、泰然として立つて居た。

『そうだ! 私は君を見知つてる』と、彼は到頭感動に充ちて叫んだ、『君はラノワだ、君は私の友人だ — — どこから君は來たのか?』

『永遠は無言である。過去の生活のなかから、私に訊ねて呉れ』

ある (Buchheim の註)。

„Wer lebt in dem Kloster, das du mir bezeichnet hast?“

„Meine Tochter.“

„Wie? Du bist Vater gewesen?“

„Weh mir, daß ich es zu³ wenig war!“

„Bist du nicht glücklich, Lanoy?“

„Gott hat gerichtet.“

„Kann ich dir auf dieser Welt noch einen Dienst⁴ erzeigen?“

„Keinen,⁵ als an⁵ dich selbst zu denken.“

„Wie⁶ muß ich das?“

„In Rom wirst du es erfahren.“

30. Hier erfolgte ein neuer Donnerschlag — eine schwarze Rauchwolke erfüllte das Zimmer; als sie zerflossen war, fanden wir keine Gestalt mehr. Ich stieß einen Fensterladen auf. Es war Morgen.

Jetzt kam auch der Magier aus seiner Betäubung zurück. „Wo sind wir?“ rief er aus als er Tageslicht erblickte. Der russische Offizier stand dicht hinter ihm und sah ihm¹ über die Schulter. „Taschenspieler,“ sagte er mit schrecklichem Blick zu ihm, „du wirst² keinen Geist mehr rufen.“

3. 人の子の父ではあつたが、父らしい事をしてやらなかつたの義。4. einem einen Dienst erzeigen 或人に或盡力をしてやる。5. keinen の次に Dienst を補ふ、an dich selbst denken お前自身のことを考へる、自分の身に注意する。6. wie = auf

『君が私に話したあの僧院のうちには、誰れが住んで居るのかね?』

『私の娘だ。』

『何んだつて? 君は(人の)父であつたのか?』

『悲しいかな、あまりに父らしくなかつたのだ。』

『今君は幸福かね、ラノワ?』

『神が私を、裁³かれた。』

『私がこの世の中で、君の爲めになほ何か一つ盡力してあげることが出来るかね?』

『君自身の事を考へる外には、盡力することはないね。』

『どういふ風にして、自分の事を考へなければならないのだ?』

『羅馬で、君にそれがわかるだらう。』

三十、この時新しい雷鳴が起つた——黒い煙の雲が室をみたした。それが散じたときに、われらは、もはや何等の姿をも見出さなかつた。私は一つの窓の扉を開いた。それは朝であつた。

今や魔術師は彼れの昏迷から立ち歸つ(て正氣づい)た。彼が日光を見た時に、彼は叫んだ。『われわれはどこに居るのですか?』と。露西亞の士官は、彼のすぐうしろに立つて居た、そして彼の肩ごしに見た。『手品師め』と彼はおそろしい目附をして、彼れに云つた、『お前はもう、靈を呼んではならんぞ。』

welche Weise ぞんな方法で; das の次に tun を入れて考へる。

30. 1. ihm über die Schulter=über seine Schulter. 2. 嚴重なる命令を云ひあらはす時、往々未來の形にすることがある。

Der Sizilianer drehte sich um, sah ihm³ genauer ins Gesicht, tat einen lauten Schrei und stürzte zu⁴ seinen Füßen.

Jetzt sahen wir alle auf einmal den vermeintlichen⁵ Russen an. Der Prinz erkannte in ihm ohne Mühe die Züge⁶ seines⁷ Armeniers wieder, und das Wort, das er eben hervorstottern⁸ wollte, erstarb auf seinem Munde. Schrecken und Überraschung hatten uns alle wie versteinert. Lautlos und unbeweglich starrten wir dieses geheimnisvolle Wesen an, das uns mit einem Blicke stiller Gewalt und Größe durchschaute. Eine Minute dauerte dies Schweigen — und wieder eine. Kein Odem⁹ war in der ganzen Versammlung.

31. Einige kräftige Schläge an die Tür brachten uns endlich wieder zu uns selbst. Die Tür fiel zertrümmert in den Saal, und herein¹ drangen Gerichtsdienner mit Wache.² „Hier finden wir sie ja³ beisammen!“ rief der Anführer und wandte sich zu seinen Begleitern. „Im Namen der Regierung!“ rief er uns zu

3. ihm ins Gesicht=in sein Gesicht. 上の註 1 と同じく、此三格は所持者をあらはす三格である。4. zu seinen Füßen 彼の脚下に; zu Ihren Füßen 貴君のあしもとに。5. さう装つてゐる、さう云ふ風に見せてゐる ([英] pretended). 6. Züge 面影 顔容 ([英] features). 7. 彼れの念頭に置いてあるアルメニア人、彼れにかゝり合のあるアルメニア人の義。8. ぞもりつゝ口

シリア人は、向きなほつて、よりくわしく彼の顔をながめたが、高い叫聲を上げて、彼れの脚下に跪いた。

今やわれらすべては、一どきにこのそれらしい風を装つてゐる露西亞人をながめた。公子は彼に於いて、容易に彼れのアルメニア人の顔容を、再び認めた。そして彼が今やぞもりつつも出さうとしてゐた言葉は、彼の口を出ずに消滅した。恐怖と恐愕とが、われらすべてを化石させたやうであつた。聲も立てず、動きもしないで、われらはこの秘密に充ちた人物をながめた、それは静かな力と偉大さとの一瞥を以てわれらを洞観したのであつた。この沈黙は一分間續いた——そしてまた一分間續いた。集まり全體の内において、一つの呼吸すらなかつた。

三十一、戸を叩く二三の力強い打撃が、われらすべてを遂に自らに歸らしめた。戸は打ち碎かれて、廣間のなかへ倒れた。そして番人をつれて、裁判所の廷丁が押し込んで來た。『こゝでわれわれは、正しくやつらと一緒に見つけ出したぞ!』と指揮者は叫んだ、そして彼れの從者の方に向つた。『政府の名に於て!』と彼はわれわれに向つて

から出す。9. Odem=Atem.

31. 1. 特に herein を前に置いたのは、これを強調するため。2. 一人でも二人でも、(die) Wache を單數で使ふ; 衛兵、番人などを指す集合名詞である。3. ja, われらが豫期した通り、實際、ほんさに。

„Ich verhafte euch.“ Wir hatten nicht so viel Zeit, uns zu besinnen; in wenig Augenblicken waren wir umringt.⁴ Der russische Offizier, den ich jetzt wieder den Armenier nenne, zog den Anführer der Häscher auf die Seite, und so viel mir diese Verwirrung zuließ, bemerkte ich, daß er ihm⁵ einige Worte heimlich ins⁶ Ohr sagte und etwas Schriftliches vorzeigte. Sogleich verließ ihn der Häscher mit⁷ einer stummen und ehrerbietigen Verbeugung, wandte sich darauf zu uns und nahm seinen Hut ab. „Vergeben Sie, meine Herren,“ sagte er, „daß ich Sie mit diesem Betrüger vermengen konnte. Ich will nicht fragen, wer Sie sind — aber dieser Herr versichert mir, daß ich Männer von Ehre vor⁸ mir habe.“ Zugleich winkte er seinen Begleitern, von uns⁹ abzulassen. Den Sizilianer befahl er wohl zu bewachen und zu binden. „Der Bursche da ist¹⁰ überreif“, setzte er hinzu. „Wir haben schon sieben Monate auf¹¹ ihn gelauert.“

32. Dieser elende Mensch war wirklich ein¹ Gegenstand des Jammers. Das doppelte

4. umringen (取圍む) は、非分離で他動; 其過去分詞 umringt と sein とを共に用ゐたるもの; 直譯: 「取りかこまれてあつた」。
5. ihm ins Ohr=in sein Ohr. 6. 沈黙せる而して恭々しき稽首を以て。7. 時間的順序を示す darauf (其後、其次に)。8. 直譯: 私は私の前に名譽ある人たちを持つ。9. von etwas ablassen 或事をやめる、或事を放棄する、或ものから手を引く。

叫んだ。『私は君たちを逮捕します。』われらは思考する丈けの暇を持たなかつた、僅かの瞬間に、われらは取まかれて仕舞つたのである。私が今それを再びアルメニア人と呼ぶところの露西亞士官は、捕吏の指揮者をわきの方へつれて行つた、そして私にこの混亂が許した限りに於て、私は彼が指揮者の耳に二三語をさしやき、そして何か書類らしいものを示したのを認めた、すると其捕吏は直ちに黙つて、また恭々しく稽首をして、彼のところを去つた、それから彼はわれらの方に向つて、彼れの帽を脱した。『皆様、お許し下さい』と彼は云つた。『私がみな様と詐偽師とをごつちやにし得ました事を、私はあなたがたが、誰れであるかを訊ねやうとは致しません——しかしこの紳士が、私の前に居られるのは、名譽ある方々だとわたしに保証されました。』同時に彼は従者たちに、われらから立ち去るやうに合圖した。彼はシリア人を充分に監視し又捕へるやうに命令した。『そこにゐる奴は、もう熟しすぎてゐる』と彼は附け加へた。『われらはもう七ヶ月も、あいつをつねらつたのだ』

三十二、この不運な人は、實際感憐の對象であつた。第二の幽霊の出現とこの豫期せざる襲撃との二重の恐怖

10. 「熟しすぎてゐる」とは、「もがれなければならぬ時にもがれなかつた」事を意味し、こゝでは「あいつはもうさうの昔に捕縛さるべきであつたのだ」の義。11. auf einen lauern 或人を見張つてゐる。

32. 1. 「憐むに足る人だ」と云ふ義だが、これには同情と輕蔑とが混在してゐる。

Schrecken der zweiten Geistererscheinung und dieses unerwarteten Überfalls hatte seine Besinnungskraft überwältigt. Er ließ sich binden wie² ein Kind; die Augen lagen weit aufgesperrt und stier in einem totenähnlichen Gesichte, und seine Lippen bebten in stillen Zuckungen, ohne einen Laut auszustoßen. Jeden Augenblick erwarteten wir einen Ausbruch von Konvulsionen. Der Prinz fühlte Mitleid mit seinem Zustand und unternahm es, seine Loslassung³ bei dem Gerichtsdienner auszuwirken, dem er sich⁴ zu erkennen gab.

„Gnädigster Herr,“ sagte dieser, „wissen Sie auch,⁵ wer der Mensch ist, für welchen Sie sich so großmütig verwenden? Der Betrug, den er Ihnen zu spielen gedachte, ist sein geringstes Verbrechen. Wir haben seine Helfershelfer. Sie sagen abscheuliche Dinge von ihm aus. Er mag sich noch glücklich⁶ preisen, wenn er mit der Galeere davon⁷ kommt.“

Unterdessen sahen wir auch den Wirt nebst seinen Hausgenossen⁸ mit Stricken gebunden über den Hof führen. — „Auch dieser?“ rief der Prinz. „Was hat denn dieser verschuldet?“ —

2. 子供のやうに、すなをに、縛されたの義。3. etwas bei ihm auswirken 或人から或ものを得る ([英] to procure something from some one. 4. sich einem zu erkennen geben 自分の誰なるかを或人に明示する、或人に自分の身分をあかす。5.

は、彼の思考力を征服して仕舞つた。彼は子供のやうに、縛られるまゝになつてゐた。眼は、死人のやうな顔のなかに、廣く開かれ、じつと動かずに居た。彼れの唇は、一語をも發することなくして、靜かな痙攣を起して震へた。われわれは痙攣の發作を、今か今かと待つて居た。公子は彼れの状態に、同情の念を起した、そして廷吏から彼の放免を得てやらうと試みた、彼は廷吏に自分の身分をあかしたのであつた。

『貴下』と廷吏は云つた。『貴下は御自分が、かく寛大に取りなされる本人は、どんな種類の人間であるかを、果して御承知なのですか? 彼れが貴下に働きかけやうと考へた詐偽などは、彼の最も小さい犯罪であります。われわれは、彼の共犯者どもをも、つかまへて居ます。彼等は彼のものについて、怖ろしい事情を陳述してます。彼が撓走船の苦役で、濟む事が出来るなら、なほ仕合だと自分で喜んでよろしいでせう。』

そのうちにわれらは、宿の主人が彼れの家人と共に繩でしばられて、中庭を越えてつれて來られるのを見た。——『これもか?』と公子は叫んだ。『一體この男は、どんな

果して然し。6. einen glücklich preisen 或人を仕合せださよるこぶ。7. Galeere 又は、帆と櫂にて走る扁平船で、罪人はこの船に苦役をさせられた; davon kommen 事ずみになる、免れる。8. 家族ばかりでなく、家人全體を云ふ。

„Er war sein Mitschuldiger und Hehler,“ antwortete der Anführer der Häscher, „der ihm zu seinem Taschenspielerstückchen und Diebereien behilflich⁹ gewesen und seinen Raub mit ihm geteilt hat. Gleich sollen¹⁰ Sie überzeugt sein, gnädig ter Herr“ (indem er sich zu seinen Begleitern kehrte). „Man durchsuche das ganze Haus und bringe mir sogleich Nachricht, was man gefunden hat.“

33. Jetzt sah sich der Prinz nach dem Armenier um¹ aber er war nicht mehr vorhanden; in der allgemeinen Verwirrung, welche dieser Überfall anrichtete, hatte er Mittel gefunden, sich unbemerkt zu entfernen. Der Prinz war untröstlich; gleich wollte er ihm alle seine Leute nachschicken;² er selbst wollte ihn aufsuchen und mich mit sich fortreißen. Ich eilte ans Fenster; das ganze Haus war von Neugierigen umringt, die das Gerücht dieser Begebenheit herbeigeführt hatte. Unmöglich war es, durch das Gedränge zu kommen. Ich stellte dem Prinzen dieses vor.³ „Wenn es diesem Armenier ein Ernst ist, sich vor uns zu ver-

9. einem zu etwas behilflich sein あるいはある人のある事をするのを扶助・援助する; Das wird ihm zu seiner Beförderung behilflich sein. その事は彼の昇進を助けるであらう。 10. 直譯: あなたは間もなく確信してあるべきだ; 此 sollen は話者の確言又は約束をあらはす; Sie sollen es sehen. あなたにそれを見せて

罪を犯したのですか?』——『こいつは彼れの共犯者で、また従犯者であつたのです』と捕吏の指揮者が答へた。『彼れの手品や竊盜行爲に力を假し、それから彼の獲物を二人でわけたのです。ちきにあなたは確証を得られます、貴下』(彼は彼れの従者に向ひつゝ、さう云つた。)『家さがしをするがよい、そして見つけたものを、みんなすぐ私のところへ持つて來なさい。』

三十三、今や公子はアルメニア人をさがした。——然し彼はもはや居なかつた。この襲撃が引起した一般の混亂の裡に於て、彼は人知れず立ち去るべき手段を發見したのである。公子はあきらめがつかなかつた、彼は直ちに凡べての彼の召使たちに、彼を追ひかけさせやうとした。彼自身もアルメニア人を捜し出さうとした、そして私を自分と一緒に連れて行かうとしたのであつた。彼は急いで行つた、家全體は、物見高い人たちによつて取りまかれた、これらの人々を、該事件の噂が、招び寄せたのであつた。群集を切りぬけて行くのは不可能であつた。私は公子に此事を申し立てた。『われわれに對して身をかゝくことが、アルメニア人にとつて眞面目な事であるな

あげます。
33. 1. sich nach etwas umsehen 或ものかさがす。 2. einem nachschicken 或人のあさから送る、或人を追はせる。 3. einem etwas vorstellen 或人に或事を陳述する。

bergen, so weiß er unfehlbar die Schliche besser als wir, und alle unsere Nachforschungen werden vergebens sein. Lieber lassen Sie uns noch hier bleiben, gnädigster Prinz. Vielleicht kann uns dieser Gerichtsdienner etwas Näheres von ihm sagen, dem er sich, wenn ich anders recht gesehen habe, entdeckt hat.“

Jetzt erinnerten wir uns, daß wir noch ausgekleidet waren. Wir eilten nach unserm Zimmer, uns¹ in der Geschwindigkeit in unsre Kleider zu werfen. Als wir zurückkamen, war die Haussuchung geschehen.

34. Nachdem man den Altar weggeräumt und die Dielen des Saals aufgebrochen,¹ entdeckte man ein geräumiges Gewölbe, worin ein Mensch gemächlich aufrecht² sitzen konnte, mit³ einer Türe versehen, die durch eine schmale Treppe nach dem Keller führte. In diesem Gewölbe fand man eine Elektrisiermaschine, eine Uhr und eine kleine silberne Glocke, welche⁴ letztere, sowie die Elektrisiermaschine, mit dem Altar und dem darauf befestigten Kruzifixe Kommunikation hatte. Ein Fensterladen, der dem Kamine gerade gegenüber stand, war durchbrochen und mit einem⁵ Schieber versehen,

4. sich in die Kleider werfen 急いで着物を着る。

34. 1. aufgebrochen の後に hatte を入れて考へる。2. 眞直に座ることが出来た。3. mit etwas versehen (過去分詞) 或

らば、彼れはわれわれよりも、ずつと良く間道を知つてゐて、われらのすべての搜索は無駄でせう。寧ろわれわれは、なほ暫らくこゝに止まつておませうよ、殿下。廷吏は恐らく、彼について、より詳しい事を、われわれに言へるでせう。私が見たのが間違ひでなかつたら、彼は廷丁に身分をうちあげました(から)。

今やわれわれは、われわれがまだ着物をぬいで居たことを思ひ出した。われわれは、速やかに着物を着るために、われらの部屋へいそいで行つた。われわれが歸つて来たときには、家宅搜索が行はれて居た。

三十四、人々が祭壇を撤して、廣間の床板を破り開いた後に、人々は、一人の人間がそのなかに、ゆつくり正座し得るほどの大きな窠に戸が備へられてゐるのを発見した、その戸は狭い階段を通つて、地下室へと通するのであつた。此窠のなかで、人々は電氣の器械、一つの時計及び一つの小さい銀の鈴を発見した。この後者ならびに電氣の器械は、祭壇及びその上に据ゑられた十字架と連絡を持つて居た。丁度暖爐に向つてゐる窓の戸は、穴を切り開かれ——あとでわれらが實驗したところに依ると、一ひとつの幻燈を其口に適合させるために、引き戸が其ものを備へられる、或ものがつけられたる。4. welche letztere この後者、即ち Glocke.

um, wie⁵ wir nachher erfuhren, eine magische Laterne in⁶ seine Öffnung einzupassen, aus welcher die verlangte Gestalt auf die Wand über dem Kamin gefallen war. Vom Dachboden und aus dem Keller brachte man verschiedene Trommeln, woran⁷ große bleierne Kugeln an Schnüren befestigt hingen, wahrscheinlich um das Geräusche des Donners hervorzubringen, das wir gehört hatten. Als man die Kleider des Sizilianers durchsuchte, fand man in einem Etui verschiedene Pulver, wie auch lebendigen Merkur⁸ in Phiolen und Büchsen, Phosphorus in einer gläsernen Flasche, einen Ring, den wir gleich für einen magnetischen erkannten, weil er an einem stählernen Knopfe hängen blieb, dem er von⁹ ungefähr nahe gebracht worden, in den Rocktaschen ein Paternoster, einen Judenbart,¹⁰ Terzerole und einen Dolch. „Laß doch¹¹ sehen, ob sie geladen sind!“ sagte einer von den Häschern, indem er eines von den Terzerolen nahm und ins Kamin abschob. „Jesus¹² Maria!“ rief eine hohle menschliche Stimme, eben die, welche wir von der ersten Erscheinung gehört hatten — und in demselben

5. wie……「に依れば」の義で、「の如く」ではない。6. seine Öffnung 是 Fensterladen に穿たれたる口; aus welcher の welcher は Öffnung に關係す。7. woran の wo は Trommeln を受ける。8. lebendiger Merkur=液體水銀; Phiole 是、頸の細い

穴につけられてあつた。この幻燈から、要求された姿が、暖爐の上の壁に落ち來つたのである、屋根裏から地下室から、人々はいろいろの太鼓を取り出した、恐らく、われらが聞いたところのあの雷鳴の響を起すためらしいが、大きな鉛の丸が糸に結びつけられて、この太鼓にぶらさがつて居た。人々がシシリア人の衣服を調べにときに、一つの篋のなかに、種々の粉末を、壘と箱とのなかに水銀を、硝子の瓶のなかに燐を、それからわれらが間もなく、それを磁石性だと認めたところの一つの指輪、——何故かなれば、その指輪が偶然に近いところへ持つて來られた鋼鐵の釘にくつついたからである——上着の衣囊のうちには、一つの珠数、附鬚、懐中短銃、及び一振の短劍を發見した。『裝填してあるかどうか、調べさせて下さい!』と捕吏の一人は、ピストルの一つを取つて、暖爐の中に向けて發射しながら云つた。『イエズス・マリア』と、うつろな人聲が——丁度われらがさきに第一の幽靈から聞いたところうつろな人聲が——、叫んだ。——其瞬間

覆部の大きなガラス壘。9. von ungefähr 偶然に。10. Judenbart つくり鬚(猶太人は鬚が濃い相である)。11. 願望、要求などの意をつよめる doch ([英] please, pray)。12. 驚きの叫び。

Augenblicke sahen wie einen blutenden Körper aus dem Schlot herunterstürzen. — „Noch¹³ nicht zur Ruhe, armer Geist?“ rief der Engländer, während daß wir andern mit Schrecken zurückfuhren. „Gehe heim zu deinem Grabe. Du hast geschienen,¹⁴ was du nicht warst; jetzt wirst du sein, was du schienst.“

35. „Jesus Maria! Ich bin verwundet,“ wiederholte der Mensch im Kamine. Die Kugel hatte ihm das rechte Bein zerschmettert. Sogleich besorgte man, daß die Wunde verbunden wurde.

„Aber wer bist du denn, und was für ein böser Dämon muß¹ dich hierher führen?“

„Ein armer Barfüßer,“ antwortete der Verwundete. „Ein fremder Herr hier hat mir eine Zechine geboten, daß² ich —“

„Eine Formel hersagen sollte? Und warum hast du dich denn nicht gleich wieder davon³ gemacht?“

„Er wollte⁴ mir ein Zeichen geben, wenn ich fortfahren sollte; aber das Zeichen blieb aus, und wie ich hinaussteigen wollte, war die Leiter

13. 沙翁の Hamlet の第一幕第五場に於ける Hamlet の言葉な、少しかへたもの。14. 「お前は生きてゐながら、死人の振りをした、今度はお前を振りをしたもの(即ち死人)になるがよいぞ」の義。

35. 1. 此 müssen=mögen 推測の意を含む: [例] Wer muß

にわれらは、血に塗れた身體が煙突から落ちて来るのを見た。—「まだ休まないのか、あはれむべき靈よ」と英人は叫んだ、そのあひだにわれら他の人々は、恐れてたぢろいだけれども。「お前の墓へ歸つて行け。お前は實際さうでなかつたものとしてあらはれた、今度はお前がその振りだつたものになるがよい。」

三十五、「イエズス・マリア! 私は負傷してゐる。」と暖爐のなかの人間は繰返へして云つた。彈丸が彼れの右脚を打ちくだいたのであつた。すぐに人々は、傷が繃帯されるやうにしてやつた。

「しかし一體君はだれか、そしてどういふ悪魔が君をこゝへ連れだすのだらうか?」

「私は憫れな托鉢僧であります」と負傷者は答へた。「こゝに居る見知らぬ紳士が、私に一ツェヒーネくれました、私が——」

「或文句を暗誦するやうにだね? そして君はなぜすぐに立ち去らなかつたのだ?」

「私が立ち去つてよい時には、あの方が合圖をすると約束したのでした。ところが合圖は來ませんでした、そして私が降りやうとしたときには、階子を取り去られてゐ

das getan haben? だれがそれをしたのだらうか? 2. daß=auf daß, damit 目的をあらはす、「云々するために」。3. sich davon machen そこを立ち去る。4. wollte……geben, 與へよう約束した。

weggezogen.“

„Und wie heißt denn die Formel, die er dir eingelernt hat?“

Der Mensch bekam⁵ hier eine Ohnmacht, daß nichts weiter aus ihm herauszubringen war. Als wir ihn näher betrachteten, erkannten wir ihn für⁶ denselben, der sich den Prinzen den Abend vorher in den Weg gestellt und ihn so feierlich angeredet hatte,

Unterdessen hatte sich der Prinz zu dem Anführer der Häscher gewendet.

„Sie haben uns“, sagte er, indem er ihm zugleich einige Goldstücke in die Hand drückte, „Sie haben uns aus den Händen einer Betrügers gerettet und uns,⁷ ohne uns⁸ noch zu kennen, Gerechtigkeit widerfahren lassen. Wollen Sie nun unsere Verbindlichkeit⁹ vollkommen machen und uns entdecken, wer der Unbekannte war, dem¹⁰ es nur ein paar Worte kostete, uns in Freiheit zu setzen?“

„Wen meinen¹¹ Sie?“ fragte der Anführer der

5. eine Ohnmacht bekommen=in Ohnmacht fallen; daß=so daß. 6. für として、であること云ふ事。 7. einem Gerechtigkeit widerfahren lassen 或人を正當に取り扱ふ、或人に對して正當な事をする; 故に此 uns は三格。 8. 此 uns は四格で kennen の Objekt. 9. 「われらの感謝を充分ならしめ、而して云々せんと欲するか」とは、御親切をもう一步すすめて下さいませんか、即ち云々して下さいませんか」の意; 【例】 Wollen

たのです。』

『その人が君に教え込んだ文句は、一體どういふのか?』

此人はこゝで氣を失つたので、それ以上何事をも、彼(の口)から引き出せなかつた。われらが彼をより詳しく見たときに、彼れが、先達の夕暮、公子の行手を遮つて、おどそかに話しかけたのと同一人である事を、われらは認めた。

その間に公子は、捕吏の指揮者の方にむきなほつた。

『貴方はわれわれを』と、彼は同時に彼の手に二三枚の金貨を握らせながら云つた、貴方は私達を、詐偽師の手から救ひ出し、また私達をまだ知らないのに、しかも正常な取扱ひを私達にして下さつたのです。そこであなたは、私達の感謝を充分なものにし、私達を自由にするためには、ほんの二言三言しか必要としなかつたところのあの未知の人物が、誰れであるかを、私たちに打ちあけて下さいますまいか?』

『誰れの事ですか?』と、捕吏の指揮者は、この質問が、

Sie mir den Gefallen tun und mich nicht ansehen? 直譯: あなたは君に好意を致して呉れて、私をながめまいと思ひませんか?; 意譯: お願ひですから、私をながめないで下さい。 10. dem は關係代名詞で、Unbekannte にかゝる; 直譯: われらを自由のうちにおくべく、それは彼にほんの二三語にしか恨しなかつたところの未知の人。 11. だれをあなたは意味するのか?

Häscher mit einer Miene, die deutlich zeigte, wie unnötig diese Frage war.

36. „Den Herrn in russischer Uniform meine ich, der Sie vorhin beiseite zog, Ihnen etwas Schriftliches vorwies und einige Worte ins Ohr sagte, worauf¹ Sie uns sogleich wieder losgaben.“

„Sie kennen diesen Herrn also nicht?“ fragte der Häscher wieder. „Er war nicht von Ihrer Gesellschaft?“

„Nein,“ sagte der Prinz — „und aus sehr wichtigen Ursachen wünschte² ich näher mit ihm bekannt zu werden.“

„Näher,“ antwortete der Häscher, „kenn' ich ihn auch nicht. Sein Name selbst ist mir unbekannt, und heute hab' ich ihn zum erstenmal in meinem Leben gesehen.“

„Wie?³ und in so kurzer Zeit, durch ein paar Worte konnte er so viel über⁴ Sie vermögen, daß Sie ihn selbst und uns alle für⁵ unschuldig erklärten?“

„Allerdings durch ein einziges Wort.“

„Und dieses war? — Ich gestehe, daß ich es wissen möchte.“

33. 1. worauf 前に述べた事の結果で。2. Indikativ ではない、自己の考を謙遜に云ひあらはす爲めの、diplomatischer Konjunktiv. 3. 驚いて問返へす場合の wie? え、何だつてお序でに云ふが、他人の自分に云つたことが解らない時は was? と

いかに不必要であつたかと云ふ事を、明らかに示したところの顔つきを以て、彼に訊ねた。

三十六、『私は露西亞の軍服を着てゐた人物を意味するのです、さき程あなたを側の方へつれて行つて、あなたに何か書いたものを見せ、二言三言あなたに耳語いたら、あなたがすぐに私たちをまた放免したのですが、あの人物を意味するのです!』

『それなら貴君はあの人を知らないのですか?』とその捕吏はまた訊ねた。『あの方はあなた方の仲間ぢやあなかつたつてのですか?』

『いえ、さうぢやあなかつたのです!』と公子は言つた——『そして甚重要な理由から、私はあの人を、より親しく知り合ひにならうと願つて居るのです!』

『くはしくは!』と捕吏は答へた『私もあの人を知りません、あの方の姓名そのものも、私は存じて居ません、そして私は私の生涯中に、今日初めてあの人に會つたのです。』

『なんですつて? そしてあんな短時間に、ほんの二言三言で彼は、あなたが彼自身及びわれわれすべてを晴天白日の身だと宣言なすつた位に、そんなにひどくあなたの心を左右する事が出来たのですか?』

『勿論、たつた一言によつてです。』

『そしてどんな言葉でしたか? — 私は自分がそれを知りたがつて居る事を告白します。』

云はずに、Wie? と云ふ方がよろしい; Wie, bitte? 又は單に Bitte! と云つてもよろしい。4. über etwas vermögen 或ものを左右し得る; [例] Du vermagst viel über die Gemüter, 君は人心を左右するに巧みだ。

„Dieser Unbekannte, gnädigster Herr,“ — indem er die Zechinen in seiner Hand wog — „Sie sind zu⁶ großmütig gegen mich gewesen, um⁶ Ihnen länger ein Geheimnis daraus⁷ zu machen — dieser Unbekannte war — ein Offizier der Staatsinquisition.“

„Der Staatsinquisition! — Dieser! —“

„Nicht anders,⁸ gnädigster Herr — und davon⁹ überzeugte mich das Papier, welches er mir vorzeigte.“

„Dieser Mensch, sagten Sie? Es ist nicht möglich.“

„Ich will Ihnen noch mehr sagen, gnädigster Herr. Eben dieser war es,¹⁰ auf dessen Denunziation ich hierher geschickt worden bin, den Geisterbeschwörer zu verhaften.“

Wir sahen uns¹¹ mit noch größerem Erstaunen an.

37. „Da hätten wir es ja heraus,¹¹ rief endlich der Engländer, „warum der arme² Teufel von Beschwörer so erschrocken zusammenfuhr, als er ihm³ näher ins Gesicht sah. Er erkannte

6. 直譯: あなたにこれ以上、あの事を秘密にして置くには、私に對して、貴方はあまりに寛大でありました; あまりに寛大云々とは、囊に心づけ(金子)をもらつた事を指す。7. ein Geheimnis aus etwas machen 或事を秘密にする。8. 強い肯定で、それに外ならず ([英] nothing else). 9. einen von etwas überzeugen 或事について或人を確信させる。10. dessen は es にかゝる; 直譯: 正にこの人々こそは、こう云ふ人であつた、その人の告發に

『この未知の人は、貴下』と彼は金貨を彼れの手のなかでゆすぶりながら云つた——『あなたは私に對してあまりに寛大でしたから、私はそれを最早秘密にして置くことは出来ません——この未知の人は——國立宗教裁判所の士官でありました』

『國立宗教裁判所の?』

『その通りです、貴下——そしてそれに就いては、あの人が私に示した書類が、私を納得させました。』

『この人が、と貴方は云つたのですか? それあ有り得ない事だ。』

『私はもつと貴方に御話しやうと思ひます、他ならぬこの人こそは、其告發によつて降靈者を逮捕すべく、われわれがこゝへ派遣された本人なのです。』

われらは、より大なる驚愕を以て、互に顔を見合せたのである。

三十七、『それでわれわれは解せたわい』と遂に英人が叫んだ、『あの人が、あいつの顔をじつと眺めた時、どう云ふ理由で、降靈者の野郎めが、あんなにびつくりして縮み上つたかと云ふわけが。あいつはあれを探偵だと認めよつて、われわれが云々せるまゝの其人であつた。 11. 此 uns は再歸名詞ではなくて、相互代名詞である。

37. 1. Er hat es heraus (=herausbekommen). 彼はそれを見つけた; hätte は嘆嘆の Konjunktiv: [例] So wäre das zweite Semester vorüber! やつと第二學期もすんだわい。2. der arme Teufel 不憫な奴、憫然な野郎。3. ihm ins Gesicht=in sein Gesicht.

ihn für⁴ einen Spion, und darum tat er jenen Schrei und stürzte zu seinen Füßen.“

„Nimmermehr,“ rief der Prinz. „Dieser Mensch ist alles, was er sein will, und alles, was⁵ der Augenblick will, daß er sein soll. Was er wirklich ist, hat noch kein⁶ Sterblicher erfahren. Sahen Sie den Sizilianer zusammensinken, als er ihm die Worte ins Ohr schrie: ‚Du wirst keinen Geist mehr rufen!‘ Dahinter ist mehr. Daß man vor etwas Menschlichem so zu erschrecken⁷ pflegt, soll mich niemand überreden.“

„Darüber wird uns der Magier selbst wohl am besten zurechtweisen⁸ können,“ sagte der Lord, „wenn uns dieser Herr (sich zu den Anführer der Gerichtsdienner wendend) Gelegenheit verschaffen will, seinen⁹ Gefangenen zu sprechen.“

Der Anführer der Häscher versprach es uns, und wir redeten mit dem Engländer ab, daß wir ihn gleich den andern Morgen aufsuchen wollten. Jetzt begaben wir uns nach Venedig zurück.

38. Mit¹⁰ dem frühesten war Lord Seymour da (dies war der Name des Engländers), und

4. für etwas erkennen 或ものだと認める。 5. =alles, wovon der Augenblick will (wünscht), daß er es sein soll. 6. sterblich 死すべき; er Sterbliche 死すべきもの、即ち「人間」。 7.

たのだ、それだからあんな叫び聲を出して、あの人の脚下^{あしもと}に倒れたのだ。』

『決してさうではありません』と公子は叫んだ。『此人物は、自分がそれであらうとするすべてのものになるのです。その瞬間が、彼のそれであれかしと願ふすべてのものであるのです。彼が實際何であるかと云ふ事は、未だ嘗つて何人も知り得なかつたのです。「お前は最早靈を喚んではならないぞ」といふ言葉を、彼がシシリア人の耳に叫んだ時に、このものの倒れるのを、あなたは御覽でした。此背後には、より多くの事があります。人が或人間的なものの前に、かくも恐怖する習はしであると云ふ事を、何人もわたしに納得させ得る筈はないのです。』

『それについては、思ふに魔術師自身が、最よく私達に報告する事が出来るでせう』と卿^{ロード}は云つた。『もしこのかたが(廷吏の指揮者に向ひつゝ)、囚人と話すべき機会を、われわれに與へやうと思はれるならば。』

捕吏長は、それをわれらに約束した、そしてわれらは、すぐ翌朝彼れを訪れやうといふ事を、英人と協定したのである。今やわれらはヴェニヌに歸つて來た。

三十八、早朝シーモア卿(これが英人の名であつた)が、やつて來た。その後間もなく、われらを牢屋に案内^{案内}pflegen 習ひである。 8. einen über etwas zurechtweisen 或事について或人に教示・報告する。 9. einen sprechen = mit einem sprechen. 10. =zum frühesten 早天に。

bald nachher erschien eine vertraute Person, die der Gerichtsdienner abgeschickt hatte, uns nach dem Gefängnis zu führen. Ich habe vergessen zu erzählen, daß der Prinz schon seit etlichen Tagen einen seiner Jäger¹ vermißte, einen Bremer² von Geburt, der ihm viele Jahre redlich gedient und sein ganzes Vertrauen besessen hatte. Ob er verunglückt oder gestohlen³ oder auch⁴ entlaufen war, wußte niemand. Zu dem letztern⁵ war gar kein wahrscheinlicher Grund vorhanden, weil er jederzeit ein stiller und ordentlicher Mensch gewesen und nie ein Tadel an ihm gefunden war. Alles, worauf⁶ seine Kameraden sich besinnen konnten, war, daß er in der letzten Zeit sehr schwermütig gewesen und, wo er nur einen Augenblick erhaschen konnte, ein gewisses Minoritenkloster⁷ in der Giudecca⁸ besucht habe, wo er auch mit einigen Brüdern öfters Umgang gepflegt.⁹ Dies brachte uns auf die Vermutung, daß er vielleicht in die Hände der Mönche geraten sein möchte¹⁰ und sich katholisch gemacht hätte;¹⁰ und weil

38. 1. 此 Jäger は「獵師」ではない、從卒・從僕の意味である。これらのものの服装が、獵師に似て居たからだと思ふ。2. von Geburt 生誕から云ふさ； Sie ist schön von Gesicht. あの女の顔は美しい（顔から云ふさの義）； Bremen の人を Bremer と云ふ。3. gestohlen の次に worden を入れて考へる、そして gestohlen worden war とつゞく、「誘拐された」の義。4. oder auch 「またはひよつとしたら逃亡でもしたのか」の義。5. dem

すべく廷吏がよこした信任されてゐる或人物が、現はれた。私は、公子が既に數日前から、彼れの從卒の一人を失つてゐた事を話すべく忘却した。このものは生れから云ふとブレーメン人で、多年の間公子に仕へ、彼れの全信用を博して居たのであつた。この從卒が横死したのか、盗まれたのか、或はひよつとしたら逃亡でもしたのか、何人も知らなかつた。この最後のもの、即ち逃亡には、全く何等のそれらしい理由はなかつた、何故かなら彼はいつも静かなそして生帳面な人間であつて、彼に對する非難は、未だ嘗つて發見されなかつたからである。彼れの僚友たちが思ひ浮べ得た・すべてと云ふのは、彼が近來洗滌であつて、ほんの一瞬間でも捉へることが出来ると、ジュエデカに在るなにかしのフランシスカアネルの寺院を訪れた事であつて、そこで彼はまた、二三の僧侶と屢交際したのであつた。この事は、われらを次の如き推測に至らしめた、恐らく彼は僧侶たちの手に落ちて、カトリックとなつたのだらうと、そして公子はかゝる（宗教上の）事

letzteren 後に云つた事、即ち逃亡した事。6. sich auf etwas besinnen 或こゝを思ひ起す。7. Minoriten とはフランシス教團宗教の別名；此僧團は Assissi の Francis によつて、つくられたもの。8. Giu [ジュウと讀む] decca (ユデヤ區の意味) は、ヴェニス南岸に横はる島。9. Umgang pflegen 交際する。10. 動詞 vermuten 推測する、名詞 Vermutung にかゝる副文章には、可能法を用ゐるのが法則である。

der Prinz über diesen Artikel¹¹ damals noch sehr tolerant oder sehr gleichgültig dachte, so ließ er's nach einigen fruchtlosen Nachforschungen dabei¹² bewenden. Doch schmerzte ihn der Verlust dieses Menschen, der ihm auf seinen Feldzügen immer zur¹³ Seite gewesen, immer treu an ihm geblieben und in einem fremden Lande so leicht nicht wieder zu ersetzen war. Heute nun, als wir eben im Begriff¹⁴ standen auszugehen, ließ sich der Bankier dar Prinzen melden,¹⁵ an den der Auftrag ergangen war, für¹⁶ einen neuen Bedienten zu sorgen. Dieser stellte dem Prinzen einen gutgebildeten und wohlgekleideten Menschen in mittleren Jahren vor, der lange Zeit in Diensten eines Prokurators¹⁷ als Sekretär gestanden, französisch und auch etwas deutsch sprach, übrigens mit¹⁸ den besten Zeugnissen versehen war. Seine Physiognomie gefiel, und da er sich übrigens erklärte, daß sein Gehalt von¹⁹ der Zufriedenheit des Prinzen mit²⁰ seinen Diensten abhängen sollte, so ließ²¹ er ihn ohne Verzug eintreten.

11. 此 Artikel は信仰・宗派の問題を指す。12. es dabei bewenden lassen あきらめる。13. einem zur Seite sein 或人のそばについてゐる。14. im Begriff stehen 將に云々せんとしてゐる。15. sich melden lassen 取次をたのむ、取次がせる、取次がれる。16. für etwas sorgen 云々のために盡力する。17. Prokurator この時代の最高行政官（例へば Prokuratoren von San Marco）。18. in Diensten jemandes stehen 或人に仕へて（奉公

柄については、當時なほ甚だ寛大に、或は甚だ冷淡に考へて居たので、二三の無効なる探索をした後に、彼はあきらめて仕舞つたのである。しかし彼の出陣には、いつも彼の側に居て、常に忠實に彼につきまといつて居り、他國ではさう容易くは、補充のつかぬ此人物の居なくなつた事は、公子を悲しませたのであつた。さて今日、われらが丁度外出しやうとして居たときに、公子の（關係ある）銀行員が、とりつがれた、一人の新らしい召使を（得るやうに）盡力すべき委託が、この人に與へられて居たのである。このものは、一人の良く教育された・そして服装の立派な中年の男を、公子に紹介した。この者は長い間、書記として、或行政長官のものに仕へ、フランス語を話すし、ドイツ語もいづらか話すことが出来、其上極上の證明書を與へられて居たのである。彼れの人相が気に入つたし、且又彼れの俸給は、彼れの奉公振りに對する公子の満足（の程度）に基づくべきだと、彼自身が言明したので、公子は直ちに彼を職務に就かせた。

して）居る。19. mit etwas versehen 或ものを供給する；本文の versehen は過去分詞である。20. von etwas abhängen 或ものの如何による、或ものに依憑する。21. Zufriedenheit mit etwas 或ものについての満足。22. so ließ er in Dienst eintreten の義；彼をして職務に就かしめた；ohne Verzug 猶豫なく、直ちに。

39. Wir fanden den Sizilianer in einem Privatgefängnis, wohin er, dem¹ Prinzen zu Gefallen, wie der Gerichtsdienner sagte, einstweilen gebracht worden war, ehe er unter die Bleidächer gesetzt wurde, zu denen² kein Zugang mehr offen steht. Diese Bleidächer sind das fürchterlichste Gefängnis in Venedig, unter dem Dach des St. Markuspalastes, worin³ die unglücklichen Verbrecher von der dörrenden Sonnenhitze, die sich auf der Bleifläche sammlet, oft bis zum Wahnsinn leiden. Der Sizilianer hatte sich von dem gestrigen Zufalle wieder erholt und stand ehrerbietig auf, als er den Prinzen ansichtig⁴ wurde. Ein Bein und eine Hand waren gefesselt, sonst aber konnte er frei durch das Zimmer gehen. Bei unserm Eintritt entfernte sich die Wache vor die Türe.

„Ich komme,“ sagte der Prinz, nachdem wir Platz genommen hatten, „über zwei Punkte Erklärung von Ihnen zu verlangen. Die eine sind Sie mir schuldig,⁵ und es wird Ihr Schade nicht sein, wenn Sie mich über den andern befriedigen.“

39. 1. einem zu Gefallen 或人の(好都合の)ために。2. denen は Bleidächer; そこへは普通人は絶対に行けぬ; 普通人がそこへ行くことは、絶対に許されてゐない。3. worin の wo は Gefängnis にかゝる。4. den Prinzen ansichtig wurde=

三十九、われらはシ、リア人を、私用牢獄のなかで発見した。廷吏の云ふところに依ると、シ、リア人が鉛屋根の下にぶち込まれる前に、暫しの間 公子の都合のために、こゝへ連れて來られたのであつた、鉛屋根へは、いかなる通路も、最早開かれてはゐないのである。この鉛屋根といふのは、ヴェニスに於ける最も恐ろしい牢獄で、サン・マルコ宮殿の屋根の下にあつて、そこでは不幸な罪人たちが、鉛の表面の上に集まる・こがすやうな太陽の熱のために、屢氣ちがひになるまでに苦しむのであつた。シ、リア人は昨日の椿事から、再び恢復して、公子を見た時に、恭々しく起立した。片方の脚と一方の手とが、縛られてゐた、然しそのほかは(どうもされて居ないので)、彼は自由に室内を歩く事が出来た。われらが入つて行つたときに、番卒は戸口の前の方へ立ち去つた。

『私は』と公子は、われらが席に就いた後に、云つた。『二つの點について、貴君から説明を求めるために、やつて來たのです。その一方の説明をあなたは、私に對して責任づけられて居ます。そしてあなたが今一つの點について私を満足させて下さるのなら、それは、あなたの損害ではありますまい。』

den Prinzen sah. 5. einem etwas schuldig sein 或人に對して或事をなす義務がある; [例] Ich bin ihm eine Antwort schuldig. 私は彼に返事をする義務・義務がある; die eine は die eine Erklärung である。

„Meine Rolle ist ausgespielt⁶,“ versetzte der Sizilianer. „Mein Schicksal steht in Ihren Händen.“

„Ihre Aufrichtigkeit allein,“ versetzte der Prinz, „kann es⁷ erleichtern.“

„Fragen Sie, gnädigster Herr. Ich bin bereit, zu antworten, denn ich habe nichts⁸ mehr zu verlieren.“

„Sie haben mich das Gesicht der Armeniers in Ihrem Spiegel sehen lassen. Wodurch bewirkten sie dieses?“

40. „Es war kein Spiegel, was Sie gesehen haben. Ein bloßes Pastellgemälde¹ hinter einem Glas, das einen Mann in armenischer Kleidung vorstellte, hat Sie getäuscht. Meine Geschwindigkeit, die Dämmerung, Ihr Erstaunen unterstützten diesen Betrug. Das Bild selbst wird sich unter den übrigen Sachen finden, die man in dem Gasthof in² Beschlag genommen hat.“

„Aber wie konnten Sie meine Gedanken so gut wissen und gerade auf³ den Armenier raten.“

„Dieses war gar nicht schwer, gnädigster Herr. Ohne Zweifel haben Sie sich⁴ bei Tische in Gegenwart Ihrer Bedienten über die Begebenheit öfters herausgelassen,⁵ die sich zwischen

6. ausspielen 終りまで演ずる、ausgespielt sind 演じ終られてゐる。7. es=Schicksal. 8. 何にもかも失つて、これ以上失ふものはない。

40. 1. クレヨンと稱する乾いた顔料で、紙の上に描ける畫。

私の役割は、もう演了ですよ、』とシシリヤ人は答へた。『私の運命はあなたの掌裡に在るのです。』

『あなたの正直のみが、』と公子は答へた、『あなたの運命を緩和し得るのです。』

『おたづね下さい、貴下。私はお答へするつもりであります。と申しますのは、私は最早失ふべきものを持つてゐませんから。』

『あなたは、あなたの鏡のなかで、アルメニア人の顔を見せました。あなたはどうか云ふ風にして、それをなしとげたのですか?』

四十、『あなたが御覽になつたのは、鏡ではなかつたのです。ガラスの下においた一枚のたゞのバステル畫が——それはアルメニア人の服装をしてゐる一人の男を描いたのですが——あなたを欺いたのです、私のすばやさ、うす暗がり、あなたの驚きとが、この詐偽を援助したのです。畫そのものは、ホテルで差押へられたほかの品物のなかにあるでせう。』

『しかし、どうして貴君は、そんなに良く私の考へを知つて、外ならぬアルメニア人(そのもの)をあてる事が出来たのですか?』

『それは、ちつともむづかしくはありませんでした、貴下。疑ひもなくあなたは、食事中召使たちの面前で、あなたとこのアルメニア人との間に起つた事件について、屢

2. etwas in Beschlag nehmen 或ものを差押へる。3. auf etwas raten 或こゝを云ひあてる、考へあてる。4. sich herauslassen 洩らす、話す; bei Tische 食事中。

Ihnen und diesem Armenier ereignet hat. Einer von meinen Leuten machte mit⁵ einem Jäger, der in Ihren Diensten steht, zufälligerweise in der Giudecca Bekanntschaft,⁶ aus welchem er nach und nach so viel⁶ zu ziehen wußte, als⁶ mir zu wissen nötig war.“

„Wo ist dieser Jäger?“ fragte der Prinz. „Ich vermisse ihn, und ganz gewiß wissen Sie um seine Entweichung.“

„Ich schwöre Ihnen, daß ich nicht das Geringste davon weiß, gnädigster Herr. Ich selbst hab' ihn nie gesehen und nie eine andere Absicht mit' ihm gehabt, als die eben gemeldete.“⁷

„Fahren Sie fort.“ sagte der Prinz.

„Auf diesem Wege nun erhielt ich überhaupt auch die erste Nachricht von Ihrem Aufenthalt und Ihren Begebenheiten in Venedig, und sogleich entschloß ich mich, sie zu nützen. Sie sehen, gnädigster Herr, daß ich aufrichtig bin. Ich wußte von Ihrer vorhabenden⁹ Spazierfahrt auf der Brenta; ich hatte mich darauf¹⁰ versehen, und ein Schlüssel, der Ihnen von ungefähr entfiel, gab mir die erste Gelegenheit, meine Künste Ihnen zu versuchen.“

5. mit einem Bekanntschaft machen 或人と知り合ひになる。
6. so viel は als にかゝる; as much.....as 丈け.....それ丈け。
7. mit, に関して ([英] concerning)。 8. gemeldete の次に Absicht を入れて考へる。 9. vorhaben (企てる) の現在分詞 vorhabend を形容詞として用ゐたるもの; これは文法家の説に

洩されたでせう。私の仲間の一人が、あなたのところに奉公してゐる或従卒と、ジュウデカで偶然知り合ひになりました。この人(の口)から彼は、知るべく私に必要なだけの事柄を、引き出すことが出来たのでした。』

『どこにその従卒は居ますか?』と公子は訊ねた。『私は彼を見失つてゐるのです、そして全く確かに、あなたは彼れの逃亡について知つて居ませう。』

『私は其件については、毛頭知つて居ない事を誓ひます。私自身が其人に會つたのではなく、又今述べた以外の目的を、私が彼に關して持つて居はしなかつたのです。』

『話をつゞけて下さい。』と公子は云つた。

『さて、此方法でもつて、私は一般に、ヴェニスに於けるあなたの變事、並びにあなたの滞在について、最初の知せを得たのです、そしてすぐに私は、此知せを利用しやうと決心しました。御覽の通り、貴下、私は正直であります。私はあなたの目論んだブレンタ河の舟遊山についても、知つて居ました。私はそれに對して準備しました、そして偶然にあなたの手から落ちた鍵が、私の技術をおあなたに對して試みる最初の機會を私に與へたのでした。』

よるさ、正しくはないのであるが、往々用ゐられる; 「企てられたる舟遊山」の意味である; 例へば、die melkende Kuh 乳を出す牛、乳牛。 10. sich auf etwas (四) versehen 或事に對して準備する、或事を待ちかまへる。

41. „Wie? So hätte¹ ich mich also geirrt? Das Stückchen mit² dem Schlüssel war Ihr Werk, und nicht des Armeniers? Der Schlüssel, sagen Sie, wäre¹ mir entfallen?“

„Als Sie die Börse zogen — und ich nahm den Augenblick wahr, da mich niemand beobachtete, ihn schnell mit dem Fuße zu³ verdecken. Die Person, bei der⁴ Sie die Lotterielosenahmen, war im Verständnis⁵ mit mir. Sie ließ Sie aus einem Gefäß ziehen, wo keine Niete zu⁶ holen war, und der Schlüssel lag längst in der Dose, ehe⁷ sie von Ihnen gewonnen wurde.“

„Nunmehr begreif¹ ich's. Und der Barfüßermönch, der sich mir in den Weg warf und mich so feierlich anredete?“

„War der nämliche,⁸ den man, wie⁹ ich höre, verwundet aus dem Kamine gezogen. Es ist einer von meinen Kameraden, der mir unter dieser Verhüllung schon manche gute Dienste geleistet.“

„Aber zu welchem Ende stellten Sie dieses an?“

41. 1. hätte, wäre 共に疑惑をあらはす Konjunktiv; Dies wäre Ihr Bruder? これがあなたの兄弟ですつて? Das hätte er getan? それを彼がしたのですつて? 2. mit に関しての、に就いての。3. 此 zu は den Augenblick wahrnehmen にかゝる。4. bei der その人のところで、其人のもので。5. im Verständnis mit einem stehen 或人と結托してある。6. 他動詞へ zu をつけて sein と結合するとき、被動 (Passiv) の意味とな

四十一、『何んですつて? そんなら私が間違つたのか? 鍵の手品は、あなたの仕事で、アルメニア人の(した事)ではなかつたのですか? 鍵が私から落ちたと、あなたは云ふのですか?』

『あなたが財布を引き出したときにです——そして私は、その鍵をすばやく私の足で蔽ひかくすべく、誰れも私を見てゐない瞬間を利用しました。あなたがそこで富籤を引いたあの人物は、私とぐるになつて居たのです。あの男が、あなたに、空籤の引かれやう筈がないところの容れものから、引かせたのです。そして鍵は、あなたの手にはいるずつと前から、箱のなかにありました。』

『それで今解りました。そして私の行手に立ち塞がつて、あんなにお嚴かに、私に話掛けたあの跣足の托鉢僧は?』

『それは、私の聞くところに依ると、負傷して暖爐から引き出されたと云ふその人物です、あの男は、私の仲間の一人で、この假裝でもつて、これまで既に、いろいろ爲めになる盡力を、私にして呉れたのです。』

『然しどう云ふ目的のために、あなたはこんな事をしましたか?』

る; wo keine Niete zu holen war そこでは一本の空籤も引かれなかつたところの; [例] Das Buch ist nicht zu finden. 本は見つからぬ。7. ehe は接續詞、これで初まる文章は、副文である; 云々した以前 (ehe), ずつと久しく (längst)。8. der nämliche Mann 同一人物。9. wie 「ところに依る」と、「如く」ではない; Wie die Asahi berichtet 朝日新聞が報導するところに依ると。

„Um Sie nachdenkend zu machen – um einen Gemütszustand in Ihnen vorzubereiten, der Sie für das Wunderbare, das ich mit¹⁰ Ihnen im¹¹ Sinne hatte, empfänglich machen sollte.“

42. „Aber der pantomimische Tanz, der eine so überraschende seltsame Wendung nahm – dieser war doch¹ wenigstens nicht von Ihrer Erfindung?“

„Das Mädchen, welches die Königen vorstellte, war von mir unterrichtet, und ihre ganze Rolle² mein Werk. Ich vermutete, daß es Ew.³ Durchlaucht nicht wenig befremden würde,⁴ an diesem Orte gekannt zu sein, und verzeihen Sie mir, gnädigster Herr, das Abenteuer⁵ mit dem Armenier ließ mich hoffen, daß Sie bereits⁶ schon geneigt sein würden, natürliche Auslegungen zu verschmähen und nach höhern⁷ Quellen der Außerordentlichen zu spüren.“

„In der Tat,“ rief der Prinz mit einer Miene⁸ zugleich des Verdrusses und der Verwunderung, indem er mir besonders einen bedeutenden Blick gab, „in der Tat,“ rief er aus, „das habe ich

10. mit Ihnen あなたに関して、あなたに対して。11. im Sinne haben 企てる。

42. 1. 主張文章の構造を有する疑問文章に於て、Nein と云ふ答を豫期するとき(但日本流の「否」とドイツ流の nein とを混同して考へてはいけぬ)には、その文章中に doch……nicht を使用する: Du bist mir doch nicht böse? 君はまさか私に対して立腹はしてゐないか? (して居ませんよ、[nein] を豫期してゐる)

『あなたに思案させるためにでした——私があなたについて、^{もくろみ}目論で居たところの不思議な事件に対して、あなたがそれを受け容れるやうな気分を、貴方の心のうちに用意して置くためにでありました。』

四十二、しかしあんなに急な珍しい變り方をした身振狂言の踊りは、——あれは少くとも、まさかあなたの工夫ではなかつたでせうね?』

『女王の役を演じた少女は、私に教へ込まれたのです、そして其役目全體は、私の作です。この場所で、知られてゐると云ふ事が、殿下を少なからず驚かすであらうと、私は推測しました、そして御宥しを願ひますが、アルメニア人に關するあの事件が、次のやうな事を私に期望させました。それは貴方が最早自然的な解釋を輕んじ、異常な事件のより高い源を探るやうに傾いて居られるであらうといふ事です。』

『實際』と公子は、特に私に意味ある眼つきを、與へながら、不快と同時に驚異の顔つきを以て叫んだ。『實際』(る)。2. mein Werk の前へ war を入れる。3. Ew. は Eure と讀む。4. vermuten と云ふ字の補足語文章には、可能法を用ゐる。5. mit に關する、についての; Abenteuer 事變・異事。6. bereits schon は重複である。7. höhere とはこゝでは、超自然的・神秘的の意。8. 一方に於て「不快」をあらはすと同時に、他方では「おどろき」をも表はせる顔つき。9. wo は Fensterladen にかゝる。

nicht erwartet.“

„Aber,“ fuhr er nach einem langen Still-schweigen wieder fort, „wie brachten Sie die Gestalt hervor, die an der Wand über dem Kamin erschien?“

„Durch die Zauberlaterne, welche an dem gegenüber stehenden Fensterladen angebracht war, wo⁹ Sie auch die Öffnung dazu¹⁰ bemerkt haben werden.“

„Aber wie kam es denn, daß kein einziger unter uns sie gewahr¹¹ wurde?“ fragte Lord Seymour.

„Sie erinnern sich, gnädigster Herr, daß ein dicker Rauch von Olibanum den ganzen Saal verfinsterte, als Sie zurückgekommen waren, Zugleich hatte ich die Vorsicht gebraucht, die Dielen, welche man weggehoben, neben demjenigen Fenster anlehnen zu lassen, wo die Laterna magica¹² eingefügt war; dadurch verhinderte ich, daß Ihnen dieser Fensterladen nicht¹³ sogleich ins¹⁴ Gesicht fiel. Übrigens blieb die Laterne auch so lange durch einen Schieber verdeckt, bis Sie alle Ihre Plätze genommen hatten und keine Untersuchung im

10. dazu ぞは Zauberlaterne を入れるために。 11. gewhr werden (見る、ささる、気がつく) は四格を探る。 12. Laterna Magica = Zauberlaterne。 13. (ver)hindern の次に来る副文章

と彼は叫んだ、『それを私は豫期しなかつたのです。』

『然し』と彼は長い沈黙の後にまた續けた、『どうしてあなたは、暖爐の上の壁にあらはれたあのすがたを作り出したのですか?』

『向ひ側に在る窓の扉に据ゑつけられた幻燈によつてであります。あなたはそのための口を窓の扉にみつけれたでせう。』

『しかし、われわれの中の只の一人も、幻燈だと云ふ事に気がつかなかつたのは、如何してでしたらう?』とシーモア卿は云つた。

『あなたが歸つて來られた時に、反魂香の濃い烟が廣間ぢうを暗くして居た事を御記憶でせう。同時に私は取除けられた床板を、幻燈を差込まれて居た窓の側に立てかけるやうに注意を用ゐました、それによつて、此窓の戸があなた方の目に、直ぐつく事を妨げたのであります。且又幻燈は、あなた方がすべて席に就いて仕舞つて、部屋のしらべが、あなた方にされる事を、最早恐れる必要がなく

には、往々無用の nicht が使用される; この nicht はその一例である。 14. einem ins Gesicht fallen 或人の目につく。

Zimmer mehr von Ihnen zu fürchten¹⁵ war.“

43. „Mir kam¹ vor,“ fiel ich ein,² „als³ hörte ich in der Nähe dieses Saals eine Leiter anlegen, als ich in dem andern Pavillon aus dem Fenster sah. War dem⁴ wirklich so?“

„Ganz recht. Eben⁵ diese Leiter, auf welcher mein Gehilfe zu dem bewußten Fenster emporkletterte, um die Zauberlaterne zu dirigieren.“

„Die Gestalt,“ fuhr der Prinz fort, „schien wirklich eine flüchtige Ähnlichkeit mit meinem verstorbenen Freunde zu haben; besonders traf es ein, daß sie sehr blond war. War dieses bloßer Zufall, oder woher schöpften Sie die selbe?“⁶

„Eure Durchlaucht ⁷ erinnern sich, daß Sie über Tische⁷ eine Dose neben sich hatten liegen gehabt, auf welcher das Porträt eines Offiziers in ⁸ *scher Uniform in Emaille war. Ich fragte Sie, ob Sie von Ihrem Freunde nicht irgend ein Andenken bei⁸ sich führten? worauf⁹ Sie mit Ja antworteten; daraus¹⁰ schloß ich, daß es vielleicht die Dose sein möchte. Ich hatte das

15. 他動詞 (こゝでは fürchten) に zu をつけて、sein と結合する時は、受働の意味となる; Die Untersuchung ist nicht mehr zu fürchten. 搜索は最早恐れられない、搜索を恐ろしがる必要は、もはやない; von Ihnen あなた方(の側)からの ([英] on your part).

43. 1. einem vorkommen 或人に思はれる。2. einfallen 語を挿む。3. als ob ich.....anlegen hörte, の ob を略する。4.

なつたまで、引き戸によつて覆はれて居たのです』

四十三、私は言葉を挿んだ。『私が別の亭で、窓から眺めた時に、この廣間の近所で(だれかが)梯子をかけるのを聞いたやうに思はれます。實際さうでしたか?』

『全くその通り、幻燈を操縦するために、私の助手が上述の窓によち上つて行つたその梯子です』

『あらはれた姿は』と公子は續けて言つた、『實際私の死んだ友達と一寸似てゐるやうに見えました、それが甚しく金髪であつた事は、特に適合して居ました。これは單なる偶然でしたか、そうでなければ、あなたはどこからこの類似を持つて來たのですか?』

『殿下は覚えておいででせう、あなたが食事中、一つの匣をあなたの側において居たことを——その上にはエナメル細工で、なにがしの制服を着た士官の肖像畫がありましたつけね。私は、貴方が、お友達について何か或記念品を携帯してゐらつしやるかどうか伺ひました。それに対してあなたは、あると返事をされました、その事から私は

als hörte ich.....anlegen となる。4. 此 dem は指定代名詞 das の三格; 此用法は習慣的である; War das wirklich so? の意味。5. eben 他ならぬ、まさしく。6. dieselbe=die Ähnlichkeit. 7. über Tische=bei Tisch 食事中。8. etwas bei sich führen 或ものを携帯する、身の廻りに持つてゐる。9. auf etwas antworten 或ものに答へる。10. etwas aus etwas schließen 或事から或事を結論する。

Bild über Tische gut ins Auge¹¹ gefaßt, und weil ich im Zeichnen sehr geübt, auch im Treffen¹² sehr glücklich bin, so war es mir ein¹³ Leichtes, dem Bilde diese flüchtige Ähnlichkeit zu geben, die Sie wahrgenommen haben; und um¹⁴ so mehr, da die Gesichtszüge des Marquis sehr ins Auge¹⁵ fallen.“

„Aber die Gestalt schien sich doch zu bewegen —“

„So schien es — aber es¹⁶ war nicht die Gestalt, sondern der Rauch, der von ihrem Scheine beleuchtet war.“

„Und der Mensch, welcher aus dem Schlot herabstürzte, antwortete also für die Erscheinung?“

44. „Eben dieser.“

„Aber er konnte ja die Fragen nicht wohl hören.“

„Dieses¹ brauchte er auch nicht. Sie besinnen sich, gnädigster Prinz, daß ich Ihnen allen auf² das strengste verbot, selbst eine Frage an das Gespenst zu richten. Was ich ihn fragen würde und er mir antworten sollte, war abgeredet; und damit ja³ kein Versehen vorfiele, ließ ich

11. gut ins Auge fassen よく観察する、注意深く眺める。12. Treffen 似顔を描くこと。13. leicht を名詞的に使用したもの(中性); 一つのたやすい事業。14. 愈々、益々。15. ins Auge fallen (od. springen) 目につく、目立つ。16. es 「動けるものは」

その記念品は恐らくあの匣だらうと結論しました。私は食事中、其肖像をよつく眺めて置きました、そして私は畫を描く事に大分なれて居るし、似顔かきも大層うまいので、あなたが御覧になつたあの一寸した似寄りを、畫に與へるのは、私にとつては譯もない事でした。侯爵の顔つきは、大層目立つので、尙更ら、それはらくでした。』

『然しあの姿は、動くやうに見えましたが——』

『さう見えました——しかし動いたのは姿ではなくつて、その光で照されて居た煙りでした。』

『煙筒からころがり落ちた人が、この姿の代りに答へたのですか?』

四十四、『まさしくこの人です。』

『しかし彼は、事實この問ひをちやんと聞くことが出来なかつたでせう!』

『また其必要はなかつたのです。殿下、あなたは私があなた方凡てに、一つの問すら幽霊にかける事を、極めて嚴重に禁止したのを覚えて居られませう。私が彼に問ふであらうこと、また彼が私に答へねばならぬ事は、協定されてありました。そしてどんな過ちも起らないやうに、

41. 1. dieses = zu hören. 2. auf das strengste 比較しないで、單に或もの高度をあらはす副詞的規定。3. ja kein の ja は kein をつよめる、「いさゝかの過失も起らぬやうに」; damit は目的をあらはす。

große Pausen beobachten,⁴ die er an den Schlägen einer Uhr abzählen mußte.“

„Sie gaben dem Wirte Befehl, alle Feuer im Hause sorgfältig mit Wasser löschen zu lassen; dies geschah ohne Zweifel —“

„Um meinen Mann im Kamine außer Gefahr des Erstickens zu setzen, weil die Schornsteine im Hause ineinander laufen und ich vor⁵ Ihrer Suite nicht ganz sicher zu sein glaubte.“

„Wie kam es aber,“ fragte Lord Seymour, „daß Ihr Geist weder früher noch später da war, als Sie ihn brauchten?“

„Mein Geist war schon eine gute Weile im Zimmer, ehe ich zitierte; aber solange der Spiritus brannte, konnte man diesen matten Schein nicht sehen. Als meine Beschwörungsformel geendigt war, ließ ich das Gefäß, worin der Spiritus flammte, zusammenfallen: es wurde Nacht im Saal, und jetzt erst wurde man die Figur an der Wand gewahr, die sich schon längst darauf⁶ reflektiert hatte.“

„Aber in eben dem Moment, als der Geist erschien, empfanden wir alle einen elektrischen Schlag. Wie bewirkten Sie diesen?“

„Die Maschine unter dem Altar haben Sie entdeckt. Sie sahen auch, daß ich auf einem

4. Pause (時間的の) 間隔, 間(マ); beobachten 守る・保つ。

5. swiht さ發音す、隨行員; vor etwas sicher sein 云々に對し

私は彼に間を大きく保たせました、彼は其間を時計の打つ音でもつて、計算しなければならなかつたのです』

『あなたは、家ぢうのすべての火を、水で消させるやうに、主人に命令しましたね、あれは疑ひもなく——』

『家のなかで煙突は、お互に通じてみますし、私はあなたの隨員に對して、充分安心であるとは信じて居なかつたので、暖爐のなかに居る私の方の男を、窒息の危険外に置くためでした。』

『しかし、あなたの幽霊が、あなたの入用であるときより、早くも晩くもなく、出たのは、どうしてですか?』とシーモア卿は問ふた。

『私の幽霊は、私が彼を呼ぶずつと前から、部屋のなかに既に出て居たのです; しかしアルコールが燃えてる間は、人々はこのぼんやりした光を見なかつたのです。私の呪文の式が終つた時、私はその中で酒精の燃えてゐる容器を閉しました。廣間はまつくらになりました、今や初めて人々は、既に長い間その上に映つて居た姿を、壁の上に見つけたのでした!』

『しかし幽霊があらはれた丁度その瞬間に、われらすべては電氣の打撃を受けました。どうしてあなたは、この打撃を起したのです?』

『祭壇の下にあつた機械を、あなた方は見つけ出しましたね。あなた方はまた、私が絹の敷物の上に立つてゐたて安全である。6. darauf 壁の上に。』

seidenen Fußteppich stand. Ich ließ Sie in einem halben Mond um mich herum stehen und einander die Hände reichen, als es⁷ nahe dabei war, winkte ich einem von Ihnen, mich bei den Haaren zu fassen. Das silberne Kruzifix war der Konduktor, und Sie empfingen den Schlag, als ich es mit der Hand berührte.“

45. „Sie befahlen uns, dem Grafen von O** und mir,“ sagte Lord Seymour, „zwei bloße Degen kreuzweise über Ihrem Scheitel zu halten, solange die Beschwörung dauern würde. Wozu nun dieses?“

„Zu nichts weiter, als um Sie beide, denen ich am wenigsten traute, während des ganzen Aktus zu beschäftigen.¹ Sie erinnern sich, daß ich Ihnen ausdrücklich einen Zoll hoch bestimmte; dadurch, daß Sie diese Entfernung immer in acht² nehmen mußten, waren Sie verhindert, Ihre Blicke dahin³ zu richten, wo⁴ ich sie⁴ nicht gerne haben wollte. Meinen schlimmsten Feind hatte ich damals noch gar nicht ins Auge gefaßt.“

„Ich gestehe,⁵“ rief Lord Seymour, „daß dies vorsichtig gehandelt heißt⁶ — aber warum muß-

7. als es nahe dabei war=als es nahe am Erscheinen des Geistes war; 事件は幽霊の出現に近づいたときに。

45. 1. eineng beschäftigen 或人をはたらかす、煩はす、使用する; この beschäftigen の Objekt は勿論 Sie beide である。
2. etwas in acht nehmen 或ものに注意する; acht は die Acht

のを御覽でした。私はあなたがたに、半圓形をつくつて、私の廻りに立ち、そしてお互に手を取るやうにさせました、事件が近づいたときに、私は私の頭髪をつかむやうにあなた方の一人に合圖をしました。銀の十字架は傳導體でした、そして私が手でもつてそれに觸れたときに、あなたがたは電撃を感じたのです。』

四十五、『あなたはわれわれ——即ちフォン・オー伯と私とに命令しましたね』とシーモア卿は云つた、『降靈の手續がつかく間、二本の拔身の劍を、十文字に組んで、あなたの頭の上にかざすやうにと。で、あれは何のためでしたか?』

『私が最も信用の置けないあなた方二人に、儀式の間ちう、仕事をやらせて置くより外に、何の目的もなかつたのです。あなた方は、私がきちんと一定の高さをきめた事を覚えておいででせう。あなた方がこの距離に、いつも注意して居なければならぬ事によつて、あなた方は、私がそちらを見られたくないと思つてゐる方向へ、あなた方の眼を向けるのを妨げられたのでした。私はその時はまだ、私の最も苦手な敵を、眼中に置いては居なかつたのです。』

『私は認めます』とシーモア卿は云つた、『これこそ用意周到にやられたと申すべきだといふ事を、——然し何故、(注意・配慮)より來れるものにして、數詞の acht (8)より來れるにあらず。3. dahin さ云ふ場所の副詞は、關係副詞 wo に關聯す。4. sie=Blicke; gern haben wollen 持ちたがる。5. gestehen は「自白する」義ではなくて、「認定する」義。6. 「それは vorsichtig gehandelt さ云ふものだ」の義。

ten wir ausgekleidet sein?“

„Bloß um der Handlung eine Feierlichkeit mehr zu geben und durch das Ungewöhnliche Ihre Einbildungskraft zu spannen.“

„Die zweite Erscheinung ließ⁷ Ihren Geist nicht zum Worte kommen,“ sagte der Prinz. „Was hätten⁸ wir eigentlich von ihm erfahren sollen?“

„Beinahe dasselbe, was Sie nachher gehört haben. Ich fragte Eure Durchlaucht nicht ohne Absicht, ob Sie mir auch alles gesagt, was Ihnen der Sterbende⁹ aufgetragen, und ob Sie keine weiteren Nachfragen wegen seiner in⁸ seinem Vaterlande getan; dieses fand ich nötig, um nicht gegen Tatsachen anzustoßen, die¹⁰ der Aussage meines Geistes hätten widersprechen können. Ich fragte gewisser Jugendsünden wegen, ob der Verstorbene⁹ untadelhaft gelebt; und auf¹¹ die Antwort, welche Sie mir gaben, gründete ich alsdann meine Erfindung.“

„Über diese Sache,“ fing der Prinz nach einigem Stillschweigen an, „haben Sie mir einen

7. 話す時間を與へなかつた事。8. 此文章には、もしあのやうな妨害・邪竈がなかつたらと云ふ条件を示す副文章が略されて居る、この副文章には Konjunktiv を用ゐる、従つてこの副文章に対する主文章にも Konjunktiv が使用せらる。9. der Sterbende と der Verstorbene とを比較せよ、意味は既に述べたる通り、前者は瀕死の人、後者は死せる人；共に動詞から來り、前

私達は上着をぬいで居なければならなかつたのですか。』

『所作に、より多く莊嚴な趣を添へ、異常な事柄によつて、あなた方の想像力を緊張させる爲めだけです。』

『第二の幽霊はあなたの幽霊に口をきかせなかつたのですが、』と公子は云つた。『われわれは一體彼れの口から、どんなことを聞くべき筈でしたか?』

『あなた方が、後でお聞きになつたのと、ほとんど同じことです。臨終の人があなたに委託したすべての事を、あなたがわたしに言はれたかどうか、またあなたが彼のために、彼れの祖國で、詳密な探鑿をなされたかどうかと云ふ事を、私があなたにお訊ねしたのは、目的がなかつたではありません。私の幽霊の陳述がそれと矛盾するかも知れないやうな事實に、ぶつからないがために、かうお訊ねするのが必要だと私は思つたのでした。私は或種の若氣のあやまちについて、故人は非難される點なく生活したかどうかと云ふ事をお訊ねしました、そしてあなたが私に與へた返事の上に、私はそれから私の工夫の土臺を置いたのでした。』

『この事については、』と公子はしばらくの沈黙の後に初めた。『私にあなたは満足すべき解説を與へました。し

者は現在分詞、後者は過去分詞を名詞的に使用せるもの；但し der Tote (死人) は tot (死せる) と云ふ純粹の形容詞を名詞として使用せるもの。10. die は關係代名詞、複數一格、勿論 Tatsachen に關係す、der Aussage は三格；widersprechen は三格の Objekt を探る。11. etwas auf etwas [四] gründen 或ものの上に或ものの基礎を置く。

befriedigenden Aufschluß¹¹ gegeben. Aber ein Hauptumstand ist noch zurück,¹² worüber ich Licht¹² von Ihnen verlange.“

46. „Wenn es in meiner Gewalt steht, und —“

„Keine Bedingungen! Die Gerechtigkeit, in deren Händen Sie sind, dürfte² so bescheiden nicht fragen. Wer war dieser Unbekannte, vor dem wir Sie niederstürzen sahen? Was wissen Sie von ihm? Woher kennen Sie³ ihn? Und was hat es für eine Bewandnis mit⁴ dieser zweiten Erscheinung?“

„Gnädigster Prinz —“

„Als Sie ihm näher ins Gesicht sahen, stießen Sie einen lauten Schrei aus und stürzten nieder. Warum das? Was bedeutet das?“

„Dieser Unbekannte, gnädigster Prinz“ — Er hielt inne, wurde sichtbarlich unruhiger und sah uns alle in der Reihe herum mit verlegenen Blicken an. — „Ja, bei⁵ Gott, gnädigster Prinz, dieser Unbekannt ist ein schreckliches Wesen.“

„Was wissen Sie von ihm? Wie steht er

11. über etwas einen Aufschluß geben 或事について或解説を興へる。12. zurück sein 残つて居る; worüber は勿論 Hauptumstand に關係す; Licht 説明。

46. 1. 如何なる條件をもつけるな; Wenn es in meiner Gewalt steht, などと云つて、wenn 云々の條件をつけるが、そんなことはよして呉れの義。2. この dürfte nicht は「ではな

かし私があなたから説明を要求するなほ一つの主な事件が残つて居ます。』

四十六、『若し私の力で出来るなら、そして——』

『條件なしにして下さい。あなたがその手のうちに捕はれて居る法術そのものは、さう穩かには訊ねますまい。あの知らない人は誰れでしたか、その前にあなたが倒れるのをわれわれは見ましたが。あなたはあの人について如何な事を知つておますか? どういふ事から、あなたはあれを知つてゐるのです?そしてこの第二の幽霊には、どんな事情があるのですかね?』

『殿下——』

『あなたが彼の顔を、よく見たとき、あなたは高い叫聲を出して倒れました。それはどう云ふわけでしたか?これは何を意味するのです?』

『この知らない人は、殿下』——彼は中止した、ありありと、より不安になつた、そして困惑した目つきを以て、われわれすべてを、ぐるりと見廻した。——『えい、本當に、殿下、この知らない人は、恐ろしいものですよ。』

『あなたは彼について何を知つて居るのです?彼はあな

るまい」ではなくで「ないであらう」(推測)の義。3. どうしてあの人と知り合になつたのか?の意。4. Es hat damit folgende Bewandnis. それには (damit) 次のやうな事情がある; was für eine Bewandnis どんな事情。5. bei Gott. 確信をあらはす、まことに、實際。

mit Ihnen in Verbindung? — Hoffen Sie nicht, uns die Wahrheit zu verhehlen.“ —

„Davor⁶ werd' ich mich wohl hüten — denn wer steht mir dafür,⁷ daß er nicht in diesem Augenblick mitten unter uns steht?“

„Wo? Wer?“ riefen wir alle zugleich, und schauten uns halb lachend, halb bestürzt im Zimmer um. — „Das ist ja nicht möglich!“

„O! diesem Menschen — oder wer⁸ er sein mag — sind Dinge möglich, die noch weit weniger zu begreifen sind.“

„Aber wer ist er denn? Woher stammt er? Armenier oder Russe? Was ist das Wahre⁹ an dem, wofür er sich ausgibt?“

„Keines¹⁰ von allem, was er scheint. Es wird wenige¹¹ Stände, Charaktere und Nationen geben, davon er nicht schon die Maske getragen. Wer er sei? Woher er gekommen? Wohin er gehe? weiß niemand. Daß er lang in Ägypten gewesen, wie viele behaupten, und dort aus einer Pyramide¹² seine verborgene Weisheit ge-

6. sich vor etwas hüten 或事をしないやうに氣をつける; [例] Hüte dich vor Ausschweifungen! 放蕩をしないやうに氣をつけよ!; 本文の da は「眞實を隠す」こと、wohl 長く、ちゃんこ。
7. einem für etwas stehen 或人に対して或事を保証する。8. wer er sein mag (どんなもので彼があらうとも); これには「彼は人間ではないかも知れぬが」の意を包含して居る。9. das Wahre 眞、眞實の事; sich für etwas ausgeben 或もののふりをする、あるものだと自ら稱する; wofür の wo は dem に關係す

たと、どう云ふ關係を持つてゐるのですか? われわれに對して眞實をかくさうなどと望まないで下さい! —

『そんな事を、しないやうに注意ませう——と云ふのは、彼がこの瞬間にも、われわれのまつたゞ中に居ないと云ふ事を、誰れが私に保証しますか?』

『どこに? 誰れが?』とわれわれすべては同時に叫んだ、そして半ば笑ひながら、半ばびつくりして室内を見廻した。——『それあ實際あり得ない事だ!』

『あゝ、此人間には——彼がどんなものであらうとも——もつともつと理解され得ない事が出来るのです。』

『然し一體彼は何ものですか? 何處の生れですか? アルメニア人ですか、露西亞人ですか? 彼がその振りをしてゐるなかで、何が本當なのですか?』

『彼がそう見せるところのすべてのなかで、どれもこれも本當ではないのです。彼がこれまでにその假面をかぶらなかつたところの階級や身分や國民は、ほとんどないでせう。彼は何ものであるか? 彼はどこから來たのか? 彼はどこへ行くのか? だれも知らないのです。多くの人の主張するところに依ると、彼は長い間埃及に居て、そこで或金字塔から、秘密な知識を取り出したと云ふ事を、私

る; an dem, wofür er sich ausgibt をひきくるめて譯す、彼の見せかけの中で ([英]=in his pretentions). 10. Keines の次に ist das Wahre を入れて考へる。11. 直譯: それについて (da は Stände, Charaktere 及び Nationen にかゝる) 彼がすでに假面をかぶらなかつたところの僅少なる階級・身分・國民がある (es gibt) だけである。12. 金字塔の中には、神秘な記録が藏されてあるとは、昔しから云ひ傳へられて居る。

holt habe, will ich weder bejahen noch verneinen. Bei¹³ uns kennt man ihn nur unter dem Namen des Unergründlichen.¹⁴ Wie alt, zum Beispiel, schätzen¹⁵ Sie ihn?“

„Nach dem äußern Anschein zu urteilen, kann er kaum vierzig zurückgelegt haben.“

47. „Und wie alt denken Sie, daß¹ ich sei?“

„Nicht weit von fünfzig.“

„Ganz recht — und wenn² ich Ihnen nun sage, daß ich noch ein Bursche von siebenzehn Jahren war, als mir mein Großvater von diesem Wundermann erzählte, der ihn ungefähr in eben dem Alter, worin er jetzt zu sein scheint, in Famagusta³ gesehen hat. —“

„Das ist lächerlich, unglaublich und übertrieben.“

„Nicht um einen⁴ Zug. Hielten⁵ mich diese Fesseln nicht ab, ich wollte Ihnen Bürgen stellen, deren ehrwürdiges Ansehen Ihnen keinen Zweifel mehr übrig⁶ lassen würde. Es gibt glaubwürdige Leute, die sich erinnern, ihn in verschiedenen

13. bei uns われらのところでは、此土地では。14. 一格は der Unergründliche 探究し難き人、えたいのわからない人。15. schätzen 評価する。

47. 1. 此器法の他の例: Was denkst du, daß ich nun anfang? 何を今私が初めたさ君は思ふのか?; Und was meinst du denn, daß an dir zu bessern sei? 何がお前の體に於て改良さるべきださ、お前は一體考へるのか? [Lessing]. 2. 此 Wenn-Satz (wenn で初まる副文章) に対する主文章は略されて居る; 「云々云ふ

は肯定しやうとも、否定しやうとも思ひません。われわれのところでは、得體の知れぬ人と云ふ名前で、知られてゐます。例へば、あなたは彼を何才と考へますか?』

『外見から判断すると、四十才をやつと踰えたか、踰えぬかでせう。』

四十七、『さうしてあなたは、私をいくつだとお考へですか?』

『五十をたんと越えては居ますまい。』

『全くその通りです。——そこで私が今、私の祖父が私にこの不思議な人物について話したときには、私はまだ十七才の若輩であつたといふ事を、申しますならば——祖父はファミグスタで、丁度今見える位の年輩をしたあの人物にあつたのです。』

『それは可笑しい、信じがたい而して誇張した事です。ね。』

『いや決して。この鎖が私を妨げなければ、私はあなたに證人を立てやうと思ひます、その尊敬すべき名聲が、最早いかなる疑惑をも、あなたの心のうちに残して置かないやうな證人をです。あの人物を、いろいろな地方で、同

事をあなたがおき、なすつたら、どうお思ひか、定めて驚かれるだらう」の義。3 地中海東部にあるサイプラス ([英] Cyprus; [獨] Zypern) の首府。+ 「一點一劃すらかゝるこさなし」; これは誇張されてゐる前に述べられた言葉にのみ係る、lächerlich 又は unglaublich に關係なし。5. hielten.....ab 及び wollte (共に Konjunktiv; Bürgen stellen (保) 證人を立てる。6. etwas übrig lassen 或ものを残して置く。

Weltgegenden zu gleicher Zeit gesehen zu haben. Keines Degens Spitze kann ihn durchbohren, kein Gift ihm etwas anhaben,⁷ kein Feuer sengt ihn, kein Schiff geht unter, worauf er sich befindet. Die Zeit selbst scheint an ihm ihre Macht zu verlieren, die Jahre trocknen seine Säfte⁸ nicht aus, und das Alter kann seine Haare nicht bleichen. Niemand ist, der ihn Speise nehmen sah, nie ist ein Weib von ihm berührt worden, kein Schlaf besucht seine Augen: von allen Stunden des Tages weiß man nur eine einzige, über⁹ die er nicht Herr ist, in welcher niemand ihn gesehen, in welcher er kein irdisches Geschäft verrichtet hat.“

„So?“ sagte der Prinz. „Und was ist dies für¹⁰ eine Stunde?“

„Die zwölfte in der Nacht. Sobald die Glocke den zwölften Schlag tut, gehört er den Lebendigen¹¹ nicht mehr. Wo er auch sein mag, er muß fort, welches Geschäft er auch verrichtet, er muß es abbrechen. Dieser schreckliche Glockenschlag reißt ihn aus den Armen der Freundschaft, reißt ihn selbst vom Altar, und würde¹² ihn auch aus dem Todeskampf rufen. Niemand weiß, wo er dann hingehet, noch¹³ was er da

7. einem etwas anhaben 或人に或害を加へる。8. Säfte みづ氣、若々しさ、氣力。9. über etwas Herr sein 或ものを支配する。10. was für eine Stunde いかなる・どう云ふ時間。11. die

時に見た事を記憶してゐる信すべき人たちがあるのです。いかなる劍の切尖も彼を貫く事は出来ず、いかなる毒も彼を害し得ず、いかなる火も彼を焼くことが出来ず、彼の乗つて居るいづれの船も沈没しないのであります。時間それ自身も彼に對しては、その力を失ふやうに見えます。歲月は彼の水々しさを乾し涸らす事なく、老齡は彼れの頭髮を白くする事は出来ないのです。彼れが食事するのを見た人は一人もありません、いかなる婦人にも、これまで彼れは觸れたことはないのです。またいかなる睡眠も彼れの眼を訪れた事ありません。たゞ一日のすべての時間のうちで、彼の自由にならないたつた一つの時間のあることが、知られて居ます、此時間には、たれも彼を見たことはありません、彼はこの時間には、世間のいかなる仕事をもしたことはないのです。』

『さうですか?』と公子は云つた、『そしてそれはどの時間ですか?』

『夜の十二時です。鐘が十二番目の打音をひびかせるや否や、彼は最早生ける人たちの仲間ではないのであります。どこに彼が居やうと、彼は立ち去らなければならないのです。どんな仕事を彼れがして居やうとも、彼はそれを中止しなければならないのです。この恐ろしい鐘の音は、(彼れを友人の腕のなかから、もぎ取ります、祭壇からすらも、これを引き離すのです、末期の苦しみからもまた彼を呼び出すでせう。其時に彼はどこへ行くのか、Lebendigen 生ける人々。12. 可能をあらはす Konjunktiv. 13 此 noch は weder.... noch の意味の noch.

verrichtet. Niemand wagt es, ihn darum¹⁴ zu befragen, noch weniger ihm zu folgen; denn seine Gesichtszüge ziehen sich auf einmal, sobald diese gefürchtete Stunde schlägt, in einen so finstern und schreckhaften Ernst zusammen, daß jedem der Mut¹⁵ entfällt, ihm ins Gesicht zu blicken oder ihn anzureden. Eine tiefe Todesstille endigt dann plötzlich das lebhafteste Gespräch, und alle, die um ihn sind, erwarten mit ehrerbietigem Schauern seine Wiederkunft, ohne es nur¹⁶ zu wagen, sich von der Stelle zu heben oder die Türe zu öffnen, durch die er gegangen ist.“

48. „Aber,“ fragt einer von uns, „bemerkt man nichts Außerordentliches an ihm bei seiner Zurückkunft?“

„Nichts, als daß er bleich und abgemattet aussieht, ungefähr wie ein Mensch, der eine schmerzhaft Operation ausgestanden, oder eine schreckliche Zeitung erhält. Einige wollen¹ Blutstropfen auf seinem Hemde gesehen haben; dieses aber lasse ich dahin² gestellt sein.“

„Und hat man es zum wenigsten³ nie versucht, ihm diese Stunde zu verbergen oder ihn so in⁴

14. einen um (od. über) etwas befragen 或事について或人に訊れる。15. Einem entfällt der Mut. 或人に勇氣がなくなる。

16. nur 「さへ、すら」の義。

48. 1. 此 wollen は「云ひ張る」の意味。2. etwas dahin

そこでまた彼が何をするのか、誰れも知らないです。何人もそれについて、彼に訊ねやうとは敢えてしません、なほさらの事、彼のあとをつけやうなどとは、敢えてしないのです。と云ふのは、この恐ろしい時間(の鐘)が鳴ると、彼の顔は忽ち非常に陰氣なそして恐ろしく眞面目な表情にしかまるので、彼の顔を眺めたり、彼に話しかけたりする勇氣が、だれにもなくなるのです。その時は、深い寂寥が突然に最もにぎやかな會話にも終りをつけます、そして彼の廻りに居るすべての人たちは、その場所から立ち上がることを、或は彼が出て行つた戸を開くことさへ敢てしないで、崇敬に満ちた戦慄をしながら、彼れの歸つて來るのを待ち設けて居るのです。』

四十八、『然し』とわれらのうちの一人が訊ねた、『彼の歸つて來るとき、彼れに何か異つたところが見つかりませんか?』

『彼が蒼さめてまた疲れて見える外は、何の變つたところはありませぬ、丁度苦しい手術に堪えたか、或恐ろしい知らせを受け取つた人のやうに見える外には、——二三の人々は、彼の襦衣の上に血の滴りを見たと言張します、しかしこの事は私は未定のまゝにして置きます。』

『そして人々は、この時間を彼にかくして置くやうに、又は彼がこの時間を逃さなければならぬ程に放心させる

gestellt sein lassen 或事を決しないで、打棄てておく。自分は肯定しやうとも否定しやうとも思はぬ。3. zum wenigsten 少くとも、= wenigstens 4. in etwas verwickeln 四十九節註を見よ。

Zerstreuung zu verwickeln, daß er sie übersehen mußte?“

„Ein einziges Mal, sagt man, überschritt er den Termin. Die Gesellschaft war zahlreich, man verspätete sich bis tief in die Nacht, alle Uhren waren mit Fleiß⁵ falsch gerichtet, und das Feuer der Unterredung riß ihn dahin.⁶ Als die gesetzte Stunde da war, verstummte er plötzlich und wurde starr, alle seine Gliedmaßen verharrten in derselben Richtung, worin dieser Zufall sie überraschte, seine Augen standen, sein Puls schlug nicht mehr, alle Mittel, die man anwendete, ihn wieder zu erwecken, waren fruchtlos; und dieser Zustand hielt an, bis die Stunde verstrichen war. Dann belebte er sich plötzlich von selbst wieder, schlug die Augen auf und fuhr in der nämlichen Silbe fort, worin⁷ er war unterbrochen worden. Die allgemeine Bestürzung verriet ihm, was geschehen war, und da erklärte er mit einem fürchterlichen Ernst, daß man sich⁸ glücklich preisen dürfte, mit dem bloßen Schrecken davongekommen⁹ zu sein. Aber die Stadt, worin ihm dieses begegnet war, verließ er noch an demselben Abend auf immer.¹⁰ Der allgemeine Glaube ist, daß er

5. mit Fleiß 故意に。6. dahin の da は的確に指示せる場所を有せず; dahin fließen 流れ去る; dahin reißen 拉し去る。7. worin の wo は Silbe にかゝる; 直譯: その綴で、彼が中斷せら

やうに、少くとも試みた事はなかつたのですか?』

『たつた一度、時間を過した相です。集まりの人々は澤山でした、人々は夜深くまで居残りました、すべての時計はわざと間違はしてありました、そして談話の熱が彼を拉して行きました。定刻が来たときに、彼は突然沈黙して、固くなりました、彼のすべての手足は、この偶然がこれを捉へた方向に於てその儘に留まり、彼れの眼は動かず、彼れの脈はもはや打たず、彼を再びよびさますべく人々の用ゐたすべての手段は無益でした。そしてこの状態はその時間が過ぎて仕舞うまで續きました。それから彼は自然に生き返へり、眼を開いて、彼がそこで中絶した綴りのところで、また話を續けて行くのでした。一般の人々の驚ろきは、何が起つたのかと云ふ事を、彼に知らせました。そこで彼は恐ろしく嚴肅な容子でもつて、かう言明しました、たゞの驚愕で事すみになつたら、人々は自らを仕合せだと讚美してよろしいのだと。然しこの事件の起つた町を、彼はなほその夜のうちに、永久に立ち去りました。一般の信仰では、彼はこの神秘的な時間に於て、彼れたる其綴に於て。8. 自己 (sich) を仕合せ (glücklich) なりさ自讃 (preisen) してよろしい。9. davonkommen のがれる、切りぬける、事すみになる。10. auf immer 永久に。

in dieser geheimnisvollen Stunde Unterredungen mit seinem Genius halte. Einige meinen gar, er sei ein Verstorbener, dem es verstattet sei, dreiundzwanzig Stunden vom Tage unter den Lebenden zu wandeln; in der letzten aber müsse seine Seele zur Unterwelt heimkehren, um dort ihr¹⁰ Gericht auszuhalten. Viele halten¹¹ ihn auch für den berühmten Apollonius¹² von Tyana, vnd andere gar für den Jünger Johannes,¹³ von dem es heißt, daß er bleiben würde bis zum letzten Gericht.“

49. „Über einen so außerordentlichen Mann,“ sagte der Prinz, „kann es freilich¹ nicht an abenteuerlichen Mutmaßungen fehlen. Alles Bisherige aber² haben Sie bloß von Hörensagen²; und doch schien mir sein Benehmen gegen Sie und das Ihrige gegen ihn auf³ eine genauere Bekanntschaft zu deuten. Liegt hier nicht irgend eine besondere Geschichte zum⁴ Grunde, bei⁵ der Sie selbst mit verwickelt gewesen?

10. ihr=Seele の; Gericht aushalten さばきを受ける; 罰を受ける。11. einen für etwas halten 或人を云々だと思ふ。12. Tyana はカツパドキア ([英] Cappadocia, [獨] Kapadozien) の地名; Apollonius は西暦一世紀の頃の哲學者であつて、新ピタゴラス派に關する。此人は又東邦の神學的の學問にも精通したと云はれ、超自然の智と力を有すと信ぜられて居た。故に彼の行つたと傳へられる不思議な事件が多くある。13. 使徒 Johannes の事については、聖書ヨハネ傳二十一章 22—23 から來てゐる; es heißt=と云はれ(かゝれ)てゐる。

れの守り神と話しをするのだと云はれてゐます。二三の人々はあまつさへ、彼は一日のうち二十三時間だけ生ける人々の間をさまやう事を許された死人であり、最後の時間に於て、彼の魂は裁判をうけるために、冥府へ歸つて行かなければならないのであるとすら主張します。多くの人々はまた、彼をあの有名なティアナのアポロニウスだと考へてゐます、そして他の人々は、彼を最後の審判の日まで生残つてゐるであらうと云はれてゐるあの使徒ヨハネだとすら考へてゐるのです。』

四十九、『あのやうな異常な人に就ては、』と公子が云つた、『勿論冒險的な推測に缺乏しますまい。しかしこれまでの事すべてはあなたが單に噂で聞いて知つてゐるのです、だが、あなたに對する彼れの態度、それから彼に對するあなたの態度は、もつと精しい知り合だと云ふ事を示すやうに見えました。こゝには、あなた自身がそれに關係したやうな或種の特別な事件が、土臺をなしては居ないのでですか? われわれに對しては、何事もかくさないで

49. 1. freilich さ aber さは相照應す; 勿論成程云々ではあるが……然し。2. von Hörensagen 傳聞でもつて、人の話で聞いて。3. auf etwas deuten 或事を指す、示す。4. etwas (三) zu Grunde liegen 或事の根柢をなしてゐる; こゝでは、「或よりくはしい知識關係 (Bekanntschaft) の根柢・基礎をなしてゐる」の義。5. bei der=in die; in etwas (四) verwickeln 或ものの中へまき込む; mit 一緒に、共に; bei der Sie selbst mit verwickelt gewesen sind. その事に、あなた御自身が共にまき込まれて居たところの。

Verhehlen Sie uns nichts.“

Der Sizilianer sah uns mit einem zweifelhaften Blick an und schwieg.

„Wenn es eine Sache betrifft,“ fuhr der Prinz fort, „die Sie nicht gerne laut⁶ machen wollen, so versichre ich Sie im Namen dieser beiden Herren der unverbrüchlichsten⁷ Verschwiegenheit. Aber reden Sie aufrichtig und unverhohlen.“

„Wenn ich hoffen kann,“ fing der Mann nach einem langen Stillschweigen endlich an, „daß Sie solche⁸ nicht gegen mich⁹ zeugen lassen wollen, so will ich Ihnen wohl eine merkwürdige Begebenheit mit¹⁰ diesem Armenier erzählen, von der¹¹ ich Augenzeuge war, und die¹¹ Ihnen über die verborgene Gewalt dieses Menschen keinen Zweifel übrig lassen wird. Aber es¹² muß mir erlaubt sein,“ setzte er hinzu, „einige Namen dabei zu verschweigen.“

„Kann es nicht ohne diese¹³ Bedingung geschehen?“

„Nein, gnädigster Herr. Es ist eine Familie darein¹⁴ verwickelt, die ich zu schonen Ursache

6. laut machen 世間に (公けに) 知らせる。7. 最も堅い (破りがたい) 緘黙。8. solche = dieselbe, 次に云はれる Begebenheit を意味する。9. gegen einen zeugen 或人に對して不利な証言をする; 直譯: 「若しあなたが、かうした(云はんとしてある) 事件をして、私に不利な証言をなさしめやうと思はないならば。」
10. mit に關する、についての。11. von der の der も und die の

頂きます。』

シリア人は、疑惑にみちた眼つきを以て、われらを眺めた、そして沈黙した。

『それが、あなたの公けに知らせたくない事件に關係して居るのなら、』と公子は續けて云つた、『私は此兩君の御名前に於て、あなたに最も嚴重な緘黙を確約致します。然しわれわれには、正直に而して隠さずに話し下さい。』

『あなた方が、かうした事柄を、私に對して不利な證據となさらぬといふ事を、私が希望して宜しいならば』と、その人は長い緘黙の後に到頭云ひ初めた、『私は成程あなた方に、此アルメニア人に關する或注目すべき事件をお話し致しませう。——その事件については、私は目撃者でありました、またそれは、此人物のかくれたる力に就て、あなた方に何等の疑惑をも残させないでせう。然しこの場合、二三人の名前を秘すことが、私に許されなければなりません。』と彼は付け加へて云つた。

『この條件なしで話しするわけには行きませんか?』

『まゐりません、貴下。私がそれを庇護すべき原因を持つてゐるところの或家族が、その事件に巻きこまれてゐるのも共に關係代名詞で、Begebenheit にかゝる。12. es は、次の zu schweigen に關係す; 云々を黙すべく、それが……。13. 二三の人名を黙過するを云ふ條件; 「それが起る」とは「話される」事。14. darein=in die Begebenheit; da と in に結合するとき、其 in が三格支配の意味なるときは、darin, 四格支配の意味なる時は、d rein; in etwas verwickeln は、本節(註)5を見よ。

habe.“

„Lassen Sie uns hören,“ sagte der Prinz.

50. „Es mögen nun fünf Jahre sein“ fing der Sizilianer an, „daß ich in Neapel, wo ich mit ziemlichem Glück meine Künste trieb, mit einem gewissen Lorenzo del¹ M**nte, Chevalier² des Ordens von St. Stephan,³ Bekanntschaft machte, einem jungen und reichen Kavalier aus einem der ersten Häuser des Königreichs, der mich mit Verbindlichkeiten überhäuft⁴ und für meine Geheimnisse große Achtung zu tragen schien. Er entdeckte mir, daß der Marchese⁵ del M**nte, sein Vater, ein eifriger Verehrer des Kabbala⁶ wäre und sich glücklich schätzen würde, einen Weltweisen (wie er mich zu nennen beliebte) unter seinem Dache⁷ zu wissen. Der Greis wohnte auf einem seiner Landgüter an der See, ungefähr sieben Meilen von Neapel, wo er beinahe in gänzlicher Abgeschlossenheit von Menschen das Andenken eines teuern Sohnes beweinte, der ihm durch ein schreckliches Schicksal entrissen ward. Der Chevalier ließ mich merken, daß er und seine Familie in einer

50. 1. del は伊太利語で、冠詞の集約された形である、これは固有名詞の一部をなすのである； M**nte はムーンテと読む、首めの字を、終りの綴りを出したのである。2. Chevalier はシュヴァリエと読む；=Ritter, Kavalier. 3. 聖ステファンの騎士團 (Ritterorden) は、1554年 Florenz の大公爵 Cosimo I に

るのです。』

『われわれに聞かせて下さい、』と公了は云つた。

五十、『今では五年にもなるでせう』とシシリア人は語り初めた。『私が可成りの成功を収めて、私の技藝をやつてゐたところのナポリで、聖ステファン教團の騎士なるロレンツェオ・デル・ムーンテと呼ぶ人と知り合ひになりましたのは。——それは此王國の第一流の家柄の一つから出た若い而して金持ちの騎士で、私を非常に^{ひい}眷顧して呉れ、私の不思議な術に對して、大なる尊敬を持つて居るやうに見えました。彼はその父デル・ムーンテ侯爵が神秘教の熱心なる尊崇者である事、及び侯爵は大賢者(彼は私をさう呼ぶのを好みました)を彼の家に迎へるならば、自らを非常に仕合せだと思ふだらうと云ふ事を、私に打ちあげました。この老人はナポリから約七哩離れた海岸の所領の一つに住んで居ました、そこで彼は人間とは全く隔離して、彼の手から恐ろしい運命によつて奪ひ去られた親愛な息子の思ひ出を悲しんで(暮らして)居ました。騎士は、彼及び彼の家族が、或事件に就て、——それにあつてはすべ

よつて作られた。4. einen mit etwas überhäufen 或人に或ものを澤山に與へる； Verbindlichkeit 親切・厚意。5. Marchese は伊太利語で markése と読む；=Marquis (マルキー)。6. Kabbala は猶太の神秘學である。7. 彼の住居へ來てもらう事。

sehr ernsthaften Angelegenheit meiner⁸ wohl gar⁹ einmal bedürfen könnten, um von meiner geheimen Wissenschaft vielleicht einen Aufschluß über etwas zu erhalten, wobei¹⁰ alle natürlichen Mittel fruchtlos erschöpft worden wären. Er insbesondere, setzte er sehr bedeutungsvoll hinzu, würde einst vielleicht Ursache haben, mich als den Schöpfer seiner Ruhe und seines ganzen irdischen Glücks zu betrachten. Ich wagte nicht, ihn¹¹ um das Nähere zu befragen, und für damals blieb es bei¹² dieser Erklärung. Die Sache selbst aber verhielt¹³ sich folgender Gestalt.“

51. „Dieser Lorenzo war der jüngere Sohn des Marchese, weswegen¹ er auch zu dem geistlichen Stand bestimmt war; die Güter der Familie sollten an seinen ältern Bruder fallen. Jeronymo, so hieß dieser ältere Bruder, hatte mehrere Jahre auf Reisen zugebracht und kam ungefähr sieben Jahre vor der Begebenheit, die jetzt erzählt wird, in sein Vaterland zurück, um eine Heirat mit der einzigen Tochter eines benachbarten gräflichen Hauses von C***tti zu vollziehen, worüber² beide Familien schon seit

8. meiner は二格で、bedürfen の要求する二格。9. wohl 多分; gar=sogar (その上、一步をすゝめて); einmal いくつかは、他日。10. wobei の wo は etwas にかゝる; それにありては。11. einen um etwas befragen 或人に或事をたづねる。12. es (事件は); bei etwas bleiben 或ところ、或もので止まり、それ

ての自然的な方法が、効果なく用ひ盡された或事件に就て、私の秘密な學問から、多分一個の解決を得やうがために、思ふにいつかは、或非常に眞剣な事柄に於て私を要するかも知れないと云ふ事を、悟らせました。騎士は甚だ意味深く附け加へて云ひました、特に彼は私を、彼れの平安と此世に於ける全幸福との創造者だと見做すべき理由を、多分いつかは持つだらうと。私はより詳細な事に就いて、彼に訊ぬべく敢えませんでした。そしてその當時はこの説明でとゞまりました。しかし事件そのものは、次のやうな状態にあつたのでした。』

五十一、「このロレンツォは、侯爵の若い方の息子でした、夫故に彼はまた僧侶の階級に入るやうにきめられて居ました; 家族の財産は、彼れの兄の手に落つべき筈でした。イ・ロニーモは、——兄の方はさう云ふ名前でしたが——數年間を旅で暮しました、そして今話される事件の起る七年ほど前に、祖國へ歸つて來ました、それは隣りのソェティ伯爵家の一人娘との結婚式をあげる爲めでした、この結婚については、此子供たちが生れ時たから既に兩家以上進展しない。13. sich verhalten 云々の状態にある; folgender Gestalt は副詞的二格、「次のやうに」。

51. 1. weswegen 上述の事のために; こゝでは副詞ではなくて、從屬的接續詞。2. über etwas [四] (od. in etwas [三]) übereinkommen 或事に於て一致する; wo は Heirat にかゝる。

der Geburt dieser Kinder übereingekommen waren, um ihre ansehnlichen Güter dadurch zu vereinigen. Ungeachtet³ diese Verbindung bloß das Werk der elterlichen Konvenienz war, und die Herzen beider Verlobten bei der Wahl nicht um Rat⁴ gefragt wurden, so hatten sie dieselbe doch stillschweigend schon gerechtfertigt. Jeronymo del M***nte und Antonie C***tti waren miteinander auferzogen worden, und der wenige Zwang, den man dem Umgang zweier Kinder auflegte, die man schon damals gewohnt war als ein Paar zu betrachten, hatte frühzeitig ein zärtliches Verständnis zwischen beiden entstehen lassen, das durch die Harmonie ihrer Charaktere noch mehr befestigt ward und sich in reifern Jahren leicht zur⁵ Liebe erhöhte. Eine vierjährige Entfernung hatte es⁶ vielmehr angefeuert als erkältet, und Jeronymo kehrte ebenso treu und ebenso feurig in die Arme seiner Braut zurück, als wenn er sich niemals daraus gerissen hätte.“

52. „Die Entzückungen des Wiedersehens waren noch nicht vorüber, und die Anstalten zur Vermählung wurden auf das lebhafteste¹

3. ungeachtet は普通は前置詞なれど、こゝでは從屬的接續詞として用ひられてゐる；=ungeachtet daß. 4. einen um Rat fragen 或人の意見を聞く。5. sich zur Liebe erhöhen 此 zu は結果をあらはす；高まつて Liebe さなる義。6. es = Ver-

が協定して置いたもので、彼等の大きな財産を、この結婚によつて一つにする爲めでありました。この結合は、單に兩親たちの便宜上の仕事に過ぎないのであり、双方の婚約者の心が、選擇の際に相談もうけた譯ではなかつたけれど、二人はこの結合を暗黙のうちに最早是認したのでありました。イエロニーモ・デル・ムーンテとアントーニエ・ツェテイとは、一緒に教育せられ、當時既に人々が夫婦として見做す習ひであつたところの此二人の子供の交際に加へた抑制が少なかつたので、それは早くも二人の間に情愛の籠つた交情を生じさせましたが、この交情は彼等の性格の調和によつて、なほ更ら強くされました、そして年頃になつては、たやすく戀に高まつて行きました。四年間の別れは、この交情を冷すよりはむしろ煽り立てました、そしてイエロニーモは決して彼れの許嫁の腕から離れたことはなかつたかのやうに、同じ誠實さを以て、また同じやうに愛に燃ゑて、その腕に歸つて來たのでした。』

五十二、再會のよろこびなほ未だ去らず、結婚の準備は、どしどしとなされて居たとき、花婿の姿が——消え去

ständnis. 7. daraus = aus den Armen seiner Braut; sich reißen 離れる。

52. 1. auf das lebhafteste 比較せざる副詞の最上級；最も活潑に、最も昌んに。

betrieben, als der Bräutigam — verschwand. Er pflegte öfters ganze Abende auf einem Landhause zuzubringen, das die Aussicht aufs Meer hatte, und sich da zuweilen mit einer Wasserfahrt zu vergnügen. Nach einem solchen Abende geschah es, daß er ungewöhnlich lange ausblieb. Man schickte Boten nach ihm aus, Fahrzeuge suchten ihn auf der See; niemand wollte² ihn gesehen haben. Von seinen Bedienten wurde keiner vermißt, daß³ ihn also keiner begleitet haben könnte. Es wurde Nacht, und er erschien nicht. Es wurde Morgen — es wurde Mittag und Abend, und noch kein Jeronymo. Schon fing man an, den schrecklichsten Mutmaßungen⁴ Raum zu geben, als die Nachricht einlief, ein algierischer Korsar⁵ habe vorigen Tages an dieser Küste gelandet, und verschiedene von den Einwohnern seien gefangen worden. Sogleich werden zwei Galeeren bemannt, die eben segelfertig liegen; der alte Marchese besteigt selbst die erste, entschlossen, seinen Sohn mit Gefahr seines eigenen Lebens zu befreien. Am dritten Morgen erblicken sie den Korsaren, vor⁶ welchem sie den Vorteil des Windes voraus haben; sie haben ihn bald erreicht, sie kommen

2. 此 wollen は「を稱する」「を主張する」也。3. 此 daß=so daß. 4. 最も恐ろしい推測を許容する。5. algierisch アルジェリアの; Korsar 海賊(船); 十八世紀に於ても、アフリカから海

つたのです。彼は屢海上への眺望を持つ或別荘で、夕方ちう暮したり、そこでまた時折りは、舟を漕いでたのしんだりする習ひでした、彼がいつになく長く歸つて来ないと云ふ事が、或かやうな夕方後に起つたのです。彼の跡をたづねて、使ひが派遣されました、船は海上で彼を探しました、だれも彼を見たと言ふ人はありませんでした、彼の従者の中で、だれも見失はれませんでしたから、誰れも彼れの伴をして行つた譯ではなかつたのです。夜になりました、彼は見えませんでした。朝となりました——午になり、夕方になりました、それでもなほイェローモは見えませんでした。アルヂェリアの海賊が、先日海岸に上陸して、住民のいくたりかをつかまへて連れ去つたと云ふ報告が到着した時に、人々は最早、最も恐るべき推測に餘地を與へ初めたのでした。丁度出帆の用意をして居たところの二艘の機走船は乗り込まれました、老侯爵は自分の生命の危険を以てしても、彼れの息子を救ひ出すべく決心して、第^二の機走船に塔乗したのです。三日目の朝、彼等は海賊船を見つけました、彼等は海賊船よりも風の便宜を持つてゐました、彼等は間もなくこれに追ひ着いて、先き賊船が、地中海の北岸の基督教國をあらし、男女を捕獲して、つれて行つて奴隷とした。6. etwas vor einem voraus haben 或人よりも或優勝さを持つ、或事に於て或人よりも有利な地位に居る。

ihm so nahe, daß Lorenzo, der sich auf der ersten Galeere befindet, das Zeichen seines Bruders auf dem feindlichen Verdeck zu erkennen glaubt, als plötzlich ein Sturm sie wieder voneinander trennt. Mit Mühe stehen ihn die beschädigten Schiffe aus; aber die Prise⁷ ist verschwunden, und die Not zwingt sie auf Malta zu landen. Der Schmerz der Familie ist ohne Grenzen; trostlos rauft sich⁸ der alte Marchese die eisgrauen Haare aus, man fürchtet für das Leben der jungen Gräfin.“

53. „Fünf Jahre gehen in fruchtlosen Erkundigungen hin. Nachfragen geschehen längs der ganzen barbarischen¹ Küste; ungeheure Preise werden für die Freiheit des jungen Marchese geboten; aber niemand meldet sich, sie zu verdienen. Endlich blieb es bei der wahrscheinlichen Vermutung, daß jener Sturm, welcher beide Fahrzeuge trennte, das Räuberschiff zu Grunde² gerichtet habe,³ und daß seine ganze Mannschaft in den Fluten umgekommen sei.“⁴

„So scheinbar¹ diese Vermutung war, so fehlte

7. Prise は本来は、海上での鹵獲船である。8. 此 sich は三格; sich die Haare ausraufen とつゞく、自分の頭髮をむしる。
9. für etwas fürchten 或ものを氣遣ふ。

53. 1. barbarisch とは、元來は希臘以外のもの、次には羅馬帝國以外のもの、この次には基督教國以外のものを指すに用ゐた詞であるが、こゝではアフリカの北海岸 Marokko, Algier, Tunis

の機走船に乗つて居たロレンツォは、敵船の甲板の上で、彼れの兄弟の合圖を認めたと信するほどに、それに近づきました。その時突然嵐が、彼等をわかれわかれに離しました。破損した船は辛うじて嵐を切抜けました、しかし鹵獲しやうとした船は、姿をかくしました、そして困苦は、マルタ島に上陸すべく彼等を餘儀なくしました。家族の悲しみは限りないものでした、絶望して老侯爵は、白髪をむしりました、人々は若い伯爵令嬢の生命をきづかひました。』

五十三、『五年間は無駄な探索のうちに、過ぎ去りました。蠻國の海岸全體に沿うて搜索されました。巨額の代金が若い侯爵の自由に對して申し出されました。然し何人もそれを得べく申し出でませんでした。到頭それは、二つの船を別けた。あの嵐が、海賊船を沈め、その全乗組員は、波浪の中で死んだと云ふ本當らしい推測でとゞまりました。』

『この推測は非常にまことらしくはありましたが、確實に Toripolis 等を指して居る。2. etwas zu Grunde richten 或ものを破毀する、或ものを打沈める。3. habe, sei は勿論 Konjunktiv; 動詞 vermuten, 名詞 Vermutung に關係する副文章には、Konjunktiv を使用する。4. scheinbar = wahrscheinlich; so の次に形容詞又は副詞をつけ、其文中に auch を入れ、又は入れずして、説容文章をつくることについては、既に述べた。

ihr⁵ doch noch viel zur⁵ Gewißheit, und nichts⁶ berechnete, die Hoffnung ganz aufzugeben, daß der Verlorne nicht⁷ einmal wieder sichtbar werden könnte. Aber gesetzt⁸ nun, er würde es⁹ nicht mehr, so erlosch⁹ mit ihm zugleich die Familie, oder der zweite Bruder mußte dem geistlichen Stande entsagen¹⁰ und in die Rechte des Erstgeborenen eintreten. So gewagt¹¹ dieser Schritt und so ungerecht es an sich selbst war, diesen möglicherweise noch lebenden Bruder aus dem Besitz seiner natürlichen Rechte zu verdrängen, so glaubte man einer so entfernten Möglichkeit wegen, das Schicksal eines alten glänzenden Stammes, der ohne diese Einrichtung erlosch, nicht aufs Spiel¹² setzen zu dürfen. Gram und Alter näherten den alten Marchese dem Grabe; mit jedem neu¹³ vereitelten Versuch sank die Hoffnung, den Verschwundenen wieder zu finden; er sah den Untergang seines Hauses,

5. ihr に Vermutung に關係し、三格である; 確實たるには (zu), なほ多くの事項が、此 Vermutung に缺如して居た。6. nichts が主語である; Hoffnung, daß さかゝる。7. 否定的の主文に關係する副文には、往々不用の nicht が用ゐらるることがある; (例) Ich werde keine andere Arbeit beginnen, bis ich [nicht] diese beendet habe. 此仕事を私が終つて仕舞うまでは、私はどんな別な仕事も初めないでせう; 本文中の nicht も勿論不用である。8. setzen 假定する; もし次の事が假定されるならば、の意味の副文の略; 此 nun は、諸種の副文中に用ゐらるの nun で、前の文章の意味をうけ、次の文章を起すに用ゐ

なるのには、しかしなほ多くの不足がありました、そして何事も、この失はれた人が、もう一度あらはれるかも知れないと云ふ期望をすてることを是認しませんでした。しかし彼がもはやあらはれないと假定するなら、彼れと一緒に家門も同時に消滅するか、でなければ弟が僧侶の身分をすてて、長子の権利を踏襲しなければならなかつたのです。この段取りは甚だ冒険的であり、そしてこの或はなほ生きて居るかも知れない兄を、その自然的な権利の所有から押し退ける事は、それ自身に於て甚だ不正ではあつたけれど、人々はかくも微かな可能性のために、このやりくりをしないでは消えて仕舞う古來の名門の運命を賭するのは、よくないと考へました。悲哀と老齡とが、この老侯爵を墳墓に近づけました。新らたに不成功に終る試みの度毎に、消え失せた人を再び見出すといふ期望は、なくなるのでありました。老人は彼の家門の没落を目撃しました。それは僅かな不正事によつて防ぎと

らる。9. es=sichtbar; erlosch は、「確實なる結果」を云ひあらはすに使用せられた Indikativ で、普通ならば此場合 erlösche なる Konjunktiv を使用する。10. カトリックでは僧職に居る人は、獨身でなければならぬ。11. gewagt 過去分詞は形容詞又は副詞として用ゐられる; so の次に置かれたる形容詞又は副詞については、本章註 4 を見よ。12. aufs Spiel setzen 賭する; dürfen 云々してよろしい・差支へない。13. 此 neu は副詞で、vereitelten にかゝる、vereiteln 挫折せしめる; 無効に歸せしむる。

der durch eine kleine Ungerechtigkeit zu verhüten war, wenn er sich nämlich nur entschließen wollte, den jüngern Bruder auf¹⁴ Unkosten des ältern zu begünstigen. Um seine Verbindungen mit dem gräflichen Hause von C***tti zu erfüllen, brauchte nur ein Name geändert zu werden; der Zweck beider Familien war auf gleiche Art erreicht, Gräfin Antonie¹⁵ mochte nun Lorenzoz oder Jeronymos Gattin heißen. Die schwache Möglichkeit einer Wiederescheinung des letztern kam gegen das gewisse und dringende Übel, den gänzlichen Untergang der Familie, in keine¹⁶ Betrachtung, und der alte Marchese, der die Annäherung des Todes mit jedem Tage stärker fühlte, wünschte mit Ungeduld, von dieser Unruhe wenigstens frei zu sterben.“

54. „Wer diesen Schritt allein¹ verzögerte und am hartnäckigsten bekämpfte, war derjenige der das meiste dabei gewann² — Lorenzo. Ungerührt von dem Reiz unermesslicher Güter, unempfindlich selbst gegen den Besitz des lebenswürdigsten Geschöpfes, das seinen Armen überliefert werden sollte, weigerte er sich mit

14. auf Unkosten 犠牲として。 15. =ob Gräfin Antonie nun Lorenzos oder Jeronymos Gattin heißen mochte; 他の例; Mag er nun kommen oder nicht. (=ob er nun kommen mag oder nicht) 彼が来ようぞ来まいぞ。 16. in keine Betrachtung

とめられるのでした、即ち彼が、兄を犠牲として弟に恵みを得るべく決心さへしやうと思ふなら、(それは防ぎととめられるのでした。) ツェティ伯爵家と彼れの家との結合を成就するがためには、只一つの名前が変更されることだけが必要でした。伯爵令嬢がロレンツォの夫人と稱しやうと、或はイェロニーモの夫人と稱しやうと、兩家族の目的は同じやうに達せられるのでした。イェロニーモが再びあらはれると云ふ事の薄弱な可能性は、家門の滅亡と云ふ確實な・そして焦眉の急にせまつた禍に比べると、問題になりませんでした。そして、日一日と死の近づいて来る事を益強く感じたところの老侯爵は、この不安から少くとも脱して死なうと、焦慮しつゝ冀つて居たのであります。』

五十四、只一人この段取りをためらつて、最も頑強にこれに反対したのは、この場合最も多くの利益を得る當人——即ちロレンツォでした。莫大の財産の魅惑にも動かされず、彼の腕に渡さるべき最も美しい人を所有することに對してすら冷淡であつて、恐らくなほ生存して居り、自分の財産の返還を要求するかも知れざる兄弟の

kommen (=nicht in Betracht kommen 問題にならぬ。

54. 1. allein (は wer に關聯する。 2. gewann=gewinnen sollte (得べき筈になつてゐた); この Indikativ の意味については、53 [註] 6. を見よ。

der edelmütigsten Gewissenhaftigkeit, einen Bruder zu³ berauben, der vielleicht noch am Leben wäre⁴ und sein Eigentum zurückfordern könnte.⁴ „Ist das Schicksal meines teuern Jeronimo“, sagte er, „durch diese lange Gefangenschaft nicht schon schrecklich genug, daß⁵ ich es noch durch einen Diebstahl verbittern sollte, der ihn⁶ um alles bringt, was ihm das Teuerste war? Mit welchem Herzen würde ich den Himmel um⁷ seine Wiederkunft anflehen, wenn sein Weib in meinen Armen liegt? Mit welcher Stirne ihm, wenn endlich ein Wunder ihn zurückbringt, entgegenzueilen?“⁸ Und gesetzt, er ist uns auf ewig entrissen, wodurch können wir sein Andenken besser ehren, als⁹ wenn wir die Lücke ewig unausgefüllt lassen, die sein Tod in unsern Zirkel gerissen hat? Als⁹ wenn wir alle unsere Hoffnungen¹⁰ auf seinem Grabe opfern und das, was sein war, gleich¹¹ einem Heiligtum unberührt lassen?“

55. Aber alle Gründe, welche die brüderliche

3. berauben (は人の四格・物の二格を取る; einen eines Dinges berauben 或人の或ものを奪う。4. wäre, könnte は、「彼の意見によるさ」の意味で、話者即ちシシリア人の意見をあらはす Konjunktiv ではない。5. 此 daß は genug にかゝる; 直譯: 私が一の泥棒行爲によつて、兄の運命 (es) を verbittern するであらう (sollte) には (daß), 十分 (genug) 恐るべきもので云々; 他の例: Du bist alt genug, daß du das verstehst. お前がそれを理解するには (daß), お前は十分年を取つてゐる (=Du bist

所有物を奪ひ去る事をば、彼は最も氣高い清廉さを以て拒絶したのです。「私の親愛なイエロニーモの運命は、」と彼は云ひました。「この長い間の囚はれによつて、もう充分に恐ろしいものではないでせうか? それなのに私は、彼によつて最も大切なすべてのものを奪ひ去るところの窃盜行爲によつて、彼の運命を、なほ不快なものになすべきでせうか? 彼れの妻が私の腕に抱かれて居るなら、私はどんな心を以て、彼の歸來を、神に祈るでありませうか? 到頭或奇蹟が(あらはれて)彼を歸してよこしたときに、私はどんな顔を以て、彼をいそぎ迎へませう? そして彼がわれらから永遠にうばひ去られたものとするなら、彼れの死がわれらのまどみのうちに開けた罅隙を、その儘埋めないで残して置くよりも、もつとよく、如何なる方法によつて、彼れの追憶を尊ぶことが出来ませうか? われらがわれらのすべての期望を、彼の墳墓の上に捧げ、彼れの所有であつたものは、聖物のやうに、手をふれないで、そのまゝにして置くより外に、(如何なる方法によつて、よりよく彼の追憶を尊ぶことが出来ませうか)?

五十五、然しこの同胞のやさしい情愛が、見つけ出し

alt genug, das zu verstehen; 上の譯文は、これを意譯したものである。6. einen um etwas bringen 或人の或ものを奪う。7. einen um etwas anflehen 或人に或事を懇願する。8. einem entgegenzueilen いそいで或人を出迎へる。9. 此二つの als は「よりも」の意味で、besser にかゝる。10. われらのすべての期望を、彼の死のために、犠牲にする。11. gleich は三格を要求する; 聖物の如くに。

Delikatesse¹ ausfand, waren nicht vermögend, den alten Marchese mit der Idee auszusöhnen, einen Stamm erlöschen zu sehen, der Jahrhunderte geblüht hatte. Alles, was Lorenzo ihm abgewann, war noch eine Frist von zwei Jahren, ehe er die Braut seines Bruders zum Altar führte.² Während dieses Zeitraums wurde die Nachforschungen aufs eifrigste fortgesetzt. Lorenzo selbst tat verschiedene Seereisen, setzte seine Person manchen Gefahren aus; keine Mühe, keine Kosten wurden gespart, den Verschwundenen wieder zu finden. Aber auch diese zwei Jahre verstrichen fruchtlos, wie alle vorigen.³

„Und Gräfin Antonie?“ fragte der Prinz. „Von ihrem Zustande sagen Sie uns nichts. Sollte⁴ sie sich so gelassen in ihr Schicksal ergeben⁵ haben? Ich kann es nicht glauben.“

„Antoniens Zustand war der schrecklichste Kampf zwischen Pflicht und Leidenschaft, Abneigung und Bewunderung. Die uneigennützigste Großmut der brüderlichen Liebe rührte sie; sie fühlte sich hingerissen, den Mann zu verehren, den sie nimmermehr lieben konnte; zerrissen von widersprechenden Gefühlen blutete ihr Herz. Aber ihr Wider-

55. 1. Delikatesse = Zartgefühl やさしい心。 2. 此 führte は Indikativ ではない; = führen würde。 3. alle vorigen の次に Jahre の略されてあることを、云ふまでもない。 4. sollte

た。すべての理由は、幾百年か榮えた血統の消滅を目堵するといふ考へと、老侯爵とを妥協させる力を持つてゐなかつたのです。ロレンツォが彼から贏ち得たすべてのものは、彼れの兄の花嫁を祭壇に導く前に、なほ二ヶ年の期限を許されただけであつたりまし。この期限の間に、搜索は最も熱心に續けられました。ロレンツォ自身が、いろいろの航海をなしました、自分の身を多くの危険にさらしました、いかなる辛勞も、いかなる費用も、姿を消した人を見つけ出すためには、惜しまれませんでした。然しこの二年間も、すべてこれまでのいく年かのやうに、効果なくして過ぎ去りました。』

『而して伯爵令嬢アントーニエは?』と公子は訊ねた。『彼女の状態については、あなたは何にもわれわれに話しません。彼女がそんなにちつと、自分の運命に身をまかせて居たのでせうか? 私には信じられません。』

『アントーニエの状態は、義務と情熱、嫌悪と嘆美との間の最恐ろしい戦でありました。同胞的の情愛の非利己的な雅量が、彼女を感動させました、彼女は自分が決して愛する事の出来ない男を尊敬するやうに、心が引かれるのを感じました、矛盾する感情に引きさかれて、彼女の心は血みどろになりました。然し此騎士に對する彼女の嫌悪は Konjunktiv で、疑惑・怪訝をあらはす: Sollte er das getan haben? 彼がそれをしたのだらうか? (さうはうけ取れないが)。 5. sich in etwas [四] ergeben 或ここに身をまかせる。

wille gegen den Chevalier schien in eben dem Grade zu wachsen, wie⁶ sich seine Ansprüche⁷ auf ihre Achtung vermehrten. Mit tiefem Leiden bemerkte er den stillen Gram, der ihre Jugend verzehrte. Ein zärtliches Mitleid trat unvermerkt an die Stelle der Gleichgültigkeit, mit der er sie bisher betrachtet hatte; aber diese verräterische Empfindung hinterging ihn, und eine wütende Leidenschaft fing an, ihm die Ausübung einer Tugend zu erschweren, die bis jetzt jeder Versuchung überlegen⁸ geblieben war. Doch selbst noch auf Unkosten seines Herzens gab er den Eingebungen seines Edelmut's Gehör⁹; er allein war es, der das unglückliche Opfer gegen die Willkür der Familie in Schutz¹⁰ nahm. Aber alle seine Bemühungen mißlangen; jeder Sieg, den er über¹¹ seine Leidenschaft davon trug, zeigte ihn ihrer nur um¹² so würdiger, und die Großmut, mit der er sie¹³ ausschlug, diente nur dazu, ihrer¹⁴ Widersetzlichkeit jede Entschuldigung zu rauben.“

56 „So standen die Sachen, als der Chevalier mich beredete, ihn auf¹ seinem Landgute

6. wie (やうに) は eben (丁度) と相對す。7. 彼が彼女の尊敬を、故意に要求するさ云ふ意味ではない、たのづか彼女の尊敬をよびおこすやうな行爲をする事を指す; Anspruch auf etwas [四] 或ものに對する要求; sich vermehren 増加する。8. etwas [三] überlegen bleiben 或ものに打克つてゐる; überlegen は三格を取る。9. etwas [三] Gehör geben 或ものに聽

は、彼女の尊敬を彼が呼び起すことが多くなればなるほど、それに比例して増大して行くやうに見えた。深い苦しみをもて、彼は彼女の青春を蝕する内心の悲しみを眺めました。これまで彼が彼女をながめて居た冷淡な態度の代りに、知らず知らずのうちに、やさしい同情があらはれて來ました。しかしこの裏切者的の感じは、彼を救きました。そして荒れ狂ふ情熱が、これまであらゆる誘惑にうちかつてゐた徳の實行を、彼に困難ならしめ初めたのでした。しかし彼の感情を犠牲にしてすらも、彼は自らの義氣の教へに従つたのでありました。彼のみが、家族の我儘に對して、この不幸なる犠牲を保護した人でありました。然し凡べての彼の努力は、徒勞に歸しました。彼が彼れの激情に對して勝利を得るたびごとに、彼れはたゞますます彼女にふさはしく見えるだけでした。そしてそれによつて、彼が彼の激情を打ちやぶつたところの義氣は、彼女の反對から、あらゆる口實を奪ひ去ることに役立つばかりでありました。

五十六、騎士が、彼をその別荘に訪問するやうに私を説き伏せたとき、事情は今述べたやうになつて従する。10. etwas gegen etwas in Schutz nehmen 或ものを或ものに對して保護する。11. Sieg über etwas [四] davon tragen 或ものに打勝つ; davon tragen で「得る」意味。12. um so の次に比較級をつけるさ、「いよいよ云々」を意味する。13. sie=seine Leidenschaft. 14. einem etwas rauben 或人から或ものを奪ひ取る。53. 1. auf に於て。

zu besuchen. Die warme Empfehlung meines Gönners bereitete mir da einen Empfang, der alle meine Wünsche übertraf. Ich darf nicht vergessen, hier noch anzuführen, daß es mir durch einige merkwürdige Operationen gelungen war, meinen Namen unter den dortigen² Logen berühmt zu machen, welches vielleicht dazu⁴ beitragen mochte, das Vertrauen des alten Marchese zu vermehren und seine Erwartungen von mir zu erhöhen. Wie weit ich es⁵ mit ihm gebracht, und welche Wege ich dabei gegangen, erlassen Sie mir zu erzählen; aus den Gestandnissen, die ich Ihnen bereits getan, können Sie auf alles übrige schließen.⁶ Da ich mir alle mystischen Bücher zunutze⁷ machte, die sich in der sehr ansehnlichen Bibliothek des Marchese befanden, so gelang es mir bald, in seiner Sprache⁸ mit ihm zu reden und mein System von der unsichtbaren Welt mit seinen eigenen Meinungen in Übereinstimmung zu bringen. In kurzem glaubte er, was ich wollte, und hätte ebenso zuversichtlich auf die Begattungen⁹ der

2. Operation = besondere Schritte (特別の方策) od. politische Taktik (政策的の戦術)。3. Logen (はロージエンと讀む; 共濟會 (Freimauerei) の支部又は集合所; Freimauerei とは互助共濟を目的とせる一秘密結者にして、十四世紀頃に起りしもの ([英] freemason) 4. zu etwas beitragen 或事に貢献する; 此 dazu は次の zu と關聯する。5. es weit bringen 成功する; mit ihm 彼に關して。6. etwas aus etwas

居たのです。私の愛護者の温かい推薦は、すべての私の願望にも立ちまさつた待遇を、そこで私に與へたのであります。私はここで、なほ次の事を付け加へるのを忘れてはならないのです。それは私が、二三の目立つた手だてによつて、私の名前をその集會所間に、名高くすべく成功した事です。多分この事が、老侯の信用を増し、私に就いての彼れの期待を高めることに貢献したらしかつたのです。彼れに關してどれほどまで、私が成功したか、又その際私がどんな途を行つたかといふ事について、私が御話するのは、御免下さい。既にあなた方に致しました私の告白から、あなた方はすべての他の事を、推定なさる事が出来ます。侯爵の甚だ豊富な書庫のうちに存在したすべての神秘的な書物を利用しましたので、私は間もなく、彼の言葉で彼れと談り、見えない世界についての私の體系を、彼れ自身の意見と一致させることに成功しました。僅かのうちに、彼は私の欲した事を信じました、そして經典の一條を信奉するやうに、彼はまた哲人と火の女神・風の女神との交接をも、同じやうに schließen 或事から或事を推定する。7. zunutze machen 利用する。8. 神秘教の言葉でもつて。9. 哲人(魔法師の義)が四大(火・水・風・土)の靈と交接したと云ふ説は、フランスの Montfaucon de Villars (1635—1673) が、其著 “Le comte de Gabalis” (1670) に於て述べた。この書の獨譯は、1782 Berlin で、„Graf von Gabalis“ 一名 „Gespräche über die verborgenen Wissenschaften“ と云ふ名前で發行された。

Philosophen mit Salamandrinnen und Sylphiden,¹⁰ als auf¹¹ einen Artikel des Kanons geschworen. - Da er überdies sehr religiös war und seine Anlage zum Glauben in dieser Schule zu einem hohen Grade ausgebildet hatte, so fanden meine Märchen bei ihm desto leichter Eingang, und zuletzt hatte ich ihn mit Mystizität¹² so umstrickt und umwunden, daß nichts mehr bei ihm Kredit hatte, sobald es natürlich war. In kurzem war ich der angebetete Apostel des Hauses. Der gewöhnliche Inhalt meiner Vorlesungen war die Exaltation der menschlichen Natur und der Umgang mit höhern Wesen, mein Gewährsmann der untrügliche Graf von Gabalis.¹³ Die junge Gräfin, die seit dem Verlust ihres Geliebten ohnehin mehr in der Geisterwelt als in der wirklichen lebte und durch den schwärmerischen Flug ihrer Phantasie mit leidenschaftlichem Interesse zu Gegenständen dieser Gattung hingezogen ward, fing meine hingeworfenen Winke mit schauerndem¹⁴ Wohlbehagen auf; ja sogar die Bedienten des Hauses

10. Salamandrinnen 是は火の女神; Sylphiden 是は空氣の女神である; 前者の單數は、die Salamandrin, 後者のそれは、Syphide である。11. auf etwas schwören 或事を絶對的に信ずる; この hätte は、若し説ききかしたら、云々の事すら信じたらうの義。12 佛語の mysticité より來る; = Mystizismus. 13.

堅く信じましたらう。其上彼れは甚しく宗教的であり、信仰への天賦をこの教派に於て、高い程度まで磨き上げて置きましたので、私の作話は、彼れの心に愈々たやすく入り込むことが出来たのでした。そして仕舞ひには、物事が自然的であるや否や、最早彼れに信用されなかつた程に、私は彼を神秘觀で取り巻き・捲き込んだのでした。間もなく、私はこの家の崇拜されたる使徒でありました。私の講義の通常の内容は、人間の天性を高めること、及びより高いものとの交通でありました、私の説の保證人は、最も信憑すべきド・ガバリー伯でした。愛人が居なくなつてから、さなきだに、現實の世界よりも、より多く靈界のうちに生活して、その空想の狂妄的な翱翔によつて、激情的な興味を以て、この種の事物に引きつけられてゐたところの伯爵令嬢は、おそろしい喜びを以て、私の一寸與へたた唆示をうけ取つたのでした。この家の召使たちすらも、私

Graf von Gabalis については〔註〕9を見よ; untrüglich 絶對に信憑すべき、的確なる; こゝでは、自分の説の典據となつたもの、或は自分の説を立証するものは、Graf von Gabalis と云ふ書物であつたの義。14. schauernd=schrecklich, aber schön 恐ろしいが、しかし美しい; hingeworfen 一寸與へた、軽く與へた。

suchten sich¹⁵ im Zimmer zu tun zu machen, wenn¹⁶ ich redete,¹⁷ um hier und da eins meiner Worte aufzuhaschen, welche¹⁸ Bruchstücke sie alsdann nach ihrer Art aneinander reihten.“

57. „Ungefähr zwei Monate mochte ich so auf diesem Rittersitze zugebracht haben, als eines Morgens der Chevalier auf¹ mein Zimmer trat. Tiefer Gram malte auf seinem Gesichte, alle seine Züge² waren zerstört, er warf sich in einen Stuhl mit allen Gebärden der Verzweiflung.

„Kapitän³ sagte er, „mit⁴ mir ist es vorbei. Ich muß fort.⁵ Ich kann es⁶ nicht länger hier aushalten.“

„Was⁷ ist Ihnen, Chevalier? Was haben Sie?“

„O diese fürchterliche Leidenschaft!“ (Hier fuhr er mit Heftigkeit von dem Stuhle auf und warf sich in meine Arme.) — „Ich habe sie bekämpft wie ein Mann, — Jetzt kann ich nicht mehr.“

„Aber an⁸ wem liegt es denn, liebster Freund,

15. sich zu tun machen わが身を勞する、仕事をする、用をする。 16. wenn が過去の時稱に關するときは、「たび毎に」の意。 17. 此 um.....zu (aufzuhaschen) は、suchten sich.....zu machen にかゝるもので、wenn ich redete にはかゝらない。 18. 「その斷片を」の義で四格、reihen の Objekt である。

57. 1. 此 auf=in. 2. 目・鼻・口などの有様；概括して「顔つき」。 3. シシリア人は、軍服をつけて居て、自ら Kapitän だと稱したのは、16 にある。 4. 私に關しては (mit), 事 (es)

が話した折りには、部屋のなかで仕事をなすべく求めたのです。それは、こゝそこで私の言葉の一つを捉へて来て、それから其斷片を、彼等が自分たちの方法でもつて、ならべ綴る爲でありました。!

五十七、『或朝のこと、騎士(ロレンツォ)が私の部屋に入つて來ましたが、それは私が今云つたやうな具合で、約二ヶ月ほど、この騎士莊園で暮らした後であつたやうです。深い悲嘆が彼れの顔の上にはあらはれて居ました、彼の顔容はすっかりかき亂されてゐました、彼は絶望の態度で、椅子の上に身を投げました。

「大尉」と彼は云ひました、「私はもう駄目です、立ちのかなければなりません、私は最早我慢する事は出来ない。」

「どうなすつたのですか、騎士殿? 何事なのです?」

「あゝこのおそろしい情熱! (かう云つて彼は、激しく椅子から立ち上つて、私の腕のうちに身を投げました) —

—「私は男らしく、この情熱に抵抗して來ました。— 今では私にはもう出来ません」

「然しそれは貴君より以外に、だれのせいでせう、愛すは終つてゐる ([英] It is all over with me.) 5. fort=fort gehen. 6. 不定の Objekt をあらはす es; es nicht aushalten können 我慢が出来ない。 7. Was ist Ihnen? も Was haben Sie? も「あなたどうしたのです?」の意、[英] What is the matter with you? What ails you? 8. an wem.....an Ihnen? 意譯; あなたのせいでなくて、だれのせいでせう; denn 疑問文章中に用ゐらるる denn 「一體」; 單に疑問の意を強める副詞。

als an Ihnen? Steht nicht alles in Ihrer Gewalt? Vater, Familie —

„Vater! Familie! Was ist mir das? — Will ich eine erzwungene Hand⁹ oder eine freiwillige Reigung? — Hab' ich nicht einen Nebenbuhler? — Ach! und welchen?¹⁰ Einen Nebenbuhler vielleicht unter den Toten? O, lassen Sie mich!¹¹ lassen Sie mich! Lassen Sie mich! Ging¹² es auch bis ans Ende der Welt. Ich muß meinen Bruder finden.“

„Wie? Nach so viel fehlgeschlagenen Versuchen, können Sie noch Hoffnung —“

58. „Hoffnung! — In meinem Herzen starb sie längst. Aber auch in jenem?¹ — Was liegt daran,² ob ich hoffe? — Bin ich glücklich, solange noch ein Schimmer dieser Hoffnung in Antoniens Herzen glimmt? — Zwei Worte, Freund, könnten meine Marter enden. — Aber umsonst! Mein Schicksal wird elend bleiben, bis die Ewigkeit ihr langes Schweigen bricht und Gräber für³ mich zeugen.“

„Ist es⁴ diese Gewißheit also, die Sie glücklich machen kann?“

9. Hand は結婚の意味。10. welchen=welch einen? 11. O, lassen Sie mich の次に gehen を補ふ; 私の行くまゝにして置いて、かまはないで呉れの義。12. Wenn es auch bis ans Ende der Welt ginge の wenn を略せるもの; wenn auch たゞへ云々でも; es は暗に話者 指して居る。

る友よ? 萬事はあなたの力の裡に存するではありませんか? 父上、家族——」

「父上! 家族! それは私にとつて何ですか? — 私は強制された結婚と、自由意志に依る愛情と、どちらを欲するのでせうか? — 私は 愛の競争者を持つて居ないでせうか? — 嗚呼! そしてどんな競争者でせう? 多分は死人の間に、競争者を持つて居るのでせうか? まあ行かせて、私に行かせて下さい! たゞへ世界のはてまで行かうと、私は私の兄を見つけ出さなければなりません。」

「なんですつて? あんなに澤山しくちつた試みのあとで、あなたはなほ期望を——」

五十八、「期望を! — 私の心のなかでは、期望はとつくの昔死んで仕舞ひました。しかしあの人の心のなかでもさうでせうか? 私が希望するか、どうかといふ事に、何の重要さがありませう? — この期望の微光でも、なほアントーニエの心の中にきらめいて居る間は、私は幸福でせうか? — 友よ、二つの言葉が、私の苦痛を終らせる事が出来ませう。——しかし無駄です。私の運命は、永遠がその長い沈黙を破つて、墳墓が私のために證明して呉れるまでは、憫むべきものでとゞまつて居ませう。」

「あなたを幸福にする事の出来るのは、それではこの確かめがありますか?」

58. 1. in jenem 彼女の心のうちに於て。2. Was liegt daran? それが大局にどんな関係があるか; それがどんな重大さを持つてゐるか? 3. für einen zeugen 或人の利益になるやうに証言する。4. 譯すときには、此 es は die Sie云々の關係文章に關係せしめて考へる。

„Glücklich? O, ich zweifle, ob ich es je wieder sein kann! Aber Ungewißheit ist die schrecklichste Verdammnis!“ (Nach einigem Stillschweigen mäßigte er sich und fuhr mit Wehmut fort.) „Daß er meine Leiden sähe!⁵ — Kann sie⁶ ihn glücklich machen, diese Treue, die das Elend seines Bruders macht? Soll ein Lebendiger eines Toten wegen schmachten, der nicht mehr genießen kann? — Wüßte⁷ er meine Qual —“ (hier fing er an, heftig zu weinen, und drückte sein Gesicht auf meine Brust) „vielleicht — ja vielleicht würde er sie selbst in meine Arme führen.“

„Aber sollte dieser Wunsch so ganz unerfüllbar sein?“

„Freund! Was sagen Sie?“ — Er sah mich erschrocken an.

„Weit geringere Anlässe,⁸“ fuhr ich fort, „haben die Abgeschiedenen in das Schicksal der Lebenden verflochten. Sollte das ganze zeitliche Glück eines Menschen — eines Bruders —“

„Das ganze zeitliche Glück! O, das fühl' ich! Wie wahr haben Sie gesagt! Meine ganze Glückseligkeit!“

„Und die Ruhe einer trauernden Familie keine

5. sähe (は願望をあらはす Konjunktiv; (例) Wäre er doch gesund = Daß er doch gesund wäre! 彼が丈夫であれば (よいがなあ)! 6. sie = 次に来る diese Treue. 7. = Wenn er

「幸福にですか? あゝ、私はいつの日かまた幸福であり得るか・どうかを疑ひます。然し不確實で居る事は、最も怖ろしい活しみです! (暫らく沈黙した後に、彼は自らを制して、悲しげに續けました。) 兄が私のなやみを見て居ますなら! 自分の弟の不幸を醸す此貞操が、彼自身を仕合にする事が出来ませうか? 生きて居る人が、最早たのしむ事の出来ない死者のために、飢ゑ・こがるべきでせうか? — 兄が私の苦しみを知つてゐるなら —」(此時彼は激しく泣き初めた、そして彼の顔を、私の胸の上に押しつけた)「恐らく — ほんとに恐らく兄は、彼の女を自分で私の腕に導いて来るでせう。」

「然しこの願ひは、左様に全然満され難きものでなければならぬでせうか?」

「友よ! あなたは何を云ふのですか?」 — 彼はおどろいて私を眺めました。

「ずつと輕微な動因が、」と私は話しつゞけました、「故人たちを、生ける人々の運命に關與させた事がありました、一人の人の — 一人の兄弟のこの世の全幸福が —」

「この世の全幸福が! おゝ、それを私は感じます! なんて眞實の事を、あなたは云はれたでせう! 私の全幸福が!」

「並びに悲める家族の安堵が、目に見えない(形而上 meine Qual wüßte. 8. もつと輕い理由からでも故人の靈を、この世の事に關係させたことがあるの義。

rechtmäßige Veranlassung sein,⁹ die unsichtbaren Mächte zum¹⁰ Beistand aufzufordern? Gewiß! wenn je¹¹ eine irdische Angelegenheit dazu berechtigen kann, die Ruhe der¹² Seligen zu stören — von¹³ einer Gewalt Gebrauch zu machen —

„Um¹⁴ Gottes willen, Freund!“ unterbrach er mich, „nichts mehr davon. Ehmals wohl,¹⁵ ich gesteh' es, hegte ich einen solchen Gedanken — mir¹⁶ deucht, ich sagte Ihnen davon — aber¹⁵ ich hab' ihn längst als ruchlos und abscheulich verworfen.“

59. Sie sehen nun schon,“ fuhr der Sizilianer fort, „wohin uns dieses führte. Ich bemühte mich, die Bedenklichkeiten des Ritters zu zerstreuen, welches¹ mir endlich auch gelang. Es ward beschlossen, den Geist des Verstorbenen zu zitieren, wobei ich mir nur vierzehn Tage Frist ausbedingte, um mich, wie ich vorgab, würdig darauf² vorzubereiten. Nachdem dieser Zeitraum verstrichen und meine Maschinen gehörig gerichtet waren, benutzte ich einen schauer-

9. sein と關聯する定動詞は、das ganze zeitliche Glück の前の sollet なることを忘れてはならぬ。10. einen zu etwas auffordern 或人に或事をなすべく要求する。11. wenn je 若しかりそめにも、若し荷も……するならば。12. der Selige 死せる人(男)、die Selige 死せる人(女) die Seligen 死せる人々。13. von etwas Gebrauch machen 或ものを使用する。14. um Gottes willen どうぞ後生だから、お願いだから。15. wohl は

の) 力に援助を求める何等 正當な理由でもないものでせうか? ほんとうにです! 若しかりそめにも、或地上の事件が、故人たちの安靜を亂すべき——或力を使用すべき正當な理由を與へるならば——」

「どうぞ、友よ!」と彼は私の言葉を遮りました。「其事については、なんにも云はないで下さい。成程、以前には——私は自白しますが——私は そんな考へを懐いて居ました——私はこの事に就いて、あなたに云つたやうに思はれますが——しかし私はこれを不埒なそして忌はしい事として、すつと前に、投げ棄てて仕舞ひました。」

五十九、あなたがたは今や既に、』とシツリア人は話しつゞけた、『これがどこへわれらを導いたかと云ふ事について、御解りになつたでせう。私は騎士の躊躇を取り除くべく努力しました、そしてそれはまた到頭私に成功しました。故人の靈を招くやうに決定されました、その際に私はたゞ十四日丈の猶豫期間を約定しました、これは私の口實によると、それに對して、ふさはしく準備するためでありました。この期間が過ぎ去つて、私の器械が適當に調へられた度に、私は家族からそれに對する同意 aber と相呼應する; 成程云々だが、……然し。16 mir deucht 云々私には思はれる。

59. 1. 此 welches は前行文章の意味を受ける; こゝでは die Bedenklichkeiten des Ritters zu zerstreuen である。2. auf etwas vorbereiten 或こゝの準備をする; こゝで或事とは「故人の靈を呼び出す」こと。

lichen Abend, wo³ die Familie auf die gewöhnliche Art um mich versammelt war, ihr⁴ die Einwilligung dazu abzulocken, oder sie⁵ vielmehr unvermerkt dahin⁶ zu leiten, daß sie selbst diese Bitte an mich tat. Den schwersten Stand hatte man bei⁷ der jungen Gräfin, deren Gegenwart doch so wesentlich war; aber hier kam uns der schwärmerische Flug ihrer Leidenschaft zu⁸ Hilfe, und vielleicht mehr noch ein schwacher Schimmer von Hoffnung, daß der Totgegläubte⁹ noch lebe und auf den Ruf nicht erscheinen werde. Mißtrauen in die Sache selbst, Zweifel in meine Kunst war das einzige Hindernis, welches¹⁰ ich nicht zu bekämpfen hatte.

Sobald die Einwilligung der Familie da war,¹¹ wurde der dritte Tag zu dem Werke angesetzt. Gebete, die bis in die Mitternacht verlängert werden mußten, Fasten, Wachen, Einsamkeit und mystischer Unterricht waren,¹² verbunden mit dem Gebrauch eines gewissen noch unbekanntes musikalischen Instruments,¹³ das ich in ähnlichen

3. wo は Abend につゞく関係副詞。4. ihr は Familie をうけて三格; Einwilligung zu etwas 或事に対する同意。5. sie = Familie; こゝの dahin は次の daß に關聯する。7. 簡単に云へば、Gräfin の取扱ひは一番むづかしかつたの義。8. einem zu Hilfe kommen 或人に来援する。9. 此 tot は形容詞; tot 死せるものとして geglaubt 信ぜられた人; lebe, werde は Kon-

をおびき出すべく、否むしろ家族自身が私に對して此願をするといふところへ、家族を知らず知らずの裡に導いて行くべく、或恐ろしい夕方を、——その夕方には、いつもの方法で、家族たちは私の周りに集まつてゐましたが——利用したのでした。われらは若い伯爵令嬢に於て、最もむづかしい局面を持ちました、然しその人の列席は非常に重要であつたのです。ところが此場合、彼女の激情の狂想的な翺翔が、われわれを助ける事になりました、そして恐らく、死んだと思はれ居る人(イエローモ)がなほ生きてゐて、呼び出しに應じて現はれて來ることはあるまいと云ふ期望の弱い微光が、なほ多くわれらの援助となつたでせう。この事柄そのものに對する不信用と私の技術に對する疑惑とは、それを私が征服する必要のなかつた唯一つの邪魔物でした。

家族の同意があるや否や、三日目の日がこの仕事のために確定された、中夜まで延長されなければならなかつたところの祈禱、それから斷食・不眠・孤獨及び神秘的な教へなどは、未だ人に知られない或種の樂器の使用と結びついて——この樂器を私は同じやうな場合に於ては、甚

junktiv; 動詞 hoffen, 名詞 Hoffnung を有する主文章につゞく副文章には、Konjunktiv を使用する。10. 不信や疑は邪魔物のやうだが、此場合却つて爲めになつたの義。11. da war とは「得られた」の義。12. この waren はが Prädikat であつて、verbunden 以下は、主語に關係する。13. これは 1763 フランクリンの發明した Glasharmonika を指す。

Fällen sehr wirksam fand, die Vorbereitungen zu diesem feierlichen Akt, welche¹⁴ auch so sehr nach Wunsch einschlugen, daß die fanatische Begeisterung meiner Zuhörer meine eigene Phantasie erhitzte und die Illusion¹⁶ nicht wenig vermehrte, zu¹⁷ der ich mich bei dieser Gelegenheit anstrengen mußte. Endlich kam die erwartete Stunde —“

„Ich errate,“ rief der Prinz, „wen¹⁸ Sie uns jetzt aufführen werden. — Aber fahren Sie nur fort — fahren Sie fort —“

„Nein, gnädigster Herr. Die Beschwörung ging nach Wunsch vorüber.“

„Aber wie? Wo bleibt¹⁹ der Armenier?“

„Fürchten Sie nicht,“ antwortete der Sizilianer, „der Armenier wird nur²⁰ zu zeitig erscheinen.“

60. „Ich lasse mich¹ in keine Beschreibung des Gaukelspiels ein, die mich ohnehin² auch zu weit führen würde. Genug,³ es erfüllte alle meine Erwartungen. Der alte Marchese, die

14. 此 welche は Vorbereitungen にかゝる。15. einschlagen 成效する; so.....daß さかゝる。16. これは自分の心におこる Illusion ではなく、他の人々におこる Illusion の義であらう。17. zu der の der は Illusion; Illusion を呼びおこすべく私が努力し (sich anstrengen) なければならなかつた云々。18. おんみは、やがて例のアルメニア人を引出すであらうと察してゐるの義。19. アルメニア人が顔を出さないやうだが、どうしたのか、何處にいつてるのか? 20. nur zu は時に遺憾の情をあら

効果あるものだと云ふ事を見出しましたが——この莊嚴な事柄に対する準備でありました。この準備はねがひ通りに大成功を納めましたので、私の聴衆の狂熱的な感激が、私自身の空想を刺戟し、この機会に於て、それを喚び起すべく私が努力しなければならなかつたところのイリュージョン(幻惑)を、少なからず増加した程でありました。到頭、待ち設けられた時間が來ました——』

『私は推測してゐます、』と公子は叫んだ、『今度はどんな人間を、あなたがわれわれに紹介するだらうかと云ふ事を。——然しまあお続け下さい——お続け下さい——』

『いえ、貴下。降靈式は望んだ通りに済んだのです』

『しかし、どうして? どこにアルメニア人はいつてるのです?』

『御心配なさいませぬ、』とシシリア人は答へた、『アルメニア人は、遺憾ながら、早く姿を現はしませう。』

六十、『私は手品のお話を初めません、そのお話はそうしやうと思はなくても、また餘り長くなるでせう。簡短に云ひますと、それは私の期待をみんな満したのです。老侯

はすこさがある; Das ist nur zu wahr. それは悲しいかな、本當だ; 本文の遺憾は、話者の遺憾をあらはす。

60. 1. sich in etwas [四] einlassen 或事を初める。2. ohne hin 「さうしやうと思はないでも」; 之に對して「云々であらう」と結ぶ時には、その動詞を Konjunktiv にする。3. [例] Genug, ich kann nicht! = [英] Suffice it to say (or In short), I cannot! 私には出來ぬと云ふだけでさめて置ませう (又は簡短に云ふと、私には出來ないので)!

junge Gräfin nebst ihrer Mutter, der Chevalier und noch einige Verwandte waren zugegen. Sie können leicht denken, daß es mir in der langen Zeit, die ich in diesem Hause zugebracht, nicht an⁴ Gelegenheit werde gemangelt haben, von allem, was den Verstorbenen anbetraf,⁵ die genaueste Erkundigung einzuziehen.⁶ Verschiedene Gemälde, die ich da von⁷ ihm vorfand, setzten mich in den Stand,⁸ der Erscheinung die täuschendste Ähnlichkeit zu geben, und weil ich den Geist nur durch Zeichen sprechen ließ, so konnte auch seine Stimme keinen Verdacht erwecken. Der Tote selbst erschien in barbarischem Sklavenkleid, eine tiefe⁹ Wunde am Halse. Sie bemerken,¹⁰ sagte der Sizilianer, „daß ich hierin von¹⁰ der allgemeinen Mutmaßung abging, die ihn in den Wellen umkommen lassen,¹¹ weil ich Ursache hatte zu hoffen, daß gerade das Unerwartete¹² dieser Wendung die Glaubwürdigkeit der Vision selbst nicht wenig vermehren würde, so wie mir im Gegenteil nichts gefährlicher schien, als

4. mangeln は、非人稱的に用ゐらる; Es mangelt mir an etwas. 私に或もの (etwas) が缺乏する。5. was etwas [四] anberifft, 或ものに關しては。6. Erkundigung einziehen 探りを入れる、探問する。7. 「彼を取扱へる」「彼を描ける」の義で、「彼が描ける」ではない。8. 在einen in den Stand setzen, etwas zu tun 或人に或事をなすこと得しむる。9. eine tiefe Wund は匹格で、文法で云ふ絶對的匹格である; 絶對的匹格には habend,

も、母親と一緒に若い伯爵令嬢も、騎士も、それからなほ二三の親戚達も、席につらなりました。私が此家で暮した長い時の間に、故人に關するすべての事に就いて、最も詳細な探究をする機会が、私には乏しくはなかつたと云ふ事を、あなたは容易く御考へになれませう。そこで彼について見出したいろいろの肖像畫は、幽靈に人目を欺くやうな類似を與へることを、私に可能ならしめました。そして私は只手眞似によつてのみ幽靈に話させましたので、其聲がいかなる疑惑をも引き起す事は、あり得ませんでした。故人そのものは、頸部に一つの深き傷を持ち、蠻國の奴隸の服をつけてあらはれました。あなたは、』とシシリア人は云つた。『私がこの場合、彼を波のなかで死んだとしてゐる一般の推測から離れた事にお氣づきでせう、それはこの變化の待ち設けられて居ない事こそ、幻影そのものへの信憑を、少なからず増すのだと信すべき理由を、私は持つてゐましたし、反對に、自然にあまり正直に

tragend ([英] having)を入れて考へる; (例) Den Hut in der Hand trat er ins Zimmer. 帽子を手に持つて (= habend, 彼は室へはいつて來た。10. von etwas abgehen 或ものから離れる、遠ざかる; 或ものを避ける。11. hatte unkommen lassen の義「死んだとした」「死んだものさきめた」12. das Unerwartete 待ち設けられざるこそ、意外な事 ([英] the unexpectedness); Wendung = Veränderung.